

平成24年度 セーフティネット支援対策等事業費補助金

社会福祉推進事業

山梨県内の生活困窮者の早期把握及び、行政等との協働による

新たなセーフティネット構築に関する調査・研究事業

平成25年3月

NPO法人フードバンク山梨

「山梨県内の生活困窮者の早期把握に関する実態調査」を終えて

フードバンク山梨理事長 米山けい子

まず始めに今回の調査にご協力いただいた多くの皆様に、心より深く感謝申し上げます。

昨年に引き続き行った今回の調査により、地域の中で生活に困窮している方々の実態を更に広く明らかにできた様に感じています。

又、フードバンク山梨の食糧支援を通して、そのような方々の声に真摯に耳を傾け寄り添っていく事の大切さを実感しています。

フードバンク山梨の食糧支援要請が増加している事の一因は、山梨県において7ヶ月続けて景況感が全国最下位である事や、空き家率、自殺率が全国ワースト1位となった事などが背景としてあるように思います。

「食のセーフティネット(山梨モデル)」は、まだ日本では始まったばかりの活動です。新しい活動であるが故に、一つひとつが手探りで課題も多いのですが、反面当事者や連携する方々(企業・行政・市民)と共に作り上げていける喜びも大きいと感じています。

これから、貧困や環境・地域福祉という多面的な社会的課題をフードバンク山梨がしっかりと地域で根付くことで、解決していけたらと思っております。

今回のアンケートを公開することで、身近に広がる貧困の深刻さに気付き、その解決に向けた一歩を踏み出してくださる方々が、一人でも増えることを願っています。

目 次

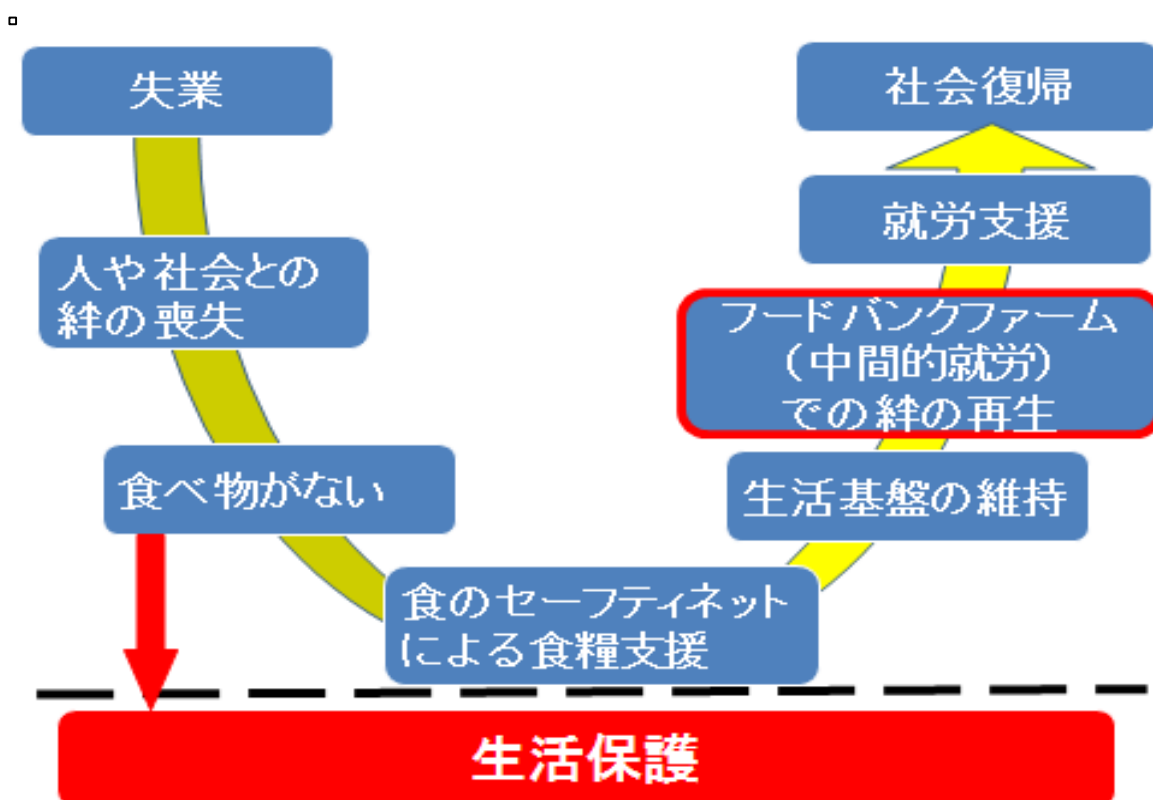
「山梨県内の生活困窮者の早期把握に関する実態調査」を終えて・・・・・・・・	1
1 行政等の社会資源との協働の推進	
1.1 中間的就労支援としてのフードバンクファームの取り組み・・・・・・・・	3
1.2 伴走型相談援助の研修と実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	19
1.3 シンポジウム「現場から問う生活支援のあり方」研修・・・・・・・・	22
2 先進事例視察	
2.1 豊中市パーソナルサポートセンター（大阪府）・・・・・・・・	23
2.2 北九州ホームレス支援機構、抱樸館福岡他（福岡県）・・・・・・・・	25
2.3 富士 POPOLO ハウスと脱貧困サポート研修（静岡県）・・・・・・・・	31
資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33
3 フードバンクフォーラム「国策としてのフードバンク」開催・・・・・・・・	45
4 生活困窮者の早期把握に関する実態調査報告書・・・・・・・・	109
①フードバンク山梨利用者に関する実態調査・・・・・・・・	113
②連携機関に関するアンケート調査・・・・・・・・	171
③未把握群の調査・・・・・・・・・・・・・・・・	195
④まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・	205
5 考察	
健康科学大学 健康科学部 福祉心理学科 講師 川村岳人・・・・・・・・	211

1 行政等の社会資源との協働の推進

1.1 中間的就労支援としてのフードバンクファームの取り組み

フードバンクファーム（中間的就労）の実施によりこれまでの食糧支援の効果と合わせて、描ききれなかった自立への道筋を描くことができました。

熱心に参加いただいた当事者の皆さんはもちろん、延べ 151 人にもものぼるボランティアでご参加いただいた方々、農業指導と共にコミュニケーション作りにご尽力いただいた方等、多くの皆様の汗と温かい心があつてからこそ 9 ヶ月という短い期間において、以下に報告致します多くの成果を上げることが出来ました。心より深く感謝申し上げます。



1. フードバンクファーム（中間的就労）の位置づけ

- ① 生活困窮者、ホームレス、生活保護受給者を対象とする遊休農地を活用した中間的就労としての農作業。
- ② 失われた人や社会との絆を再生し、孤立や貧困から抜け出すための最初のステップとしての社会参加機会。
- ③ 孤立している当事者の前向きに生きる活力や生活リズム、自尊感情や就労意欲の向上を目的として実施。
- ④ 農作業に対して賃金は支払われないが、食料の現物支給は生活基盤の維持を目的として行う。
- ⑤ 就労意欲が向上した参加者には就労支援を行い一般就労を目指す。

2. 孤立している困窮者、生活保護受給者の現状

自尊感情が低下した困窮者や長期離職者に、現在の生活環境を改善するために就労の必要性を説いても考え方は変わらない。それだけでやる気を取り戻し、就労を目指すならばこのような中間的就労の場はそもそも必要ない。

人は他人の目や、他者とのコミュニケーションを通して自分を客観的に見ている部分が多い。一人で孤立していることが多い困窮者や、生活保護受給者は人との交流が少ないため、自らの置かれた立場に対する客観的な視点が失われているように思える。また、自らの置かれた立場を十分に認識している場合でもなんとかしなくてはならない、現状から抜け出したいと思いながらも自立に向けた一歩を踏み出せないでいる。

3. なぜ行動できないのか

- ① 過去の職場において人間関係などの失敗がもとで心に傷を負い、再び社会に戻ることを恐れている。
- ② 数回就労を断られただけで就労を諦めている。どうせ自分にはできない、無理だと考えている。
- ③ なんとかしたいと考えているが行動できない、何をすればいいのかわからないと悩んでいる。

いずれのケースでも自尊感情の低下や、後ろ向きな思考が共通して見られる。フードバンクファームの目的は低下した自尊感情を向上させ、前向きな思考に変えることである。

4. 居場所としてのフードバンクファーム

参加者全員が一般就労を目指している訳ではない。フードバンクファームには 65 才前後の方も参加している。そういった方にとってもファームは人と人との交流の場所になっており、生き生きと活動ができる居場所や社会参加の機会として機能している。

5. 相談員との関係性

フードバンクファームでは相談員も農作業と一緒にいき、参加者と一緒に昼食を食べる。共に汗を流し、同じ釜の飯を食べることで参加者と相談員の距離感は非常に近くなる。1、2 回農作業を共に行うだけで、お互いに言いたいことを遠慮せずに言い合える親しい関係性を築くことができる。

6. 中間的就労により得られた成果

① 規則正しい生活リズム、食習慣の良い変化

農作業の実施は火曜日と金曜日の週 2 日であるが、

- ・ファームのある日の前日は翌日に備えて早く寝る。
- ・当日は農作業を通して適度な運動を行い夜は早めに寝る。
- ・翌日は前日早めに寝たので早めに朝起きる。

となると、当日だけでなく前後 2 日間にも良い影響がでるため、週 2 日でも十分規則正しい生活リズムを取り戻すことができると考えられる。また、生活困窮者やホームレス、生活保護受給者は栄養バランスが崩れている場合が多いので、昼食時には栄養面を考えてパンやお弁当に加えて簡単なサラダを用意した。フードバンクファームの昼食でサラダを食べるようになってから、家でもサラダを作り食べるようになったなど日常生活における食習慣の変化も見られた。食事の準備や片付け、事務所の掃除などの経験が日頃それらを習慣的に行うことのない参加者の、日常生活自立にも役立つ事がわかった。

② 基礎体力の向上

困窮者や生活保護受給者は、家の中に閉じこもりがちな生活を続けている場合が多く、基礎体力の低下が見られる。フードバンクファームで農作業を行うことで一般就労に必要な最低限の基礎体力を取り戻すことができる。

③ 他者とのコミュニケーション能力の向上

フードバンクファームに参加し仲間と共に食事や農作業を行い、作業中や休憩時間、などに頻繁に会話する事で、協調性やコミュニケーション能力などの社会性を取り戻すことができる。またフードバンクファームには大学生や地域のお年寄りなど幅広い年代層の方々にボランティアとして参加していただいた。そのような方々との交流も、社会性が向上するにあたって大いに役立ったと考えられる。

④ 成功体験の共有、就労意欲の向上

これまでの就労支援では一人ひとり個別に就労支援を行い、就労を目指す困窮者や、生活保護受給者は他人の状況については全く情報がないというのが一般的である。しかしフードバンクファームでは一つのコミュニティの中で自分と同じような境遇に置かれた他者の就労活動の状況を知ることができる。一人が就労したという成功体験を全員で共有できるのである。

自分と同じ、または自分より恵まれない境遇の人が実際に就労することで大いに勇気づけられ、自分でもできるという希望を持つことができるようになり、結果的に就労意欲が向上する。他者の成功を共有できるというのは、他者との関係が全くない人に個々に就労支援する場合と比べると大きく異なる点であり、優位性でもある。

⑤ マイナス思考からプラス思考への転換

農作業を楽しく行い、昼食や休憩時間に談笑し、日々の生活が楽しいと思えることで、前向きに生きる活力や就労意欲が自然と湧いてくる事がわかってきた。実際に就労活動を開始した参加者へのヒアリングの中で、以下の意見を聞くことができた。

- ・ファームに来ることが楽しみで、みんなと一緒にいると和む
- ・ファームに来るようになり生活にメリハリがでて、もう一度仕事をしたいと思えるようになった。
- ・実際に他の人が就労したのを見て自分でもできる、もう一度頑張ろうと思えた。
- ・誰にも迷惑をかけずに最後は一人で死ねればいいと思ってホームレスをしていたが、もう一度頑張ってみようと思った。

- ① 規則正しい生活リズム、食習慣の良い変化
- ② 基礎体力の向上
- ③ 他者とのコミュニケーション能力の向上
- ④ 成功体験の共有、就労意欲の向上
- ⑤ マイナス思考からプラス思考への転換

①～⑤の成果は一般就労を目指すにあたって必要な要素であり、中間的就労を通してこれらの要素を養える事がわかった。

特筆すべき点は③、④、⑤の、特に一般就労に必要と考えられる要素が、人と人との関係性を再構築した結果として得られるという点である。

7. 前向きな思考や就労意欲の向上等、当事者本人の思考を変えるために必要な2つの要素

- ・人と人との絆を作り出すこと
- ・日常を楽しく生きること

最初は会話がない参加者も、農作業を通して自然と会話が始まり、お互いの悩みを話せるようになり、たわいのない話から笑いが生まれるようになる。

同じ様な境遇の人が多く、お互いが良き理解者となり他人には話せないようなことも相談できるようになる。このような人間関係は家の中に一人でいては決して得ることはできない。そして人との交流の場を通して楽しく活動し、人生が楽しいと思えるようになって初めて、もう一度一般就労に向けて頑張ってみようという気持ちになれるのである。以上のことから他者との絆を再生することが孤立している人間にとって如何に重要かが理解できる。活動を通して自立に向けた初段階において、人と人との関係性を取り戻すことが極めて重要であるという事が明らかになった。

8. 就労支援

・一般就労自立3名

男性 57 才（ホームレス、甲府市）

男性 64 才（ホームレス、甲府市、連携団体やまなしライフサポートの就労支援による）

男性 44 才（生活保護受給者、甲斐市福祉課からの紹介）

・就労活動開始

男性 57 歳（失業保険受給中、甲府市）

女性 54 歳（南アルプス市）

女性 51 歳（生活保護受給者、南アルプス市福祉総合相談課が就労支援を担当）

就労支援により3名が一般就労に繋がった。3名のうち1名はフードバンク山梨と日頃から連携のある、ホームレス支援団体やまなしライフサポートの就労支援によるものである。

また、中間的就労により就労意欲の向上した参加者3名が新たに就労活動を開始した。

9. 課題

① 一般就労や日常生活自立した方々へのアフターフォローの重要性

一旦就労につながっても職種や職場が合わず辞めてしまう方々もいる為、フードバンクファームはいつでも戻れる安心できる居場所である必要がある。

② 送迎

車の台数とドライバーの人数から、一度に参加できるのは最大で10人であった。多人数が乗れる送迎用の車を確保し効率的な送迎手段やルートなどを再構築し、より多くの人が参加できるような体制にしたい。

③ 参加対象者の選定及び参加期間の設定

初年度ということもあり参加期間や年齢、居住地、生活保護受給有無等を参加対象者の選定において特に条件を設定しなかった。参加対象者を明確にするためにも、参加期間や参加者の選定基準を設けるべきと考えられる。

④ 理解のある雇用先の開拓

就労先は主にハローワークからの紹介が主であったが、事業主の困窮者や、ホームレス、生活保護受給者への理解や配慮はほとんどない。そのような方々に理解のある雇用先を開拓することが当事者の自立への近道にもなり、結果として困窮者、生活保護受給者に対する理解や思いやりのある社会形成に繋がっていくと考えられる。今後はハローワークとの連携に加え、独自に雇用先の開拓も行う必要がある。

⑤ 住居の確保

フードバンク山梨では食品は潤沢にあるので、生きていく上で必要な最低限の食糧支援は行うことができた。しかし被支援者がホームレスの場合住居がないという事が自立に向けて大きな妨げとなった。住居の確保に関してはフードバンク山梨独自では出来なかったため、連携団体であるホームレス支援団体やまなしライフサポートに協力していただいた。今後は他団体との連携をより一層強化し、お互いの長所を出し合い協力して行くと共に、ハローワークの住宅手当や社会福祉協議会の総合支援資金など、様々な公的支援制度を十分に活用していく必要がある。

⑥ 保証人の確保

ハローワークから紹介される雇用には保証人が必要となる場合が少なくない。家族との縁も切れ、他に頼る人がいない困窮者にとって保証人の確保は非常に難しい。ホームレスの住居確保においてもそうであるが保証人をどのように確保するかという課題に関しては、他県で生活困窮者の自立支援を先進的に行っている NPO などの取り組みを参考に、フードバンク山梨ではどうするかということを検討していきたい。

このように実際の活動を通して見えてきた課題を正しく認識し、向き合い、その解決に向けて力を尽くすという姿勢が今後貧困問題を解決していく上で必要不可欠である。

フードバンクファーム作業記録

■ 2012年7月



作業後の振り返り



畑の石拾い



花苗の鉢上げ作業



休憩用テントの設置

- NPO 法人やまなしライフサポート紹介で4名、南アルプス市福祉事務所紹介で3名、計7名の参加者からスタート。
- NPO 法人南アルプスファームフィールドトリップ仲介により、南アルプス市曲輪田地区に約2反の畑を借りる。これまで数年間使われていなかった畑のため、石、ガレキなどがたくさん落ちており、それらを拾う。
- 畑を平坦にするために、スコップと一輪車を用いて水平にした。
- セルトレーにコスモス、オダマキ、カモミール、ひまわりの種まきを行った。
- 牛糞堆肥を施肥した。

■ 2012年8月



野菜収穫体験



除草作業



トマト定植



マリーゴールド定植

- NPO 法人南アルプスファームフィールドトリップよりトラクターを借りて、耕うん作業を行う。鋤を使い手作業でも耕した。
- 畑の南側に大豆（山梨県身延町特産曙大豆）を播種。
- 南アルプスファームフィールドトリップの農園にて収穫体験。なす、パプリカ、トマト、メロン等を収穫した。
- 食用メロンの種を試験的に蒔いたところ、芽が出たため畑に定植。
- 畝を2つ作り、ニンジン、小松菜を播種。

■ 2012年9月



遊休農地の除草作業



コスモス定植



コスモス鉢上げ



物置組立

- セルトレーに蒔いたコスモス鉢上げ。5cm 程度に成長した苗をポットに移植する作業
- ポットで 20cm 程度まで育てた苗を畑に定植した。
- 周辺の耕作放棄地を刈払い機で除草した。地主が高齢のため管理できずにいた水田。
- 周辺の山林で落ち葉拾い。
- カモミール、なでしこをセルトレーに定植。

■ 2012年10月



満開のコスモス



白菜定植



コスモス畑の中に通路を設置



コスモス定植



ミニトマト収穫

- セルトレーで育苗した白菜を定植し、防虫ネット設置。その上から霜対策として寒冷紗を設置した。
- 引き続きコスモス定植作業。鍬で溝を掘り、約 10cm の間隔で定植。
- 先月除草した畑をトラクターで耕うんし、マルチを設置。マルチカッターで穴を空けて、大根、ほうれん草を播種。
- コスモス畑内の通路を明確にするために、竹で柵を設置した。通路幅は約 80cm。
- ミニトマトを収穫し、食のセーフティネット（困窮者への食糧支援）に活用

■ 2012年11月



摘み取ったコスモスを近所にプレゼント



ニンジン収穫



コスモス畑片付け



畑でカレーを調理



コスモス摘み取り体験



近隣公園の落ち葉清掃

- ・ ニンジン収穫し、畑でカレー作りを行う。羽釜でご飯を炊いた。
- ・ 周辺の山林、公園で落ち葉を拾い、畑に撒いた。
- ・ 近隣の小学校や公園で落ち葉清掃を行った。
- ・ コスモスを摘み取り、近隣住宅にプレゼント。
- ・ コスモス摘み取り体験開催。のべ24名が参加した。
- ・ 甲府の舞鶴城公園より落ち葉をいただく。軽トラックで引取に行く。

■ 2012年12月



トマト片付け



寒冷紗設置



2万3000球のチューリップを定植



鍬で溝を掘りチューリップ定植

- 2万3000球のチューリップを定植。鍬で溝を掘り、約10cm間隔で植えた。
- 霜が下りたため、トマト片付けた。支柱を取り外し、マルチを剥がした。
- 霜対策として、大根、ほうれん草、白菜に寒冷紗を二重で設置した。
- コスモス、マリーゴールドの種を自家採種し来年使うために保管した。
- マルチにマルチカッターで穴を開け、にんにくの定植を行った。
- 第7回フードバンクの賞味期限をチェック。
- 隣の畑の丸太原木をいただき、斧で薪割りをを行った。
- チューリップをプランターにも植えた。開花後公共施設に設置していただく予定。

■ 2013年1月



寒冷紗設置



近隣公園の落ち葉清掃



綿花収穫体験



チューリップ畑に竹柵設置

- 南アルプスファームフィールドトリップで、綿花の収穫体験。
収穫が終わった株を引きぬき片付けた。
- 先月に引き続き、大根、ほうれん草に寒冷紗を設置。
- 近隣の公園、神社の落ち葉清掃。
- チューリップを植えた場所に立ち入らないように、竹柵を設置した。
- 白菜を収穫。結球していないが、青々している。
- 白菜、大根、ほうれん草に設置した寒冷紗のポールが雪で折れてしまい修復。
- 神社の落ち葉を拾いビニール袋に詰める。拾ったものは畑に移動した。
- セルトレーに植えた水菜をポットに鉢上げした。NPO 法人南アルプスファームフィールドトリップが所有する温室ビニールハウスに移動した。
- 食のセーフティネットで使用するお米を無人精米所で精米し、2kg ごとに袋詰めした。

■ 2013年2月



ビニールハウス移築作業



小松菜収穫



チューリップ発芽



ビニールハウス移築作業

- ビニールハウス移築作業開始。コンクリート基礎は設けず、地面に直接ポールを打ち込んだ。結束器具は使用せず、番線でポール同士を結束した。
- ビニールハウスポール根本の錆びている部分を切断し、防腐目的でペンキを塗装
- 小松菜の寄付があり、収穫。ビニールハウス1棟分、すべて寄付していただいた。収穫した小松菜は食のセーフティネット事業で使用した。
- そら豆のマルチを剥がし、除草を行った。
- 玉ねぎ周辺の草取りを行った。
- 番線を 42cm にカットし、ビニールハウスポール結束用に加工した。

■ 2013年3月



ビニールハウス移築作業



じゃがいも定植



ビニールハウス移築作業



大根収穫

- 継続してビニールハウス移築作業。
- 約 100kg のじゃがいも定植。キタアカリとメークイーン。
- 大根を収穫、葉は落とさず新聞紙でくるみ、食のセーフティネットに活用
- ビニールハウス用のビニールに穴がたくさん空いており、補修テープで修復。
- 暖かくなってきたため、大根、白菜の寒冷紗を撤去。ほうれん草の寒冷紗は残した。

フードバンクファーム作業記録

	実施日	作業内容	参加者数	ボランティア参加者数
1	7月13日	石拾い、草刈り	7	0
2	7月17日	石拾い、テント張り	5	1
3	7月20日	石拾い、種まき	8	1
4	7月24日	整地	7	1
5	7月27日	整地	7	1
6	7月31日	整地、種まき	7	1
7月小計			41	5
7	8月3日	マルチ設置	5	1
8	8月8日	トマト定植、鉢上げ	6	1
9	8月10日	開墾、鉢上げ	6	1
10	8月14日	コスモス定植	7	0
11	8月21日	収穫体験	8	8
12	8月24日	鉢上げ、種まき	5	1
13	8月28日	種まき、鉢上げ	8	1
14	8月31日	種まき、鉢上げ	6	2
8月小計			51	15
15	9月4日	コスモス定植、種まき、鉢上げ	8	2
16	9月7日	コスモス定植、種まき、鉢上げ	8	2
17	9月11日	コスモス定植、種まき、鉢上げ	6	2
18	9月14日	物置組立、コスモス定植、鉢上げ	7	2
19	9月18日	コスモス定植、鉢上げ	6	2
20	9月21日	玉ねぎ種まき、コスモス定植	8	2
21	9月25日	コスモス定植、鉢上げ、草刈り	6	2
22	9月28日	コスモス定植、鉢上げ	7	2
9月小計			56	16
23	10月2日	鉢上げ	8	2
24	10月5日	鉢上げ	7	6
25	10月9日	コスモス定植、鉢上げ	7	2
26	10月12日	竹伐採、マルチ設置、メロン収穫	7	7
27	10月16日	コスモス定植、種まき、白菜定植	9	2
28	10月19日	マルチ設置、コスモス定植	8	2
29	10月23日	雨天中止	0	2
30	10月26日	枝豆収穫	6	4
31	10月30日	草刈り、ひまわり種採り	7	2
10月小計			59	29
32	11月2日	ぎんなん拾い、さつまいも掘り	8	2
33	11月6日	ずんだ作り、お米袋詰	6	2
34	11月9日	焼き芋	7	3
35	11月13日	コスモス摘み取り、石拾い、落ち葉拾い	7	2
36	11月16日	ほかほかハート祭り参加	8	2

37	11月20日	大根種まき	8	3
38	11月27日	コスモス片付け	8	2
39	11月30日	カレー作り、落ち葉まき	9	5
		11月小計	61	21
40	12月4日	ひまわり種採り、寒冷紗設置	6	2
41	12月7日	クリスマス会、寒冷紗設置	7	4
42	12月11日	チューリップ定植	7	2
43	12月14日	チューリップ定植、トラクター納車	9	2
44	12月18日	チューリップ定植	7	2
45	12月21日	チューリップ定植	7	3
46	12月25日	カレー作り	7	2
		12月小計	50	17
47	2013年1月8日	寒冷紗設置、精米、みそ袋詰	6	2
48	1月11日	マリーゴールド種採り、落ち葉掃除、米袋詰	5	3
49	1月15日	雪のため中止	0	0
50	1月18日	綿花収穫	7	3
51	1月22日	精米、米袋詰	5	1
52	1月25日	マルチはがし、水菜定植	6	2
53	1月29日	落ち葉掃除	7	2
		2013年1月月小計	36	13
54	2月1日	ビニールハウス組立	7	2
55	2月5日	ビニールハウス組立	5	3
56	2月12日	ビニールハウス組立	6	2
57	2月15日	番線づくり	5	1
58	2月19日	小松菜収穫	5	1
59	2月22日	ビニールハウス組立	7	5
60	2月26日	ビニールハウス組立	8	2
		2月月小計	43	16
61	3月1日	ビニールハウス組立	8	3
62	3月5日	じゃがいも定植、小松菜収穫	5	2
63	3月8日	ビニールハウス組立	5	3
64	3月12日	ビニールハウス組立	8	2
65	3月15日	ビニールハウス組立、寒冷紗はがし	8	2
66	3月19日	大根収穫、竹柵設置	8	2
67	3月22日	交流会	7	5
		3月月小計	49	19
		総計	446	151

1.2 伴走型相談援助の研修と実施

研修先を行政機関と民間団体とし、相談支援員と就労支援員を対象に当事者の心理解と技術的スキルアップ研修を行なった。相談支援員は、行政機関において地域の社会資源との連携と公的機関の支援を学び、就労支援員は、民間の視点からの寄り添い支援を学んだ。

次に生活保護一步手前の人を対象にフードバンク活動を核と包括的自立促進支援モデル（山梨モデル）の継続的な事業展開を推進するにあたり、生活支援のあり方に関するシンポジウムに参加した。

～行政機関～ 当事者面談から学ぶ

事例内容

40歳代の夫婦と未成年の子ども5人を含む9人世帯。食品個人宅配回数31回。月2回食品を送るも不足することが多く、この間、直接フードバンク山梨に数回連絡があり、緊急支援として食品を渡すこともあった。夫は身体障害者（腰痛）で年金受給が6万円、派遣社員として5万円。妻は土日パート勤務で4～5万円収入があったが、腰痛のため離職。借金もあり、経済的に困窮している。奥さんの就労について相談を行う。

今後の展望

収入を増やす方向で一致。妻からは、ハローワークで求職活動を始めることと、定時制に通う高校生にも就労支援を始めて欲しい旨、要望あり。食糧支援については、状況を見ながら続けていく方向。（その後、奥さんがお弁当屋さんにパートとして就労決定した。）

参加者所感

（花輪由記子）

長男がアルバイトを始め、家にお金を入れるようになり、又、奥さんの収入も安定したので、食糧支援は終了できた。（2012年6月）しかし、夫が仕事を辞めたので、今後子供達の成長に伴い教育費もかかるうえ、金銭感覚も低いので、限られた収入で生活を維持する事が困難に思われる。（家計簿の記帳を勧めた。）

（河野有良）

世帯主の勤労意欲が低く、支援の方向性につかめ難い印象である。利用者・行政を含めた3者で考えることが大切と思う。利用者の生活実態を直接聴きニーズを把握することは、特に、長期に渡る食糧支援事例について、その要因を探る上で重要である。また、行政の視点から見た生活改善のあり方を学べた。

目的：行政の相談支援の現場に同席

日時：2012年8月21日（火） 13時～15時

場所：南アルプス市役所本庁1階 福祉総合相談課 相談室

出席者：当事者夫人、南アルプス市職員2名

参加者：花輪由記子（相談支援員）、河野有良

研修後に生活相談支援を実施

事例内容

70歳代の母と50歳代の独身息子の二人暮らし。母親の年金6万円と息子のバイト代で生活しているが、家賃が5万円なので生活が困窮している。市の就労支援も受けてきた。

今後の関わり

食糧支援を3ヶ月、6回送り、その後、生活保護を受給したので終了。息子には就労意欲があり、又、大型免許や溶接免許も保有しているので、ハローワークに通っている。（2013年1月に就労できた）

息子の給料で生活が安定するので、生活保護から脱却できる。（2013年3月で終了予定）

参加者所感

- ・家賃が高いので引越しする希望がある。今後、費用を用意できたら実現を考えている。
- ・二人共持病があるので健康を損なわないよう、生活を整える必要がある。
- ・母親は、生活の立て直しに真摯に取り組んでいるが、息子は飲酒に逃げる傾向があり、母子のトラブルの原因となっている。会話が余りもたれないのが気になる。

日時：2012年11月21日、12月4日、7日、26日の4日間。

場所：当事者自宅

参加者：花輪由記子

～NPO法人やまなしライフサポート実地研修～

目的

生活困窮者の発見や福祉事務所・ハローワークへの同行等を通して、ひとりの人間の人生に如何に関わるかを、民間の視点から学ぶ。

現状

家賃を3ヵ月分、105,000円滞納。今月も支払いができないと出て行かないといけなくなるかもしれない。無銭飲食で逮捕されて刑務所に入っており、出所後病院で介護関係助手の仕事をしていた。保証人が2名必要であったが、1人しかいなかったのでは解雇されたと本人は言っていた。

所感

(米山広明)

もともと保証人は1名で雇用されていたので、保証人が1名しかいなくて解雇されたというのは、少々矛盾があると思われる。本人の話から、仕事を解雇されたのは職場での人間関係がうまくいかなかったことと、無断欠勤などの勤務態度が原因と考えられる。

車の免許や資格、保証人もいない。住所を失うとさらに就労が難しくなる。収入の見込みがあれば、住む家を出されずに済むが、ハローワークでの仕事は車の免許や保証人が必要な場合が多く短時間のパート、アルバイトぐらいしか選択肢がない。

山梨県では厳しい雇用情勢を背景に、このような社会的弱者には低収入で、不安定な雇用しか選べない現実がある。介護の仕事を本人は希望しているが、介護ヘルパーの資格もないため老人ホームなどの介護事業所では雇ってもらえない。介護ヘルパーの資格がなくても介護助手として病院では雇ってもらえることもあるが保証人が必要。

フードバンク山梨の食糧支援を受けていれば無銭飲食をしないで済んだかもしれない、早期の相談、就労支援ができていれば、このような状況に陥らずに済んだのかもしれないと思った。住まいを失いどうにもならなくなったら生活保護しか選択肢がなくなってしまう。

こういった状況に陥らないように生活保護以前の第2のセーフティネットとして、早期の食糧支援や相談、就労支援などの必要性を強く感じた。

日 時：2012年9月13日 9：00～10：30 後日ハローワーク動向支援を実施
場 所：甲府カトリック教会 (山梨県甲府市)
担当者：NPO法人やまなしライフサポート 事務局長 木村輝三氏
研修者：フードバンク山梨相談員 米山広明

1.3 シンポジウム「現場から問う生活支援のあり方」研修

参加の意義

フードバンク山梨では、食のセーフティネットと福祉的視点を取り入れた就労準備支援を組み合わせた山梨モデルを推進している。この山梨モデルを全国各地域の実情に合わせて適用できるのではないかと考えている。一方、国の政策では、社会保障審議会「生活困窮者の生活支援の在り方に関する特別部会」において議論された「総合相談支援センター（仮称）構想」が、経済的困窮者・社会的孤立者への支援として取り上げられている。

日時：2013年3月2日（土）13時～16時30分

場所：東京都千代田区六番町15番地 主婦会館プラザエフ9階会議室「スズラン」

主催：行政の生活再建対策の充実を求める全国会議、セーフティネット貸付実現全国会議

参加費：1名1000円

参加者：米山けい子、米山広明、河野有良の3名

内容：

1、生活再建の現場からの報告

①青山定聖氏（熊本県弁護士会 弁護士）

②吉田文子氏（グリーンコープ生協やまぐち 生活再生相談室 相談員）

2、基調講演

「生活支援戦略における総合相談支援センター構想について」

熊木正人氏（厚生労働省 社会・援護局地域福祉課 生活困窮者自立支援室室長）

3、パネルディスカッション「行政の生活支援のあり方を考える」

パネラー：

熊木正人氏（厚生労働省 社会・援護局地域福祉課 生活困窮者自立支援室室長）

新里宏二氏（日本弁護士連合会 多重債務問題ワーキングチーム座長 弁護士）

鈴木晶子氏（一般社団法人インクルージョンネットよこはま 理事）

生水裕美氏（滋賀県 野洲市 市民部 市民生活相談室 主査）

コーディネーター：

藤森克彦氏（みずほ情報総研株式会社 主席研究員）

2 先進事例視察

2.1 大阪府豊中市パーソナル・サポートセンター(TPS)

目的と意義

フードバンク山梨がフードバンク団体の中で先駆的に取り組んでいる行政との連携では、官民の垣根を超えて個別のケースに応じたチーム支援が必要であり、その実例を学ぶ。一方で、本事業内で新たに実施する中間的就労の場「フードバンクファーム」に関して、一人一人が真に自立するために必要なサービスを創り出す取り組みを学ぶ。

何を学ぶか

- ・ファーム後の出口戦略

フードバンク山梨では、中間的就労の場としてのフードバンクファームをスタートしたが、出口開拓が十分であるといえない。TPSの取り組みから、就労支援のあり方を学ぶ。

- ・ヒアリングでのアセスメントを重視

利用車の主訴からニーズを把握し、生活上の阻害要因を特定することが、アセスメントにおいて必要である。課題を見つけ、修正していく作業過程を学ぶ。

特色

1) アセスメントでニーズを見極める見立て

初回面接において、いかに的確なニーズを把握するかが、その後の支援、ラポールの形成に影響を及ぼす。経験豊富な専門家チームによるケース会議が毎週行われ、経過報告・今後の方向性が議論されている。TPSでは、地域の社会資源とのつながりを重視し、TPS内に抱え込んでいない点が特徴である。

2) 出口開拓を重視

一般市民からの直接相談でなく、既存の相談窓口から受け付ける方式をとる。組織は「ケース応援チーム」（短期間で就労阻害要因を見立て支援策を立案）と「出口チーム」（利用者と就労先とがミスマッチのない形で出口に誘導）からなり、PS後の選択肢の開拓に力を注いでいる点が特色である。利用期限を6ヶ月に区切り、短期間でスピーディーに最適な社会資源へつないでいる。

3) 企業も応援する体制

出口開拓先の企業を支援することができるので、企業とのネットワークが広がり、就労先の確保に効果的である。

4) 新しい社会資源の創造 ～銀座食堂の挑戦～

豊中市庄内は、庶民の街。センター向かいの豊南市場は、活気に溢れており、ここ

での足は、自転車である。雇用状況の厳しい中、情報の輪サービス代表取締役 佐々木氏は、シングルマザーの就労先「銀座食堂」を立ち上げ、6名が働いている。特徴は、ワークシェアリングで就労機会を広げていることと、ランチを3種類とすることで、効率良く提供できることが上げられる。

課題は、ランチ880円の価格見直しであるが、立ち上げから5年間は赤字が続いたことを考えると難しい問題である。

5) 39件、288人、11億円の緊急雇用創出事業

平成23年度緊急雇用創出基金事業では、39件の内示を受けている。担当課は、全て豊中市・市民協働部雇用労働課であり、行政との連携が進んでいると思われる。

6) TPSの課題 「医療機関との連携」

客観的診断が必要なケース増加により、医師による診断の必要性が大きくなっている。見立ての際、発達障害や精神疾患が疑われるケースが増加しつつある。現状では、地域の社会資源に精通した看護師が毎週火曜日に勤務しているが、十分とはいえず、医療機関とのネットワーク構築が急務と思われる。

参加者報告

(米山けい子)

今回の豊中市パーソナル・サポートセンター(TPS)視察はこれからのフードバンクの在り方について多くのアイデアとヒントを頂いた。さらに、フードバンク山梨が厚労省に提案していく内容に大きな良い影響を及ぼす視察となった。

TPSは活動視点の広さと国の緊急雇用創出事業39を活用し288人の雇用を実現した事に驚かされた。

また母子家庭への支援事業は母親たち自らが、銀座食堂というレストラン事業を営し運営している。そこにも見られるようにTPSの素晴らしさは、支援後自ら雇用を創出し、出口支援を充実させている事である。

また、この視察に誘って頂いきフードバンク山梨を、いつも心にかけて下さる齋島さんに感謝申し上げたい。

(米山広明)

豊中市パーソナル・サポートセンター(TPS)の特徴としては支援員の専門性と求人開拓があげられる。社会福祉士、看護師、臨床心理士、精神保健福祉士等を配置し、様々な問題を抱える相談者にそれぞれの専門性を最大限に生かした支援を行っている。出口の就労支援ではハローワークだけに頼らず、相談者一人ひとりに合った求人先を自ら開拓している。

また豊中市では緊急雇用創出基金事業を最大限活用し、一般就労前の訓練的な就労の中間的就労や、就労意欲を高めるための意欲喚起事業を多数実施している。

(塩澤拓郎)「豊中パーソナル・サポートセンターについて」

A) 多様な出口の開拓

地域就労支援センター、無料職業紹介所等と連絡して、多様な出口を開拓している。

B) 多様な事業展開

重点分野雇用創出事業、地域人材育成事業、震災等緊急雇用対策事業の三区分から、合計39の事業を行なっている。担当課は主に、豊中市市民協働部雇用労働課。予算合計約11億3800万円、288人の雇用を創出。



写真左) 個人商店が元気な商店街。中) 銀座食堂入口。右) TPS内意見交換。

視察概要

日時：平成24年8月6日(月) 11時—18時、7日(火) 10時—12時

交通手段：自動車(山梨県～豊中市)

場所：豊中市パーソナル・サポートセンター(大阪府豊中市庄内)

銀座食堂(大阪府豊中市庄内東町1-9-17)

参加者：4名(米山けい子、米山広明、塩澤拓郎、河野有良)

担当者：西岡正次氏(豊中市パーソナル・サポートセンター 所長)

佐々木妙月氏(情報の輪サービス株式会社 代表取締役)

2.2 特定非営利活動法人北九州ホームレス支援機構、 抱樸館福岡、フードバンク九州

A 特定非営利活動法人北九州ホームレス支援機構

目的

視察先は、事業内容を①いのちを守る基礎的支援、②自立支援、③ホームレスを生

まない社会の形成、の3部門に分けて重層的な支援体制を形成している点と地域の社会資源と協働・連携している点にある。この取り組みを学ぶことで、衣食住がぎりぎりの中で日々の生活を営んでいる山梨の生活困窮者へ「あなたは独りではない。私達がっている。」というメッセージ込めた支援を充実させる。

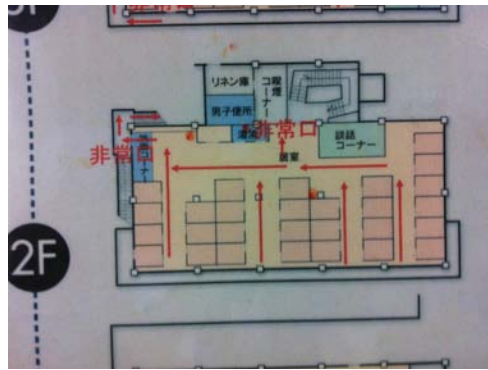
内容

ホームレス自立支援センター北九州

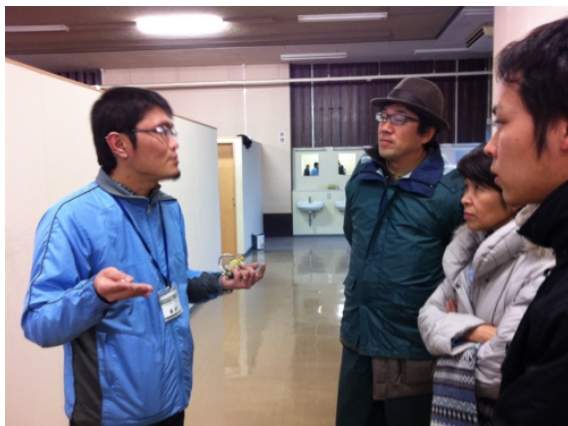
就労自立を目的とした「自立支援センター北九州」（50名定員）の運営委託を受け、「巡回相談」および「生活相談指導」の働きを担う。

＊ホームレス自立支援センター北九州（平成16年9月開所）

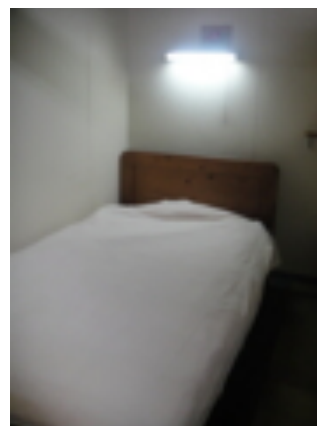
利用期間：原則として6ヶ月以内



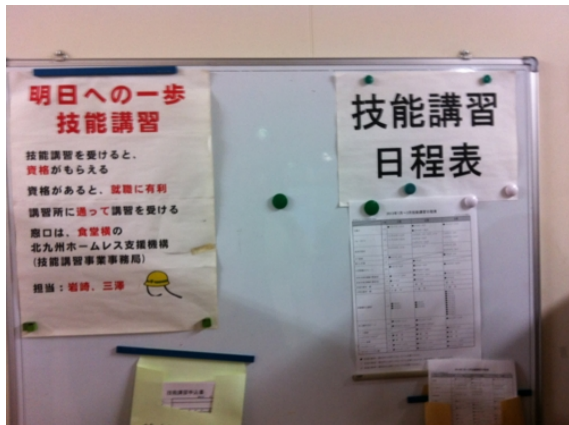
2、3階が個室となっており、合わせて定員50名である。6ヶ月間の利用期間後も、生活相談や支援を1年間受けられる。



（左）施設次長 森氏から説明を受ける。



（右）個室内部の様子。



ここにはハローワークの職員が常駐し、食堂には求人票が張り出されている。また、技能講習による各種資格取得も可能。（普通・大型自動車一種、フォークリフト、溶接、玉掛け等）

活動の三つの柱

三つの部門を柱にしており、ホームレスのいのちと人権を守り、自立を支え、自立した人たちの再ホームレス化を防ぐと共に、ホームレスを生み出さない社会作りを目指して活動する。

第1部門 いのちを守る基礎的支援

I. 炊き出し II. 物資提供 III. 保健・医療支援 IV. 人権保護

第2部門 自立支援

I. 相談支援 II. 自立支援住宅 III. ホームレス自立支援センター北九州
IV. 居宅設置支援 V. 就労支援 VI. 保証人確保支援

第3部門 ホームレスを生まない社会の形成

I. 自立生活支援 II. ボランティア養成 III. 情報発信・啓発
IV. 社会的協働・連携

炊き出し

炊出し場所：北九州市立中央図書館横

（北九州市小倉北区城内4-1 「こどもと母のとしょかん」前）

時 間：19:30～準備 20:00炊き出し開始 21:30終了



(左) 理事長 奥田氏と歓談



(右) テントを設営し、お弁当等を配布



(左) 障害者施設からの豚汁差し入れ



(右) 包帯やカイロの配布

他に、衣類のコーナー、散髪、医師の診断も用意されている。



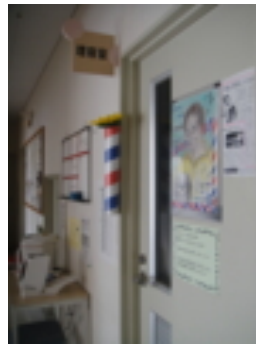
(左) 底冷えのする日であったが、50人ほどの利用者があった。(右) 多くのボランティアも参加。



B 自立支援援助ホーム「抱樸館福岡」

ハウスレスとホームレスという言葉の意味を考える。ハウスレスとは、住居や仕事を失うといった困窮している様子が目に見える状態。ホームレスとは、他者との関わりや絆を失うことで帰るべき拠り所がない、目に見えにくい困窮である。

抱樸館福岡では、ハウスレス状態とホームレスの両方の視点から困窮者を支援している。



定員81名が原則6か月の入居期間のうちに自立に向けた歩みを踏み出す。館内には理髪室も完備。



食堂では、ランチをいただきながら利用者の皆様と交流。

先方対応者

- ・ NPO法人北九州ホームレス支援機構
江田初穂氏（総務部長）、森勝洋氏（施設次長、生活相談主任）
- ・ 第2種社会福祉事業 無料低額宿泊施設 抱樸館福岡
青木康二氏（館長）、坪田正昭氏（福岡絆プロジェクト共同事業体 主任支援員）
- ・ NPO法人フードバンク九州
村中久美子氏（理事長）

参加者 5人

米山けい子（NPO法人フードバンク山梨 理事長）、米山広明（事務局）、塩澤拓郎（事務局）、河野有良（事務局）、平野伸次（農業生産法人青空生産農場 代表）

視察先

- ・ NPO法人北九州ホームレス支援機構・ホームレス自立支援センター北九州
住所：〒803-0811 北九州市小倉北区大門一丁目6番48号
- ・ 第2種社会福祉事業 無料低額宿泊施設 抱樸館福岡
住所：〒813-0034 福岡市東区多の津5丁目5-8
- ・ NPO法人フードバンク九州
住所：〒815-0033 福岡市南区大橋4丁目8番3号

視察日程

2013年2月8日（金）

山梨発4時—羽田駐車場着8時—空港8時20分

フライト：JAL373 普通席 東京(羽田) ==> 北九州（おとな 5名）

羽田8時55分発—北九州10時45分着 苅田—小倉 レンタカー、

① NPO法人北九州ホームレス支援機構

場所：自立支援センター（駐車可）

13時～14時30分 活動内容説明・質疑応答（60-90分）（総務部長 江田氏）

14時30分～15時30分 館内案内・意見交換（60分）

終了後～19時30分まで 自由時間、

19時30分～21時30分炊き出し体験

（ベッセルホテル苅田北九州空港・シングル 5室）

2月9日（土）

移動：レンタカー（九州自動車道60.1km）

② 抱樸館福岡（第2種社会福祉事業 無料低額宿泊施設）

見学料は、昼食・カンパ込みで、見学者1人につき1000円＝5千円

10時～ 福岡絆プロジェクト（パーソナルサポート事業）の説明（絆プロジェクト主任：坪田氏）

11時～ 抱樸館福岡概要説明（抱樸館福岡館長：青木氏）

12時 昼食（館内にて利用者とともに）

③ フードバンク九州

内容：現状把握、意見交換60分

福岡市出発 14時30分

移動：16:30返却。レンタカー（九州自動車道 60.1km）

フライト：JAL376 普通席 北九州 ==> 東京(羽田)（おとな 5名）

17時0分 北九州空港発—羽田18時25分着、羽田—山梨

*塩澤のみ、羽田—中央本線で帰宅（あずさクーポン）。

他の者は、NPO法人ポポロハウス（静岡県富士市）視察へ移動。

2.3 富士POPOL0ハウス視察と脱貧困サポート研修

A 「富士POPOL0ハウス」視察

目的と意義

NPO法人POPOL0（鈴木和樹代表）は、静岡県において生活困窮者への多彩な支援を精力的に行なっている。同法人が運営する富士POPOL0ハウスは、路上生活者や生活困窮者が一時的に泊まれる住居（シェルター）である。特筆すべきは、就労・自立支援に関する専門的アドバイスや相談業務を実施している点にある。シェルターを拠点に夜回り・フードバンク活動・街頭清掃活動などの包括的支援の取り組みを学ぶ。

また、同日に開催された「第35回静岡県ボランティア研究集会」では、第6分科会において、「あなたにも出来る脱貧困サポート～フードバンクってなに？」がテーマであった。



（左）事務所は、相談室を兼ねる。（中）リビングには「忘れるな！あの時のつらさ」「目指せ！！就労、向上心」の掲示。（右）一室を食料庫にしており、フードバンク活動の拠点になっている。



視察日程

2月10日（日）

A NPO法人OPOL「富士POPOLハウス」視察（代表 鈴木和樹氏）

B 第35回静岡県ボランティア研究集会（理事長講演、第6分科会）

会 場：富士市文化会館「ロゼシアター」

内 容：

10：00 開会式・オリエンテーション

10：30 基調講演

12：00 オリエンテーション・移動・昼食

13：00 分科会（8分科会）

第6分科会： あなたにも出来る脱貧困サポート～フードバンクってなに？

16：45 閉 会

資 料



渡辺 浩人
野口 健介

生活困窮者をサポート 遊休地活用し農作業

南アのNPOが農園開設



遊休農地の開墾作業を行う参加者
＝南アルプス市曲輪田

南アルプス市のNPO法人
フードバンク山梨(米山けい
子理事長)などは13日、同市
曲輪田に生活困窮者の社会復
帰を支援するための農園「フ
ードバンクファーム」を開墾。
活動をスタートした。

農作業を通じて就労への意

欲や就職に向けた自信を深め
てもらおうとともに、遊休農地
解消につなげる狙い。県内で
路上生活者の社会復帰を支援
しているNPO法人などと連
携し、約2千平方メートルの農地で
野菜や花を栽培する。

この日は県内各地から9人
が参加。事業内容についての
説明を聞いた後、同市で遊休
農地解消に取り組んでいるN
PO法人のスタッフのサポー
トを受けて、農地内の草取り
や石拾いに取り組んだ。

農作業は毎週火、金曜に行
い、開墾作業や種まきなど
を順次進めていくという。甲
府市から参加した男性は「や
りがいのある仕事で楽しい。
毎回参加したい」と話してい
た。

峡中



渡辺 浩人
野口 健介

白やピンクの コスモス満開

南アの農園

南アルプス市のNPO法人フードバンク山梨(米山けい子理事長)が、同市曲輪田に整備した農園「フードバンクファーム」で、白やピンクのコスモスが見ごろを迎え、地域住民らの目を楽しませている。写真。

農園は、生活困窮者の社会復帰を支援するために7月に開設。約10人の参加者が、同下旬にポットに種をまき、育った苗を約千平方



分の農地に植え替えた。現在、約2万株のコスモスが満開になっている。11月上旬までが見ごろという。

同NPO事務局の米山広明さん(28)は「丹精込めて育てたコスモスを多くの人に見てもらいたい」と話している。

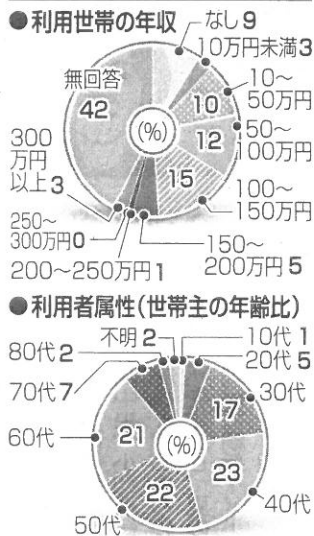
フードバンク山梨 利用世帯が最多

NPO法人フードバンク山梨(南アルプス市、米山けい子理事長)が、食料支援する世帯が増えている。生活保護を受けていない困窮世帯に食料を宅配する事業の利用者が本年度、100世帯を超える水準となり、昨年末には過去最多の140世帯となった。同法人のアンケートでは利用世帯のうち、年収150万円未満が半数を占め、無職または非正規雇用で働く世帯が8割。利用増の背景には、安定した収入が得られない厳しい暮らしの実態があるとみられる。

＝連載「支え合い 新たな形」11面

〈窪田あずみ〉

食のセーフティネット調査



食料支援事業(食のセーフティネット事業)は2010年11月に開始。同法人が、市や社会福祉協議会などから困窮世帯の情報を得て、月に2回、企業や市民から寄付された食料を無料で宅配している。事業は9世帯から始まったが、利用は急増。昨年3月以降100世帯を突破し増

年収150万円未満が半数

食料支援雇用悪化で急増

える傾向にある。1カ月に必要な食料は2・5トを超えている。同法人は増加の要因を、「関係機関との連携で事業の認知度が上がり、何の支援も受けられずにいた困窮世帯が顕在化してきた」と分析。さらに厳しい雇用情勢が続いている

ことから「利用は今後も増え続ける」とみている。雇用環境の厳しさは、同法人が昨年7～8月に実施したアンケートでも浮き彫りになった。事業を利用中の世帯と過去に利用した世帯、計118世帯からの回答では31%が「無職で求職中」。「パート・アルバイト」(19%)、「日雇いなど不特定の仕事」(6%)と続いた。世帯主の年齢は20～50代が67%を占め、働ける年齢にもかかわらず、安定した職に就けない状況がうかがえる。年収は100万円以上150万円未満が15%で、50

万円以上100万円未満12%、10万円以上50万円未満10%。利用中の世帯(35世帯)は「収入なし」が2割を超えた。アンケートの自由記述では「子どもが2人いるが、食品が何も買えないほど現金がないことがあった」「頼る人がいないので、餓死するか万引するかもしれない」などの声もあった。米山理事長は「アンケートは想像以上に厳しい結果。命をつなぐ食べ物を提供するとともに、就労できるように支援していくことが必要だ」としている。

山梨日日新聞

1月7日
月曜日

発行所 山梨日日新聞社
〒400-8515 甲府市北口2-6-10
電話(055)231-3000

飽食の時代と言われながら、明日の食べ物に事欠く人々がいる。公的支援制度からこぼれ落ち、貧困に陥る「見え

支え合い新たな形

フードバンク山梨の試みから

〈1〉

「ない貧困層」が拡大する中、新たな支援の仕組みを根付かせようという先駆的な試みが、山梨で続けられている。企業や市民から寄付された食料を無償で提供するNPO法人フードバンク山梨(南アルプス市)。目指すのは誰もが食を分かち合い、支え合う社会。活動を追った。

〈窪田あずみ〉

食料支援が命綱に…

南アルプス市内に住む職場トメさん(77)は、長男の久雄さん(54)と2人暮らし。フードバンク山梨の食料支援を受けて3カ月がたった。

ぎりぎりの生活

15年ほど前、久雄さんが20年以上勤めた会社が倒産。再就職先も約4年前に倒産した。市役所やハローワークなどに足を運び、職を探し続けているが、50歳を過ぎた今、正社員の仕事は見つからない。アルバイトで食いつないできたが、昨年からそれさえ見つからない

くなり、収入はトメさんの月6万円の年金だけに。家賃の滞納が続くぎりぎりの生活。光熱費を切り詰めるため、暖房はほとんど使わず、セーターや靴下を何枚も重ねて我慢する。

事故で歯車狂う

「何のために生きているのか…。足腰が立たなくなったら、首でもつけて死ぬのが一番幸せなんじゃないか」

敏夫さん(70)＝仮名、甲府市＝は頭を抱え、うつむいた。4年ほど前に心臓病を患い、最近では自分の言動に認知症の不安も感じている。

月4万円の年金。それが唯一の収入だ。周りに頼れる人はいない。「1人だから我慢すればいい」。金がなく、食欲もわかずに、2、3日何も食べないこともある。水だけ飲んでいれば結構生きられる。そんなことに気付いた。

「この冬は安心して暮らせませう。誠に申し訳ありませんが、今後ともよろしく願います」

敏夫さんは、食料に添えられた返信用はがきにお礼をしたためた。これまでに4回支援を受け、毎回返信している。同じ内容になってしまいが、それが偽りのない気持ち。感謝を伝えたい。

食料支援は3カ月6回が期限で、今月で一区切りになる。「支援に頼っているから、なくなると弱る」。延長の手続きをするつもりだが、年を取り、これから生活がどうなるのか不安は続く。

次回回は14日に掲載します

見つからない仕事



フードバンク山梨のスタッフに生活の相談をする職場トメさん。あたっていることが唯一使っている暖房器具。フードバンク山梨から譲り受けた

「南アルプス市内の生活の中で、市の福祉担当者から紹介されたフードバンク山梨の食料支援。『ただただ何となく食べられる。ありがたくて、ありがたくて』。トメさんはフードバンク山梨の事務所を探し、お礼を言いくつものことがある。ただ、支援を受けることに苦しさも感じる。社会の支援は、幼い子どもを抱え、苦しい生活を送る家庭に回してほしいと思う。でも、どうすることもできなくて…。久雄さんの仕事は見つからないまま。車も維持できずに手放し、通勤範囲が限られることから職探しはさらに厳しくなった。今月から食料支援の期間は終わり、生活保護の受給が決まった。

久雄さんにとっても生活保護は望む暮らしではない。「当然、仕事があ

食のセーフティネット



フードバンク

生活困窮者に「食品」無料提供

援などに提供してきた。

「フードバンク」とは、賞味期限内でまだ食べられるにもかかわらず、廃棄されてしまう食品を企業や農家から寄付してもらい、福祉施設や生活困窮者などに無償で提供する活動。米国では40年以上の歴史があるが、日本では、フードバンク活動を行う市民団体が設立され始めたのが2000年以降とまだ日が浅い。NPO法人フードバンク山梨は08年10月に発足。企業や農家から、箱の破損などで販売できない賞味期限内の食品、規格外の農作物を寄付してもらい、福祉施設や生活困窮者への炊き出し、市町村への緊急食料支

フードバンク山梨では食品を受け付けている。問い合わせは電話055(282)8798。

一人ではない…励みに

支え合い新たな形

フードバンク山梨の試みから

〈2〉

ダブルワークの日々

「あしながおじさんから届いた」。子どもたちは、NPO法人フードバンク山梨(南アルプス市)から送られてきた段ボール箱に駆け寄る。米、めん、缶詰、菓子、ジュース…。大きなサツマイモを見つけると、「スイートポテトを作ろうよ」とほしゃいだ。

子どものため

夫と離婚し、10代から幼児の5人の子を育てる智子

元夫からは慰謝料も養育費ももらえなかった。離婚後、安定した職を求めて正社員の仕事も探したが、5人の子を抱える身では、面接にすらたどり着けない。貯金は底を突き、生活費に事欠くようになった。

市社会福祉協議会の融資を受けようとしたが、返済のめどが立たず断念。勧められた生活保護は、通勤に必要な

なバイクを処分しなければならず、子どもの将来のための貯金もできなくなるため、申請を諦めた。

収入がないのに公的支援を利用できない。「制度のはざま」に陥りそうになった時、市福祉部の担当者から、フードバンク山梨を紹介された。

1回に届く食料は10kg以上。それだけでは足りないが、支援がなければ、子どもたちにおなかいっぱい食べさせることはできない。食料と一緒に届くスタップからの手紙や同法人の活動などを伝える「ふーちゃん通信」に書かれている言葉は、「一人ではない」と励みにもなる。

智子さんは今、パートを掛け持ちして働く。午前6時から午後3時までファミリーレストランの厨房で働き、午後5時から9時15分まではスーパーでレジ打ちをする。収入は合わせて月15万円ほど。児童手当と一人親家庭の手当を合わせても、アパートの家賃と生活費に消える。

夕食抜き貯金

やりくりは苦しいが、子どもにかかるお金は削れない。塾に通わせる余裕はないが、代わりに通信教育で勉強させ

いようにするためにも、教育はしっかり受けさせたい。

自分の夕食を抜いたりして切り詰める生活。自分一人食べなくても食費はさほど変わらないが、「気持ちの問題かな。食べたつもり貯金」。数千円でも浮けば貯金に回す。

パートを掛け持つ「ダブルワーク」は体にもこたえ、いつまで続けられるのか、不安がよぎる。子どもたちと一緒に夕食を食べることもほとんどできない生活に葛藤もある。「子どもたちは今何を考えていて、きょう何があったのか、ゆつくり聞きたい」。学校行事に参加できないときは、「ダブルワークは失敗だったのかな」と後悔することもある。

「でも、いつまでも支援してもらうわけにはいかない。早く自立しなければ」。成長とともに子どもたちにはお金がかかる。今は働けるだけ働いて、少しでも将来に備えたい。パートが休みのある日の夕食。智子さんは腕によりをかけて、子どもたちが大好きな鶏の空揚げとマカロニサラダを作った。毎晩料理を作って、一緒に食べる。それが智子さんの目標。「子どもがいるから頑張れる」。今は食料支援に支えられながら、目標に向かって歩いている。

〈窪田あずみ〉

※次回は21日に掲載します



公的支援の「外側」サポート

支え合い新たな形

フードバンク山梨の試みから

〈3〉

双方にメリット

め細かい。食料はすべて企業や市民からの寄付。食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」を有効活用している。

握は、自治体や社会福祉協議会、市民団体などの連携機関が大きな役割を果たす。それぞれの機関は、相談などに訪れた困窮世帯に事業を紹介し、本人の希望で支援を申請。それを受けフードバンク山梨が食料を宅配する。

継続へ課題も

機関からは緊急の支援要請もあり、多い月で50件以上に上る。

利用世帯の急増とともに課題も浮き彫りになってきた。食料の宅配は最大3カ月6回が期限だが、その間に自立できる世帯はわずか。支援を継続するか、生活保護の受給で終了するケースが多く、若い世代でも仕事が見つからず、低年金の高齢者も目立つ。頼れる人がいないなど、社会から孤立している世帯も多い。

「公的支援にあてはまらない人に的確に食料を届けられ、生活保護になる前に支援できる点も大きな意味がある」とフードバンク山梨理事長の米山けい子さん(59)は説明する。

生活保護を受給するには財産の処分が前提となるが、車を手放すと通勤範囲が限られるなど就職に影響も出る。一方で、生活保護は全国的に増え続け、保護費の抑制策が検討されている。「生活保護を受けずに食料支援で生活を立て直せるのなら、利用者にも行政にもメリットがある」取り組みとして注目されている。

フードバンク山梨が昨年、連携自治体と社協に行ったアンケートでは、事業により「社会とのつながりができ、当事者が精神的に安定する」、就労支援も並行することで「生活保護を減らすことができる」といった効果が出ているとの回答があった。

事業がスタートして2年余り。連携機関は40カ所になり、利用世帯は昨年末に140世帯に達した。米山さんは「まだ手が差し伸べられていない困窮世帯も食品ロスもたくさんある。食べ物が無駄なく消費され、多くの困っている人を支援するには、NPOだけでは限界がある」。米山さんはこの支え合いを広げ、続けるための仕組みづくりを模索している。(窪田あずみ)

食料宅配 困窮者の利用増

連携自治体・社協が感じている
フードバンクのメリット

- ▶ 困窮者の当面の生活が確保、改善できる
- ▶ 困窮者が社会とつながることができ、精神的に安定する
- ▶ 生活保護件数が低減できる
- ▶ 迅速に対応できる
- ▶ ほかに支援策のない困窮者に対応できる

(フードバンク山梨が昨年実施したアンケートの回答)

これは、生活保護を受けていない困窮世帯へ月に2回、食料を無料で宅配する「食の

各世帯の状況に合わせて食料を詰めるスタッフ。手書きの手紙や返信用はがきを添えることで、利用者との心のつながりも大切にしている
＝南アルプス市内



南アルプス市にあるNPO法人フードバンク山梨の甲西事務所。棚には種類ごとに仕分けられた食品が並ぶ。

「小学生にはこのお菓子がいいわね。きょうだいの人数分を入れないと」「この人は歯が悪いから軟らかい物を」スタッフたちは賞味期限を確認しながら段ボール箱に食品を詰めていく。米、レトルト食品、缶詰、調味料、飲料……。大根や白菜も加わり、箱はいつぱいに。利用者に宛てたスタッフ手書きの手紙と返信用はがきも入れ、次々に封をしていく。

「ライフラインが全部止まっていたり、この支援だけで命をつないでいたりする世帯もある。それぞれに役立つ食料をできるだけたくさん届けたい」。スタッフは厳しい生活を送る利用者に思いを寄せ作業にあたる。

生活保護を受給するには財産の処分が前提となるが、車を手放すと通勤範囲が限られるなど就職に影響も出る。一方で、生活保護は全国的に増え続け、保護費の抑制策が検討されている。「生活保護を受けずに食料支援で生活を立て直せるのなら、利用者にも行政にもメリットがある」取り組みとして注目されている。

フードバンク山梨には年間約100カ所の食料が寄付されているが、保管場所が手狭になっている。期限が定められた助成金が主な収入源の法人運営は不安定で、活動を広げたくても難しい現状もある。

「まだ手が差し伸べられていない困窮世帯も食品ロスもたくさんある。食べ物が無駄なく消費され、多くの困っている人を支援するには、NPOだけでは限界がある」。米山さんはこの支え合いを広げ、続けるための仕組みづくりを模索している。(窪田あずみ)

※次回は28日に掲載します

ファーム開園、市民参加…

つながり取り戻すために

支え合い新たな形

<4>

冷たい空気が肌を刺すような厳しい寒さとなった1月中旬のある日。

南アルプス市内の神社で、男性たちが積もった落ち葉を拾い集める。男性たちは、NPO法人フードバンク山梨(同市)が運営する農園「フードバンクファーム」の活動の参加者。冬は農作業が少ないことから、地域の清掃をすることになった。

食べられるのに捨てられてしまう食品などを企業や市民から寄付してもらい、生活保護を受けていない困窮世帯へ無料宅配する「食のセーフティネット」事業を行うフードバンク山梨。利用世帯が増え続ける中、多くの世帯が社会から孤立し、自立

自立をサポート

こうした人々が社会や人とのつながりを取り戻し、自立できるようにサポートしようと、昨年7月に耕作放棄地を活用して始まったファーム。週に2回、事業の利用者や生活保護受給者ら10人ほどが農作業に励む。昨年は収穫した野菜を事業に提供し、栽培した花は地域の人にプレゼントした。

参加者の1人、斉藤勇さん(68)「甲府市」は、「地域の人喜んでくれればね」と、活動への思いを口にする。ファームに参加するようになる

昨年12月、フードバンク山梨の事務所前で行われた「フードドライブ」の出発式。期間中に市民から寄せられた食品は4・5斗と過去最多となった
＝南アルプス市内



耕したばかりの畑に球根を植える米山広明さん(中央)。スタッフ、利用者、それぞれが一步を踏み出そうとしている
＝南アルプス市曲輪田

貧困「人ごとではない」

つて4カ月余り。アパートで1人暮らしをしているが、「1人でいると気がめいって、このまま生きていてもしょうがない、と考えてしまう」。

収入は年金と生活保護を合わせて月10万円ほどで、家賃と光熱費を払えば残らない。仕事があれば働きたいが、年齢的にも難しい。ファームの活動は現金収入にはならないが、これまでに休んだのは1回だけ。「ここに来ると気分が全然違う。皆と話ができるし、自分が役に立つことができる」。野菜や花作りも勉強できることから、やりがいを感じ、体が動く限り参加したいと思っている。

社会の中に「居場所」ができ、働ける世代では就職に結び付いた人や、行政の支援も受けながら就職活動に励む人も出てきた。

社会の理解必要

フードバンク山梨が昨年、食のセーフティネット事業の利用世帯と過去に利用した世帯に行ったアンケートでは8割が食料支援により「気持ち前向きになった」と回答。「善意ある皆さまのおかげで『頑張るぞ』と素直に思える」という声も寄せられた。理事長の米山けい子さん(59)は「社会から孤立していれば気持ちも落ち込み、自立も難しくなる。寄付された食料を送ることは、社会からのメッセージを送ることもなっている」と、物心両面での支援の重要性を感じている。

「社会には貧困も自己責任という考え方があり、自分もこういう状況になる前はそう思っていた。アンケートの回答に書かれた利用者の言葉は、誰もが貧困に陥る可能性がある不安定な社会を浮き彫りにしている。その言葉を真摯に受け止めるように利用

世帯は急増しているが、資金確保など運営が不安定なNPOでは「これ以上増え続けられは抱けない」(米山さん)状態だ。非正規労働者ら低所得者が増える中、米山さんは、活動を増やして次世代へつなぐことが重要という思いを強くしている。

そのためには社会の理解と支援が必要。ことから、フードバンク山梨は年に2回、「フードドライブ」を行い、市民から家庭で余った食品などを募る。スーパーに「きずなBOX」を置き、買い物客に「きずなBOX」を置いてもらうキャンペーンも展開し、貧困を身近な問題として感じてもらおう機会をつくっている。

米山さんは問い掛ける。「食べ物がないのは餓死や犯罪にもつながるが、今は公的な支援策がない。明日の食べ物がない人を放置する社会のままでいいのでしょうか」

次回2月4日に掲載します
＝窪田あずみ

活動に関わり始めて4年。理事長の母・けい子さんが掲げる「誰もが食糧を分かち合える社会」を共に願った。だが、欧米でフードバンク活動を支える寄付文化は、日本ではなじみが薄い。活動を広げるには「食料支援だけでいいのか」との疑問が常にあった。そうした中、新たな活動としてファームが開園。ボランティアから職員となつて支えることにした。

昨年8月、畑に通ってきいた50代の男性が軽い熱中症になった。米山さんが声を掛けると「実は先週から公園で寝泊まりしている」と言う。畑では冗談も言う気さくで明るい人柄。だが、笑って話すのは久しぶりという。「面倒かけてすみません」と頭を下げる

活動に関わり始めて4年。理事長の母・けい子さんが掲げる「誰もが食糧を分かち合える社会」を共に願った。だが、欧米でフードバンク活動を支える寄付文化は、日本ではなじみが薄い。活動を広げるには「食料支援だけでいいのか」との疑問が常にあった。そうした中、新たな活動としてファームが開園。ボランティアから職員となつて支えることにした。

昨年8月、畑に通ってきいた50代の男性が軽い熱中症になった。米山さんが声を掛けると「実は先週から公園で寝泊まりしている」と言う。畑では冗談も言う気さくで明るい人柄。だが、笑って話すのは久しぶりという。「面倒かけてすみません」と頭を下げる

＝中嶋寿美子

文化ぶん・くら暮らし



フードバンク活動について、他国の事例や日本の現状が報告されたフォーラム
—東京都千代田区

「国策」という無謀とも思えるテーマにしたのは、フードバンクは次世代につないでいく活動という強い思いがあるからです。昨年12月中旬、NPO法人フードバンク山梨(南アルプス市)は都内でフォーラムを開いた。テーマは「国策としてのフードバンク」。理事長の米山けい子さんは会場で「国策」に込めた「強い思い」を語った。

食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」を企業や農家、市民から募り、福祉施設や困窮世帯に無償提供するフードバンク活動。フォーラムでは、国策として

「国策」に込めた願い

支え合い 新たな形

(5)

次世代へつなぐ仕組みを

社会保障

「国策」という無謀とも思えるテーマにしたのは、フードバンクは次世代につないでいく活動という強い思いがあるからです。昨年12月中旬、NPO法人フードバンク山梨(南アルプス市)は都内でフォーラムを開いた。テーマは「国策としてのフードバンク」。理事長の米山けい子さんは会場で「国策」に込めた「強い思い」を語った。

行政が後押し

40年以上の活動の歴史がある米国。三菱総合研究所主任研究員の氷川珠恵さんによると、フードバンク団体の主な収入源は企業や個人からの寄付で、行政による支援策は、助成金制度や余剰農畜産物の提供がある。寄付者の税制優遇制度、寄付した食品で事故が起きた際に寄付者の責任を免除する法律も整備されていて、寄付を後押ししている。

活動は民間主導

「フードマーケット」があるのが特徴で、企業はフードバンクに寄付するための品物も生産している。

海外のフードバンクの取り組み

米 国	E U	韓 国
<ul style="list-style-type: none"> フードバンク団体の主な収入源は企業や個人からの寄付 行政は助成金制度や余剰農畜産物を提供 寄付者の税制優遇制度 	<ul style="list-style-type: none"> 現在は余剰農畜産物を19カ国に配分し、各国が困窮者支援に利用 フランスの場合、政府は生鮮品を提供。寄付者の税制優遇制度、地方自治体による資金援助 	<ul style="list-style-type: none"> 「食品寄付活性化に関する法律」に基づき活動を展開 困窮者が向いて食品を受け取る「フードマーケット」がある 企業はフードバンクのための品物も生産

フォーラム「国策としてのフードバンク」の報告から

米山けい子理事長に聞く



「食べ物がない命にかかわる状態になっても声が上げられない人々が地域の中にいることを知ってほしい」と話す米山けい子さんは、南アルプス市のフードバンク山梨事務所の

「食糧がなくなると命にかかわる状態になっても声が上げられない人々が地域の中にいることを知ってほしい」と話す米山けい子さんは、南アルプス市のフードバンク山梨事務所の

意識や偏見 変える力に

フードバンク山梨理事長の米山けい子さん(59)に、活動や課題などを聞いた。

◇ 困窮世帯へ食料を無料宅配する「食のセーフティネット」事業に寄付される食料が増えている。

「日本の年間食糧は、7千万人を救える量だ。『日本の年間食糧』というデータがある。『もったいない』食料を福祉に回す活動は、食品ロスを減らすとともに、環境負荷の軽減など多面的なメリットがある。学校ぐるみで食糧を確保でき、支援も上げられるが、現状では難しい。一方で(生活保護を受けていない)制度の不足が、困窮世帯の実態を把握しきれず、非正規雇

困窮者への支援の在り方などについて、貧困問題や社会保障論を専門とする県立大人間福祉学部教授の下村幸仁さん(57)に聞いた。

貧困に陥ると、社会とのつながりがなくなり、支援を受けられない状態が続くと自信や働く意欲も失ってしまう。しかし、社会保障制度からこぼれ落ちた人の受け皿は少ないのが現状だ。

フードバンク活動は命を支えるだけでなく、困窮者が、自分が見捨てられたと思っていた社会から

貧困問題に詳しい県立大・下村幸仁教授

社会資源の創出必要

の食料を受け取ることで、見放されていないという感覚を持つことができる。大きな意味がある。

社会とのつながりは、自信や意欲にもなる。

しかし、深刻な場合は生活保護



につなげる必要がある。保護費抑制のためにフードバンクが利用されるようなことがあってはなら

い。社会資源が乏しい山梨では、就労支援やワーカーズコープ(労働者協同組合)、困窮者と地域の人々が集う場など、市民が資源をつくり出していくことも必要になる。行政や社会福祉の専門職、NPO法人などが、それぞれの強みを出し合いながら連携し、当事者が持っている力を伸ばす支援をすることが大切だ。

＝「支え合い 新たな形」おわり



Eテレ



放送：毎週月曜から木曜 午後8時～8時29分

再放送：（翌週午後1時5分～1時34分）

シリーズ 貧困拡大社会 見過ごされた人たち

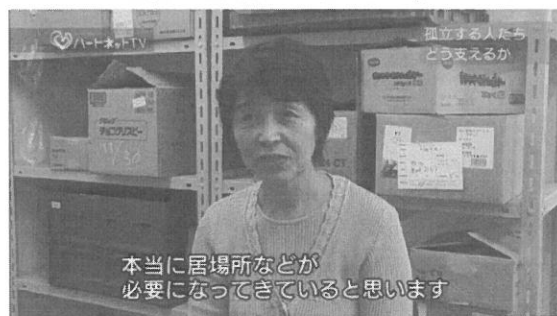
2012年11月19日（月）再放送11月26日（月） <アンコール>2013年2月5日（火）再放送2月12日（火）



食料支援を行うフードバンク山梨



ヒアリングを受ける高齢の母親と2人暮らしの男性



調査結果から見えてきたもの



社会との絆を取り戻すファームの取り組み

生活保護の受給者数が212万人(放送当時)を超え、戦後最多を更新し続ける一方、収入が生活保護の基準額＝最低生活費を下回っているにもかかわらず、生活保護を受けていない人も数多くいることはあまり知られていません。厚生労働省の推計によれば、その数は229万世帯にのぼるとされています（平成19年）。こうした“セーフティーネットからこぼれ落ちている人たち”の実態はこれまで明らかにされることはほとんどありませんでしたが、あるNPO法人が本格的な実態調査に乗り出しました。

山梨県内で食料の無料配給を行う「フードバンク山梨」。フードバンク山梨では今、収入が最低生活費未満であるにもかかわらず、生活保護を受給していない世帯を一軒一軒まわり、その経済状況や家族関係そして健康面の問題など詳細な聞き取り調査を行っています。この調査から、貧困状態にある人がなぜ生活保護を受けていないのか、その背景が浮かび上がってきました。理由として最も多かったのが、保有する資産。生活保護法では原則、家や土地、自動車などの「可処分資産」は処分してからでないと生活保護を受給できないことになっています。しかし、地方では自動車が無いと就職活動に支障をきたすなど簡単に資産を処分できないという事情もあります。さらに困窮状態を家族や親戚に知られるのを嫌い、生活保護を申請することをためらう人たちが多いことも分かってきました。

番組では、フードバンク山梨の調査を通して、生活保護を受給できない人の実態を浮き彫りにするとともに、こうした“見過ごされた人たち”の孤立を防ぐため、設立した農場など新たな試みを取材。支援のあり方について考えていきます。

「国策としてのフードバンク」

食のセーフティネットの可能性



第1部 基調講演「海外で社会保障政策として推し進められるフードバンク」

第2部 シンポジウム「日本における食のセーフティネットの可能性」

開催日 2012年12月17日（月）15：30～18：00

場所 三菱総合研究所 4F大会議室

はじめに

皆様こんにちは。フードバンク山梨理事長の米山です。よろしくお願いします。
本日（※1）は大きな国の方向が提示された日となり、私にとってもこのフォーラム開催も重なり、忘れられない大切な日となりました。皆様方にとってはいかがでしょうか。

さてフードバンク山梨では今年、私たちが食糧支援している世帯の内、118 世帯の方々にアンケート調査を行いました。更にご協力していただいた 53 世帯の方々と、お会いしてヒアリングを行っています。その中で誰にも助けてと言えない人たちの存在が大きく浮かび上がってきました。

これからお話する内容は、ちょっと衝撃的なお話ですが、現状を知っていただくためにあえて、お話しさせていただきます。

私は最近餓死寸前の方にお会いしました。

あと 1 日発見が遅れたら命の危険にさらされていたかもしれません。

すでに体重も 30 キロ台で健康時の半分に減っていました。発見されるまでの 1 週間は食べ物が全くなり、水だけ飲んでいました。

その方は数年前ホームレスでした。当時フードバンク山梨も食糧支援しておりましたが、年金受給資格がある事がわかり、私たちの食糧支援も終了しておりました。偶然住宅の修繕に来た方に発見され、すぐ救急車で病院に搬送されました。私たちは当面の食糧を準備しご本人に渡すことができました。

食べ物さえあればこのような状態には陥らなかったと思うと、もっと早く助けてと言っていたと悔やまれました。

明日の食べ物の事を悩まなければならない状態では、前向きに仕事や人間関係などを考えることすら出来なくなってしまうのが普通の人間ではないでしょうか。

人は仕事がなくとも、住居が無くとも、食べ物さえあれば生きていくことができます。命の心配をしなくなって初めて前向きな行動ができるのではないのでしょうか。

フードバンクの役割は、そこに明日の食べ物に困る方がいたら、食べ物を届けて手を差し伸べるという、いたってシンプルなものだと思います。

本日の「国策としてのフードバンク」というタイトルが唐突で無謀さを感じた方もいらっしゃると思います。しかし、私にとっては、4年前にフードバンク山梨を設立した日から、この活動は次世代につないでいく活動であるという強い思いがありました。ですので私にとってはこの4年間でやっとその入口にたどり着いたという思いで、決して唐突なものではありません。

本日フードバンク山梨との何らかのご縁でご参加していただいた皆様と、本日のシンポジウムをきっかけとして、次世代への架け橋役を私達と共に担っていただけますことを心よりお願いして、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い致します。

(※1) 衆議院選挙翌日、2012年12月17日

2013年1月30日
米山 けい子

第 1 部 基調講演 要約

「海外で社会保障政策として推し進められるフードバンク」

食のセーフティネットと日本におけるフードバンクの課題

講師 NPO 法人 フードバンク山梨 理事長 米山けい子

食糧支援の必要性

仕事がない、住まいがない、食べ物がない等様々な困窮状態がある。
この中で、食べ物がないという状況は生死に直結しており緊急度が一番高い。
食べ物がないという状況は非常に緊急度が高いにも関わらず現在公的な食糧支援制度がない。
仕事がなくとも、住まいがなくとも、お金がなくとも、食べ物さえあれば生きていける。
食べ物は人が生きていく上で最も基本的かつ重要な要素であるといえる。

食のセーフティネットの仕組み

行政、社協、困窮者支援団体、民生委員等が生活困窮者を早期に発見するアンテナとなる。
行政や社協、困窮者支援団体から食糧支援の申請がフードバンク山梨に来る。
フードバンク山梨からは月 2 回最大 3 ヶ月、困窮世帯へ宅急便で食品を配送する。
緊急的に食糧が必要なケースでは、申請元の行政や社協がフードバンク山梨に食品を取りに来る。
2 年間で窓口となる行政や社協などの連携機関は 4 0 に増えた。

なぜ行政、社会福祉協議会、困窮者支援団体と連携するのか？

食のセーフティネット利用のきっかけを調査したところ、自分で見つけたというケースはわずか 6%のみ。残り 94%は行政などの機関を仲介している。つまり行政などの機関と連携しなかった場合、自分で見つけたの、6%を除く 94%の生活困窮者への食糧支援は不可能であったといえる。
生活に困窮した方が一番最初に行くところは市役所や社会福祉協議会であるため、それらの機関と連携することで早期発見、早期支援、広域支援が可能となる。

協働に関して

行政、社協、困窮者支援団体の役割

行政、社協、困窮者支援団体は主に困窮者の把握、フードバンクへのつなぎ、就労支援、広報など。

フードバンクの役割

寄付食品による効率的支援（例えば行政が 1000 万円分の食糧支援を行おうとすると、

1000 万円経費がかかってしまうが、フードバンクと連携すると、食品は寄付された物なので、経費がかからない。

社会的就労（フードバンクファーム） 就労意欲喚起等支援事業

フードバンクファーム

食品だけではダメ、就労支援だけでもダメ、本人の前向きな気持ちが必要。

そこでフードバンク山梨では孤立している困窮者、生活保護受給者が農業を通して人や社会との絆を取り戻し、前向きに生きる活力を取り戻す機会を提供。

日本におけるフードバンクの課題

- ・日本全国のフードバンク団体の連携不足、情報やノウハウの共有。
- ・トレーサビリティなどのシステム面や、個々の団体独自の先進的な取り組みなどが共有

されれば日本全国のフードバンクの相互発展につながる。

- ・設立間もない団体の支援

フードバンク山梨では設立当初から、セカンドハーベスト・ジャパンから情報、ノウハウ、寄付食品の提供等、様々な支援を受けられたことで推進力をもって発展することができた。自分達が設立間もないころから支援を受けてきた団体だからこそ、設立まもない団体への支援の必要性を感じている。

- ・地域格差の解消

都市部と地方では食品企業の数が相対的に少ないため、寄付食品が集まりにくい。

- ・業界団体の創設

国との交渉の窓口や、日本のフードバンクをマネジメントするような中間的組織が必要。

- ・フードバンク活動を推進するための仕組みや制度がない。

アメリカの例

- 1.農作物価格安定政策により買い上げられた作物をフードバンクに寄付
- 2.ビル・エマーソン食糧寄付法による寄付側の法的責任の軽減
- 3.食糧の寄付に対する税の控除
- 4.賞味期限切れの食品を扱う際のルール整備

これらのアメリカにあるようなフードバンク活動を推進する仕組みや制度が日本にはない。

韓国のフードバンク

講師 セカンドハーベスト・アジア 特任研究員 李永淑

2000 年に 2 HJ が活動を日本で初めて開始、その 2 年前に韓国でもフードバンクがスタート。日本と同じように十数年活動してきたが、仕組みや特徴が大きく異なっている。

韓国のフードバンクの特徴は、福祉政策の一環として、国の事業としてなされている所である。

趣旨と背景

98 年の通貨危機によって、中間層が崩壊したため福祉政策に転換した。
2008 年のグローバル経済危機によりインフラの大幅な拡充がなされている。

全国の分布状況

韓国全土にはフードバンクやフードマーケットが 424 団体存在する。ソウルひとつと
っていても 60 団体と、いかに韓国でフードバンクが定着しているかがわかる。

食品寄付の現況

2011 年までの累計で、400 億円近い食品が寄付されている。

欧米のフードバンクと政策について

講師 三菱総合研究所 主任研究員 氷川珠恵

・ヨーロッパの政策

PEAD (MDP : Food Distribution programme for the Most Deprived Persons of the Community)

“最も恵まれない人たちへの食糧配給プログラム”

PEAD (MDP) 誕生の背景

1980 年代 EU 各国は市場介入により買い上げた食品で倉庫が満杯
在庫は EU 内で販売できない、コスト高により EU 外の国に販売することもできない。
さらに倉庫代など、経費の負担が増加。そこで PEAD (“最も恵まれない人たちへの食糧配給プログラム”) が始まった。

EU19 カ国が参加している。

必要な食品とその量を申請、各国の要望、貧困率、GDP を基に配分が決定

ヨーロッパのフードバンクキャンペーン

毎年冬の初め (11 月～12 月) に実施

2011 年の実績

11 月 23 日・24 日 フランス 12,500 トン、イタリア 9,600 トン

11 月 29 日・30 日 スペイン 1,700 トン、ポルトガル 2,914 トン、イギリス 1000 トン

アメリカのフードバンクと政策

- ・1967 年にアリゾナ州でフードバンク活動開始、全米に 200 団体以上
- ・食品ロス削減がきっかけであったが、現在は飢餓撲滅に主目的がシフト
- ・企業等からの寄付が少ない肉や乳製品などを購入し、施設・団体に提供
- ・食品提供の際には施設・団体より共有施設維持費を徴収
- ・企業、個人からの寄付が主な収入源

行政の支援策

- ・助成金制度
- ・農務省が生産者より買い上げる余剰農畜産物の提供
- ・寄付者の税制優遇制度
- ・事故発生時に食品提供者の責任を免除する法律

フードバンクに関連する規制、法律

- ・営利目的の食品倉庫事業者と同レベルの衛生管理を求められ、FDA,USDA,地方保健局の監査を受ける

スタンプアウトハンガーというイベントを開催

全米の郵便配達人が23万人参加して、郵便物とともに市民から3万3千トンの食品を集めた。

行政と民間との協働

講師 南アルプス市 市長 中込博文

これからは行政と民間がきめ細かに協働し、よい街を作っていかななくてはいけない。行政の長としてフードバンクの活動を支援して、この活動が日本全国に広がり心豊かな日本になればいいと思っている。先ほどの韓国と欧米の例があったが、それと比べると日本はまだまだ何も出来てない。現在日本では民間だけでやっている。行政主導がこれまでの中央集権時代だったが、これからはそれではダメ。しかし行政が何もしなくて民間だけでやっても、この活動が定着するとは思えない。最小限の運営を支える制度を国がつくるのが大事で、活動は民間が主導していくのが望ましい。このフードバンクの活動を盛んにしていく中で、日本において本当の意味で行政と民間とが協働をし、いい国を作っていく。そのモデルとなっていきたい。その活動をみんなで支えていくのが大事。

第 2 部 シンポジウム 要約

大原氏：第 2 のセーフティネットとしてフードバンクを機能させるとは、どのようなイメージか。

米山氏

第 1 のセーフティネットは雇用保険などであり、最後のセーフティネットが生活保護制度、その間に第 2 のセーフティネットがある。その中の一つにフードバンクの食のセーフティネット(食糧現物支給)を位置づけるということ。フードバンクを第 2 のセーフティネットに位置づけるということは、8 月にも厚労省へ「新たな食のセーフティネットモデルの提案」として出させていただいた。

大原氏：韓国では、国策としてフードバンクをどのぐらいの規模で予算化しているのか。又、実際のフードバンクはどのように運営されているのか。

李氏

韓国国内のフードバンク全体での正確な数字はわからないが、全国フードバンクという大きなフードバンク団体一つだけで 20 億をウォン（約 1.5 億円）程度。他の 400 以上のフードバンク、フードマーケットは各自治体で個別に予算を立てておりそれぞれで金額が違う。全国フードバンクは国内のフードバンクのマネジメントを行なう団体。国民に対するフードバンクの啓発活動として年に 3 回ぐらいフードバンクに関するテレビ番組を生中継で行なったりしている。芸能人がフードバンク大使として任命されたりする。また大口の寄付があった場合、物流センターや、広域フードバンクなどに食料を配分する役割がある。

また先々週ボランティア活動をさせてもらったフードバンクはキリスト教系の団体が運営主体となっており、5 箇所のフードバンクやフードマーケットを運営していた。韓国ではボランティア団体や、福祉団体が事業者申請を各自治体にし、事業者許可証のようなものが発行されて、各地域でフードバンクが運営されている。

大原氏

韓国の全国フードバンクというのはアメリカで言うとフィーディングアメリカのような、フードバンク団体を束ねるような上部組織なのか。

李氏

そのようなイメージで良いと思う。例えば全国フードバンクが企画をして毎年一回、全国のフードバンク関係者が 300 から 400 人が集まり一泊二日で安全や衛生面など、

専門的な研修を受ける機会が設けられている。

大原氏

韓国で有名な女優が今年のフードバンク大使に任命されたというニュースを見て、日本で言うと AKB のメンバーがフードバンクのキャンペーンをしているようなもので、韓国におけるフードバンクの認知度には驚いた。

大原氏：フードバンク山梨と行政との連携は「山梨モデル」として他の自治体やフードバンクでも参考になる一つのモデルであると思うが、行政と NPO の連携に関して、どのような問題があって、どう乗り越えたのか。又、なぜ一つの NPO とだけ連携するのかといった声がでてくるのではないか。

米山氏

当初から行政との連携が必要だと思っていた。設立当初は自宅の倉庫に食品を保管しており、南アルプス市職員が取りに来ていた。そのように少しずつ連携していく過程でお互いにメリットがでてきた。人と人との信頼関係を少しずつ作っていくのが大切。行政というと敷居が高く感じてしまうが一歩目を踏み出す事が大事、それさえ出来ればすぐに活動は広がる。2 年間で連携機関は 40 に増えた。今も信頼関係を築くために行政と連携会議を繰り返し開催している。

中込市長

この活動は広く市民にご理解いただいて、みんなで協力していくことが求められている。しかし、行政や NPO、民生委員などが協力していくときに、個人情報の問題が出てくる。民生委員と情報をうまく制限しながらどのように連携していくかは、今後の課題の一つだと思う。

なぜ一つの NPO にだけ協力的なのかという意見が出てくると思うが、市民の為になる活動であるならばそういった誹謗中傷は、気にせず推し進めていけばいいと思っている。

大原氏：EU として取り組んでいた PEAD が破綻してしまい岐路に立たされている。なぜこうなってしまったのか、又ここから日本が学べることや、見えてきた課題はあるか。

氷川氏

PEAD は余剰農産物の在庫を基点とした発想であった。しかし制度が変わり余剰農産物の在庫自体が減り、続かなくなったというのが現状。日本においても余剰農産物を有効活用するというのは大事な視点だと思うが、食料需給が世界的にひっ迫するとい

う見込みが現実的に立っている中で、食品ロスの観点だけでフードバンクを見ていると、早々に立ちいかなくなると思う。

日本では国としてフードバンクに具体的に支援を行なっているのは、農水省の食品ロス対策の観点からだけである。生活福祉の視点から政策を見ていくことが今後重要になっていくと思う。

2014 年からの新たな困窮者支援政策の FEAD で議論されているように福祉対策としてフードバンクを見ていく時、生活困窮者側の基点で見えていかなくてはならない。フードバンクは食品の部分での生活困窮者対策でしかない。生活困窮者支援としては食品だけではなくて、自立に向けた様々なトレーニングや雇用の問題なども議論に含めないといけない。フードバンクという一つの NPO が全部を見られればいいが、なかなか難しい。一つの NPO にできることはその NPO の活動に特化したところで、それ以外の部分は別の組織が担わないといけない。国が生活困窮者支援策の中でどのような NPO と連携するか、それぞれの役割分担を議論していく必要がある。

大原氏

韓国では最初は環境問題としての取り組みであったのか。

李氏

最初は食品ロスの削減や生ゴミ対策という観点からフードバンクが始まった。その後の通貨危機が大きな転換期になった。通貨危機によって中間層が崩壊したため福祉政策に転換した。

大原氏：日本国憲法第 25 条において、すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有すると定められている。つまり生きるために必要な最低限の食料を確保する権利はそもそも国が保証すべきものであるというのは、皆さん承知のことだと思う。そこでフードバンクに限らず NPO と行政が連携する時にいつも危惧されるのが、NPO が行政の下請けにされてしまうのではないかとといった事や、食のセーフティネットが生活保護費を削減できるという大きなメリットがある一方で、それを水際作戦に悪用されたり、生活保護費削減の口実にフードバンクが使われてしまうのではないかと懸念もある、この点についてどのように考えるか。

米山氏

これまで生活困窮者支援において、ホームレス支援団体等と行政は対立してきたように思う。しかし、現在では生活困窮者支援団体と行政との関係はかなり改善されてきている。生活保護制度は最後のセーフティネットであるが、生活保護制度に該当しない、制度の狭間で苦しんでいる人がリーマン・ショック以降ものすごく増えているのではないかと感じている。ちょっと前までは国民全体が一億総中流という意識の中

にあり、困窮者が増えているという感覚は無いかもしれないが、声を挙げられず制度の狭間で苦しんでいる人々が多くいるということを、活動を通じて実態を知っている私達自身がお伝えしていかななくてはいけない。水際作戦や自己責任論、社会責任論等あると思うが、私たちの活動は単純なものであって、食べ物の支援が必要であればお届けする、手助けするという理念で活動している。そのような基本的な理念を崩さず持ち続けていき、私たちの思いと一致出来るところで一致してやっていく。

中込市長

いずれにしても生活保護費を国が減らすためにフードバンクを下請け的に使うというのはもってのほかで、これを許してはいけない。本来の理念を明確にしておかなければならない。ただ生活保護費は3兆数千億円と日本の財政を圧迫する状況になっており、生活保護を受ける方々があまりにも自分勝手になっているところもある。これは個人的な考えだが、活動を通じて困っている人を助ける時に、自分自身の力で生活を立て直すという所まで、この活動がいけば良いと思う。

大原氏

フードバンクファームはまさにそういった取り組みである。

大原氏：個人情報扱いが絡んでくる所だが、フードバンク活動をしていく中でいつも大きな課題になるのが、本当に支援を必要とする人がどこにいるのか、それをどうやって見つけるのか、又支援対象者の識別は誰がどのように行なうのかという問題である。そのあたりは山梨、韓国ではどのように支援者の識別を行なっているか。

米山氏

行政と協働する中で、私達自身のメリットとして、生活困窮者から電話がかかってくる、一人ひとりどういう人なのか確かめるという事をせずに、確実に食糧が今現在必要な方に届けられるシステムだということがアンケートなどの実態調査をしていく中でわかってきた。フードバンクに電話がかかってくる、それだけではその人が生活困窮者であるかという判断はできない。日本では生活に困窮した時に、多くの人は役所に行く事が多く、そこでどの公的支援制度にもつながらない方がいる。そういった方達を行政との協働の中で探し出す。個人情報に関しては、行政が持っている情報をいただくと個人情報に抵触するので、本人に書いてもらっている。フードバンクの食糧支援が必要であれば、その場でご自身が住所や家族構成などを本人の同意で書いてもらっている。それから今すごく感じているのは、個人情報の関係でそこに困っている人がいるのに支援が出来ないということはあってはいけないと思う。出来る範囲でやっていく、そこで問題が出てきたらその場で考えていけばいいと思う。NPOの迅速

性と柔軟さを忘れてはいけないと常に思っている。

李氏

韓国ではフードバンクやフードマーケットを利用できる方が低所得者層や障がいを持っている方、独居老人の方など、対象が明確に定められている。その方々は利用者証というものが自治体から発給される。そのような登録システムにより生活困窮者の認識がなされている。そういった仕事は行政が担当している。各フードバンク、フードマーケットには利用者証が発給された方々の名簿があり、誰が利用してどんな品目を持っていったかバーコードで管理されている。地方の各フードマーケットでは 600～700 人が利用している。

大原氏：セカンドハーベスト・ジャパンのチャールズ氏が話していたが、泥棒に入られたら 110 番、火事なら 119 番というように、お腹を空かせたらフードバンクに電話をすれば食べ物にたどり着く、というぐらいフードバンクが普及すればいいのだが、先程のフードバンク山梨のプレゼンにあったように自分でフードバンクに辿り着ける人はまだ 6% しかいない。生活に困窮した人々は、最初に行政の窓口に行く人が多いという現状では、そこでフードバンクにつないでくれないと、なかなか困窮者がフードバンクまで辿り着けないという現状があると思う。

日本でフードバンクを社会保障政策の中に組み入れていくために、一体どうしたらいいのか。今ある法制度の中で地方自治体ができること、できないことがあると思うが、国レベルでどのような支援や法整備があると連携しやすいか。

中込市長

南アルプス市では福祉総合相談窓口であらゆる問題をワンストップで受けている。フードバンクに関係しているところは、フードバンクに連絡しておりフードバンクにたどり着く人が多いと思っている。今ご質問の国の施策というのは税制だとか、食品衛生法上の問題においては、この活動が活発化していけばいくほど、国がきちっとした制度を作っていかなければいけないと思っている。

フードバンクの活動を円滑に行なうために必要な、最小限の人件費を助成する制度を作っていくべきだと思う。活動は民間であるフードバンクの皆さん方が組織として頑張っていく。又、日本全国のフードバンクの方向性や衛生管理等のチェックをフードバンクの皆さんが自主的にやるのか、国がサジェッションをある程度与えながらやっていくのか、このあたりもこれから整備していかなければいけないと思う。これからフードバンクと行政との連携が全国に普及していくのであれば、国は何らかの制度の整備をしていくべきだと思う。そして米山理事長がよく言われる様に、国へお願いはしつつ、待っているだけでなく平行して地元の行政と一体となりながら行動していく事が重要。その中で国にも評価してもらい制度化していく。ただその時に考えなくてならないのは、あくまで国の下請けでは無いということ、活動に関しては民間

が主導していくのがいいかと思う。

大原氏：国を挙げてという場合、いかに国民を巻き込んでいくかという事が重要になってくると思うが、韓国や欧米ではどのようにして広く社会の中にフードバンクの取り組みを根付かしていったのか。

氷川氏

一つはヨーロッパのフードバンクキャンペーンやアメリカの郵便局が協力しているスタンプアウトハンガーなど、自分が参加できて身近に感じられるキャンペーンを活用するという方法がある。このように身近なキャンペーンがあれば、自分自身が生活困窮者支援のあり方を自分の国の問題として考える機会が生まれる。こういった問題は、私達一人ひとりがどう考えるかということがある程度明確になっていかないと、なかなか支援のあり方が決まっていけないと思う。そういった時に、自分が参加できる大きいキャンペーンなどを通して一人ひとりが考える機会がある事が重要だと思う。もう一つはデータの整備である。今日ご紹介している欧米の事例については、インターネット上でデータが取れる。欧米のフードバンクに関してはデータがそろっている。先ほど米山理事長がフードバンクに携わっている方々が貧困問題の実態を明らかにしないといけなとおっしゃっていたように、多くの日本人にとって貧困問題はまだまだ他人ごとであり、自分に関わる問題では無いという意識があるのではないかと思います。しかしそうではないとすると、それを示すデータが示されていく必要があると思う。欧米の場合はそういったデータがフードバンクからもきちんと出されていて、議論できるデータが日本よりはそろっている。社会的な議論を高めていく土壌が日本よりは整っていると思う。

李氏

韓国の場合は、食品の分かち合い文化をつくっていくという明確なコンセンサスから出発しているのが大きな特徴かと思う。また先ほど少しご紹介させていただいたように、テレビ放送や、芸能人の参画などがある。そういった大きな取り組みだけでなく、いくつか例をご紹介させていただくと、現在個人寄付をこれから伸ばしていきたいという考えがあり寄付文化の浸透を図っている。山やキャンプ地で下山する時や帰る際に、使わなくて荷物になるからと捨ててくようなものを、寄付ボックスに寄付するキャンペーンや、企業においては市場に出せない商品の寄付だけでなく、計画生産という形でフードバンクに寄付をするためだけに作っている商品がある。先々週視察に行ったフードマーケットの例では、食べ物を提供するだけでなくコーヒーショップが併設されており、利用者と利用しない方との交流の場を作っている。芸能人がコンサートなどで花輪の代わりに米花輪というものを積んでそれを寄付するという取り組みが広がっているが、最近では結婚式でも取り入れられている。韓国では国としてやっているので法律に裏付けられてやっているのが大きい。食品の寄付活性化に関する

法律がある。最近では日用品の寄付活性化を促進するための法改正を進めている。

大原氏

具体的にはどういった法律か。

李氏

日用品に関する法律は現在法改正中ということで議論の中身までは分からないが、食品に関しては所得税の控除がある。又、食品事故が起きた時の為に民間保険に加入している。

大原氏：フードバンク山梨では市民を巻き込んでいくためにどのような取り組みを行っているか。

米山氏

年間 2 回、県内に集荷拠点を 18 箇所設けてフードドライブを行っており、県民の皆さんに数百人単位で協力して頂いており毎回 3 トンほど食品が集まる。又、スーパーマーケットに「きずな BOX」というドネーションボックス（寄付箱）を置かせて頂き、一般のお客さんが自分の分以外に生活に困窮する方のために商品を買って寄付できるような機会を作っている。地域の中でいくら行政と協働してもフードバンクは定着できないと思う。その地域の中で無くてはならない存在になった時に初めて、フードバンクが根付いたと言えると思う。市民の皆さんからの共感がないといけない、そこが一番重要だと思う。

そのために様々なイベントやテレビなどに出て広報活動を行なっている。それをしないと地域の中に定着できない、認知度も大切なことだと思っている。フードバンクを誰もが知っているような社会を目指して、地道に一つ一つアイデアを出しながらやっている。今日もボランティアの皆さんが来て頂いていますが、力強い味方だと感じている。

大原氏：山梨でフードバンクと行政がうまく連携して実績を上げてきたのは、山梨だからとか、米山さんだからできたんだと思われることもあると思う。全国にフードバンクは 30 以上あり、それぞれ実情が違うと思う。東京のセカンドハーベスト・ジャパンなんかは規模も全然違う。生活保護世帯を見ても、台東区一つとっても山梨県全体より多い。都市部と地方では実情が違うし、地方によってもいろいろな実情があると思う。山梨ではできるけれど、国全体で進めていくのは無理なんじゃないかと思う人もいるかもしれないが、その点についてはどのように考えるか。

米山氏

一歩目から始まるのはどこでも同じだと思う、セカンドハーベスト・ジャパンのチャールズさんも一歩目があり、1人で始めて10何年もやってきてすごく大きくなっている。私自身もそうですけれども、一歩目があり、一歩目は非常に小さいもので、誰にでもできる事だと思う。そしてその歩をあきらめずに続けるか、続けないかの違いだと思う。私の場合だと次世代につないでいく、つなぎ役だという思いがある。そこまで行くまでには諦めずに続けるという力が必要だと思う。一歩目さえ頑張れば全国でも広がっていくと思う。地方と都会との違いもあると思いますが、私も一歩目は南アルプス市の職員が自宅に食品を取りに来ることから始まっており、今では県下のいろいろな機関の方々が事務所に食品を取りに来ている。先ほどもお話した通り NPO というのは迅速性、柔軟性があるので、出来るところからやる、大きいところでも小さいところでもそれは同じ、出来る範囲で優先順位を決めてやっていく。私どものやり方が決まっているということではなく、いろんなやり方があると思う。出来る範囲で優先順位をつけてそこから始める、始めなければ始まらない。そのような考えで私自身もやって来て今があると思います。しかし今がベストではない、まだまだこれから色々な課題があると考えている。

大原氏：社会保障政策としてのフードバンクの確立へ向けて道筋をつけるために、まずこの一歩から初めてはどうかという、一歩目をご提言頂きたい。

氷川氏

今やっていることがどのように役立っていて、今後どうあるべきかという議論をしていくためには、データを示して実態を議論して頂くような機会が必要だと思う。そういう意味では山梨のケースもモデルケースの一つとして重要なケースになると思うし、他のフードバンクがやられていることも同様に同じような議論に乗せていかなくてはいけない。今やっている事をきちんと可視化して示していくことが必要、その上で議論をしてみるということから始めてはどうかと思う。

李氏

私も氷川さんと同じことを感じていて、議論が大事だと思う。ただし議論をする前提としてフードバンクを知っていただくという事、認知度が大事だと思う。国策となると国だからできることと、フードバンクだからできることを議論することも必要だと思う。韓国で実際に現場に行ってみると、すべてを国がカバーしているわけでも当然なくて、すべてをフードバンクがカバーしているわけでもない。そのような現場を見た時に、当たり前だがそれぞれの強や弱みをしっかりと共有をしていくことが大事だと感じている。私からは今回、韓国の事例をご紹介させて頂いたのですが、近い国でもあるが、中身は異なる部分も多いと思う。欧米も進んでいるので同じだと思うが、

先進事例だから全てを取り入れるということではなく、取り入れられそうな事は取り入れつつも、先進的に色々やってきたからこそ得られる教訓というのも参考にできる部分があると思う。

中込市長

私は、全ては人だと思っています。フードバンク山梨は米山理事長がおられてここまで来た、今日もお会いしましたが菅谷さんや金子さん、フードバンクをやりたいという方々が、まず行動する事が大事だと思っている。その行動を行政は見捨てずに、行政として一生懸命できることをやる。思いのある人が理想を掲げて行動を開始すること、行政はそのように行動を開始した人の足を引っ張るのではなく行政がこれを必ず支えていく、それは市であり、県であり、国である。そうなればより良いフードバンクの活動が出来ると思っている。

米山氏

今日は国策というようなテーマで、無謀とも思われる内容でフォーラムを開催いたしましたのは、フードバンクという活動は誰からも共感を呼べるような活動だと思っていて、しかし良い活動だということだけで終わってしまっただけではいけない。私の中では困ったときには助け合えるような社会を、次の子供達の世代につないでいくために今日があると思っている。初めての国策という視点でのシンポジウムだったが、さらに一步前に進むためには中間的組織が必要。国との窓口も私どもフードバンク山梨が今現在やっているがそれではダメ。国にある一定程度の力量を認めてもらうには日本のフードバンク全体のレベルの底上げを図らなくてはならない。フードバンク全体のレベルの底上げや国との交渉の窓口になるような、どこの色もついていない中間的組織を、このシンポジウムを超えて次のステップとして作っていききたい。その先に次の世代への定着があるのではないかと考えている。

◆ フォーラム参加者からの意見

NPO 法人 POPOLO 代表 鈴木和樹氏

静岡県で NPO POPOLO の代表をしている。静岡県でフードバンクを行なっている。既存のフードバンクをやっている方々がいるから、私達もできているが、逆に皆さんにお聞きしたいのですが、私達の団体は家がない方など、生活困窮者支援からスタートしている。食べるものがなければ死んでしまうということで、これはフードバンク必要ではないかと感じフードバンクを始めた。先ほど南アルプス市の中込市長さんがいっていたように、生活保護が今増えてきている。仕事は見つかったけど給料が出る

までの間のお金が無いという方が結構いる。そのケースは生活保護では助けられない。又、仕事を頑張って見つけたい、生活保護はどうしても受けたくないという人も中にはいる。生活保護という制度は、医療とかも全て含めて面倒見るという要素が強いもので、例えば風邪を引いた時、咳しか出てないケースで咳止めさえ飲めばいいのに総合風邪薬を飲んでいるような場合もある。食べる物さえあれば、生活保護制度を使わなくても済むという方でも、生活保護制度を使っている場合がある。社会福祉協議会の貸付を受けたとしても、2週間ぐらいかかってしまう。私達は生活困窮者支援から始まった団体なので行政と話し合いを行なった。その中でそういったケースではフードバンクを使いましょうということになった。静岡県では主に富士市と主に連携しているが、不思議なもので富士市と連携し始めたら焼津市や富士宮市も乗ってきた。私達生活困窮者支援をしている団体だからこそ、食のセーフティネットは雇用保険でもなく生活保護でもなく、その中間の新しい第2のセーフティネットに成りうるのではないかと感じている。他の地域で行政との協働に、二の足を踏んでしまっているのは何か理由があるのか、それとも必要だと思っているのか、わからなかったものだからパネラーの方というより、会場にいる他のフードバンク団体の方がどう考えているのかお伺いしたい。

NPO 法人フードバンク茨城理事長 菅谷則子氏

ご質問へのお答えにはならないが、行政と協働したいということで活動を始めて1年半になる。個人情報保護法という壁をやっと乗り越える事ができてきたのは、山梨さんのおかげ。山梨さんの存在がなかったらここまで来られなかった。1年半かけて茨城のつくば市でやってきたが、やっと県全体で取り上げようという所まで来た。食べ物だけでは救えない、やる気をなくして、生きる気力もなくした人、一人ぼっちで孤立している人、先々のことをどうすればいいのかと悩んでいる方々がたくさんいる。その方々を救うためにどのような支援ができるのか、その仕組みまで作って行かなければならないと、フードバンク活動の先にあるものとして見据えていこうと考えている所である。

大原氏

今日限られた時間の中で何か結論が出るというものではないが、フードバンクの可能性を探る貴重な機会になったのではないかなと思う。本日得ることができた様々なヒントや課題をもとに、これから一步ずつ前に進めていければと思う。

アンケート集計結果

参加者数：79人 回収：35人 回収率：44.3%

性別… 男26・女9

年齢… 20代(10人)、30代(8人)、40代(7人)、50代(5人)、60代(3人)、70代(1人)、不明(1人)

所属… 行政機関1、社会福祉協議会3、フードバンク団体6、一般5、その他12(独立行政法人1、NPO団体3、震災支援団体1、助成団体1、企業2、学生3、不明1)

(1) テーマ「国策としてのフードバンク」～食のセーフティネットの可能性～は、いかがでしたか。

1. とてもよい(20) 2. まあまあよい(13) 3. 普通(1) 4. あまりよくない(0)
5. 全くよくない(0)

感想

- ・諸外国の取り組みについては、ほとんど知らなかったので大変分かりやすかった。
- ・他国と比べると、日本はまだ「フードバンク」というシステムを活かしきれていないんだなと感じた。
- ・現在までのフードバンクの展開のスピードを感じた。
- ・初めてのお話が聞けた。
- ・学ばせていただきました。こうゆうフォーラムに参加し良かったと思います。

フードバンク活動に関する意見

- ・食の大切さ、フードバンクの必要性を改めて感じる事ができました。
- ・生活する上で仕事がなくとも、住まいがなくとも、食べ物があれば生きることできる。食への支援活動・フードバンクの大切さをあらためて知ることができた。
- ・他にはないテーマであると思います。行政との協働でこそ力を発揮する活動であると考えています。
- ・国策という大きなテーマで、できれば国の関係者もしくは、くわしい方にシンポジストにでももらってもよかったのでは。
- ・これまでも何度かフードバンクについてのシンポに参加したが、ディスカッションがすごく丁寧にとまとめられていて、わかりやすかった。参加するまでは、大きなテーマだと思ったが、うまくまとまっていたと思いました。

国策に関する意見

- ・サブタイトル「～可能性」「をめざして」理事長の発言から受けとめることができました。
- ・他にはないテーマであると思います。行政との協働でこそ力を発揮する活動であると考えています。
- ・最初の一步としての取り組みだったかと思います。今後いっそう活動の認知度を高める機会として、このような場を広く企画していただきたいと思いますし、私も何かできることがないか考えたいと思いました。

行政との協働に関する意見

- ・山梨の事例は、地域での活動の参考になった。ただし、数値化や効果については掘り下げてもらえたほうが良かった。メリットの具体的なものを全国で可視化が必要。国策に行くまでのステップをどうするかが重要。
- ・海外では当たり前前に政策として行政が関わっている事態をさらに発信していくべきと感じました。
- ・民間、NPO だけでは限界があると思う。官民が協働してフードバンクをより国民的な事業として広められるよう、まず地方から出来るところから一歩ずつ歩み続けていくことが大切だと感じた。
- ・フードバンク活動が広まっていくためには、行政とのつながりが重要である。しかし、行政の下請けであってはいけない。両者が対等でウィンウィンの関係を保つことができると思いました。
- ・どの団体もそうだと思いますが、活動の継続が一番の不安です。国が後押しし、事業化してくれれば、安心して活動が続けられますし意欲も増すと思います。少しでもスタッフに給与がないと人が集まらずに育たない。
- ・先は長いかも……。ガンバローと思います。
- ・とても良い提案だと思います。共に協力し、助け合う社会が必要だと感じます。

(2) 基調講演「海外で社会保障政策として推し進められるフードバンク」の理解度はいかがですか。

1. よく理解できた(14)
2. まあまあ理解できた(16)
3. 普通(1)
4. あまり理解できなかった(1)
5. まったく理解できなかった(0)

感想

- ・当事者、団体、研究機関、行政のそれぞれ代表される立場の方のお話は、フードバンクの活動自体が多面的に理解出来、大変分かりやすかった。
- ・韓国や欧米での活動がこのように進んでいることを初めて知り驚きました、きっか

けや経緯は様々だとは思いますが、日本での在り方を模索しつつ先駆者の皆様にがんばっていただきたいと思います。

- ・日本のフードバンクの進行が、韓国や他の国に比べて遅いのは、まだ日本の現状が恵まれていると感じた。
- ・韓国、欧米のフードバンクについて知ることができ、大変勉強になりました。日本はまだまだ国の政策として進んでいない現状が認識でき、今後進めていくべき問題であると強く認識できました。
- ・韓国・ヨーロッパ・アメリカのフードバンクの現状は、おおよそ理解することができた。
- ・海外は寄付が多くあり、文化として根付いていますが、日本はまだなので大変だと思いました。

意見

- ・もっと詳しく知ること、自分達の地域に適した形式のフードバンク事業を展開できると思う。
- ・事例については、もう少しききたかったです。
- ・諸外国でできることが、何故日本では出来ないのか、日本にとって何がネックなのか、国が取り組もうとしない原因はどこにあるかを、もう少し聞かせていただけるとよかったですと思います。(時間の都合もあるかと思いますが・・・)
- ・基礎知識をレクチャーする時間を別に設けて行う必要もあろうかと思われます。150分～180分で「レク」「講演」「シンポ」という形もご検討ください。
- ・海外 2 事例について理解できた。もう少し時間があれば予算割や政策の細かい部分について知りたかった。PEAD の課題と今後については、多くの示唆があった。
- ・EU は先行した国策としての「フードバンク」の「はたん」か？寄付文化の考えの違いか。
- ・政府関与の度合い等の例などがわかった。
- ・先進的な事例、その効果、課題を学ぶことができました。
- ・海外は行政の主導があり、充実していることがわかった。市民へ広く伝える取り組みも行っていることがわかった。
- ・海外の事例は、あまり学んでいませんでしたので役に立ちました。役所と話をするときの例につかいたいと思います。
- ・海外の現状については知らなかった部分が多かったので、とても勉強になりました。
- ・海外のフードバンクについて知る機会があまりなかったので、貴重なお話を聞くことができたと思います。
- ・フードバンクにかかわっていながら、海外・国内、よくわかっていませんでした。フォーラムを通じて理解できたと思います。
- ・初めて内容を拝見しました。詳細を改めてお伺いしたいと思います。

今後の展開

- ・とてもすばらしい。税制優遇はとても良いと思う。先日、地元の米国人（個人）から寄付があり、領収書を求められ発行した。税金の軽減は日本でも個人への適応もしてほしい。
- ・欧米のフードバンクの考え方と行政の中で「行政の支援策」として寄付者の税制優遇制度や助成金・資金援助も大変重要な施策であり、日本でも取り入れてもらいたいと思う。
- ・日本の遅れている様がよく分かり、また、どうやったら海外の制度を日本でもできるか、考えるきっかけになりました。企業への協力依頼をする際、もっと懸念されている「何かあったら」担保、ビル・エマーソン法のような法が日本にもあればと思いました。

（３）シンポジウム「日本における食のセーフティネットの可能性」の理解度はいかがですか。

1. よく理解できた(17) 2. まあまあ理解できた(12) 3. 普通(4)
4. あまり理解できなかった(0) 5. まったく理解できなかった(0)

意見感想

- ・今後はもっと関係者、関係団体以外の多くの方に問題提起することが必要だろうと感じました。活動の現状をもっと知らしめる必要があります。
- ・地域の実状をもっと知る必要性を感じる。東日本大震災・原発事故後、高齢化率が急速に進み、生活困窮者も増加していると思う。どのように対応すれば、それらの方々の救いにつながるのかと、さらに検討したいと思った。
- ・早期の食糧支援、行政との協働により公的支援制度も受けられない生活困窮者への迅速な支援をすみやかに行っていただきたい。
- ・貴重な意見があり、FB としての課題がこちらの課題としてもなりうることを実感しました。
- ・さまざまな視点、経験からのお話を伺えて、大変よかったです。
- ・各自の視点を交えた議論となり、国策として考える参考となった。
- ・各団体からの言葉をいただき、ありがとうございます。持ち帰り、参考にさせていただきます。
- ・じっくりお話を掘り下げていただいて、非常に有益な時間でした。1 時間という時間も適当であると感じました。
- ・他国では国の政策としてとりくまれていること、それに対する課題もあること。
- ・韓国、欧米等、国として取り組んでいる事例を知ることができたが、今後日本がどのように取り組みが進むべきかがもう少し具体的に聞けるとより良かった。

- ・中込市長さんの視点の柔軟性に、とても感動しました。私共も活動を進めていく中で、今まで見えなかった新たな問題点とぶつかる事も多くなりました。島根の現状に合った事業となるよう、他のフードバンク団体と連携しながら、課題を共有しながら進めていきたいと思います。
- ・やまなしと南アルプスの協働の最初の話は良かったです。静岡は、とくに静岡市はムズカシイ状態。
- ・NOP 法人と行政の連携についてのお話がとても興味深かったです。
- ・行政と NPO との連携がモデル（山梨）になってゆくと聞いて、うれしく思います。
- ・特に私の地元では、行政と民間の協働がむずかしい地域と思っているが少しずつ状況はかわってきているので、元気が出た。
- ・第2のセーフティネットということで、国が対応しきれていない人への支援は必ず必要なことだと思いました。
- ・時間が少なく感じました。
- ・各方面からフードバンクについて関心のある方々が参加されていたと思いますので、現在の日本の問題について、参加者も交えて質疑応答の時間を多くとってもらえると、もっと盛り上がったフォーラムになったのではないのでしょうか？
- ・登壇者の話は良かったのですが、テーマとの整合性が難しいですね。国内の他団体、行政（厚労省 or 農水省）担当者などをシンポジストにむかえても、おもしろいかもしれませんね。
- ・第一回ということで、次回にも期待します。調査結果を資料としてつけて頂きたかった。
- ・個人レベルでの「フードバンク」への参加、協力、支援の形をもっとわかりやすく、具体的に説明、アピールする必要があるのではないか。行政・企業・社協・NPO の存在は大きいが市民レベルへのアピール必要。
- ・今後、当団体で運営していくにあたり、参考になることが多くありました。

（４）その他、フードバンクに関して今後期待すること・ご意見等、ご自由にご記入ください。

- ・こうした地域の特色ある取り組みに県内の大学として関わる事が出来るのを大変光栄に思います。これからもよろしくお願いします。
- ・今後は生活困窮者の自立までの支援「中間的就労」がどう広がっていくのか、一度貧困におちいってしまうと、そこから抜け出すことが難しい中で、貧困のループを断ち切るような活動になっていけば良いと思います。
- ・ぜひ今後も今回のようなフォーラムを他フードバンク向け、一般向けに開催し、活動の周知、提言を続けていただきたいと思います。貴団体の行動力によって、新たな一步を踏み出すことができる人もたくさん生まれると思います。当機構でも生活困窮者四円事業、とくにフードバンク事業の周知についてできることを考え、実

戦していきたいと思っております。

- ・個人としても法人としても今後何かお役に立てることがないか、考えてゆきたいと思います。
- ・フードバンク山梨さんには、3.11以降大変お世話になりました。多くの方が助けられました。その思いを我々は別の形でお返しできますよう、フードバンク立ち上げをめざしたいと思います。
- ・ここまで南アルプス市で活動を定着させ、精力的に展開されている山梨さんに敬意を表し、後に続けたいと決意を新に出来る1日となりました。
- ・私どもの活動にとってはFBの活動はなくてはならないものです。これからもよろしくをお願いします。
- ・フードバンクの認知度の低さは確かにその通りだと思いました。個人的に何かお手伝いをしているわれではありませんが、食に困っている方を救うことができる、誰にでも必要性を認識してもらいやすいテーマだと思うので、ぜひ復旧の取り込みが進むことを期待しております。
- ・各地でのきめ細かいフードバンクのネットワーク構築、フードバンク、関係機関どうしでの食品融通、情報共有を普通出来ればいいなと感じた。
- ・私も東京で「かるがも」という小さな団体で多摩川の河川敷に定住している方々に、ささやかに支援しておりますが、やはり民間でできることには限りがありますので、各団体がネットワークでつながり国の社会保障政策となることを望みます。
- ・30代～40代の世代の多くが生活が破綻してきている状況に遭遇する。早いところ、このシステムを全国にはりめぐらしたいと思っている。
- ・今日のフォーラムを終えて、自分の中での食についての意識も少し変わりました。これからもボランティアに参加するなど、フードバンクとできるだけ携わっていきたいです。
- ・活動しながら、このような取り組みを続けられることは、大変だと思います。よい機会だったと思いますので、ぜひとも継続されることを希望いたします。大したことではありませんが、ご協力させていただきます。
- ・地元での食糧品の支援を受けるため、各企業にお願いを続けていますが、無償での提供という視点のみで考えていましたが、企業にとっても生活困窮者にとっても利益となる「フードドライブ」を来年にも実施できるよう、各方面と競技を重ねていこうと思いました。今日は、たくさんのヒントをいただきました。ありがとうございました。
- ・全国にたくさんの食べ物がいろいろな倉庫で大量にねむっています。特に、それを動かす為に流通のコストが大きな問題ですので、フードバンクの食糧・運送費は国が負担、又は税制優遇措置を大いに国に求めます。
- ・南アルプス市の中込市長さんの考えている「行政と民間との協働」のお話に感動しました。ものだけでなく、心の支援の大切さ、すばらしいと思いました。
- ・カゼ薬の例えは、わかりやすかったです。憲法25条＝食は制度として保証すべきに納得。制度化することで、支援対象の選定のところでファジーにできなくなると、

NPO としてやっているよさが生かせなくなるのではないかと思います。仕組みを制度化するよりも補助金など、支援策を充実させる方がよいのでは。

- 山梨FBの実態調査の内容がわからないところがあるので、議論の前提が崩れていた。氷川氏のコメントで、EU では生活困窮の実態調査が豊富とのことで、今後の統計として重要である。
- 韓国の事例は日本に参考になるのではないかと。西洋の「ほどこし」の寄付文化より、韓国の「わかち合い」の寄付文化がわかり易い。日本は「？」。寄付文化にするか。
- 最後まで参加できず申し訳ありません。また当日の議論内容につきまして情報提供いただけると幸いです。
- とても重要な活動だと思いました。ありがとうございました。
- 食を与えるだけでなく、その先にある自立などの支援も含めて活動していくことが、持続可能な活動へとつながるのではないかと思います。



資 料

食のセーフティネットと 日本におけるフードバンクの課題

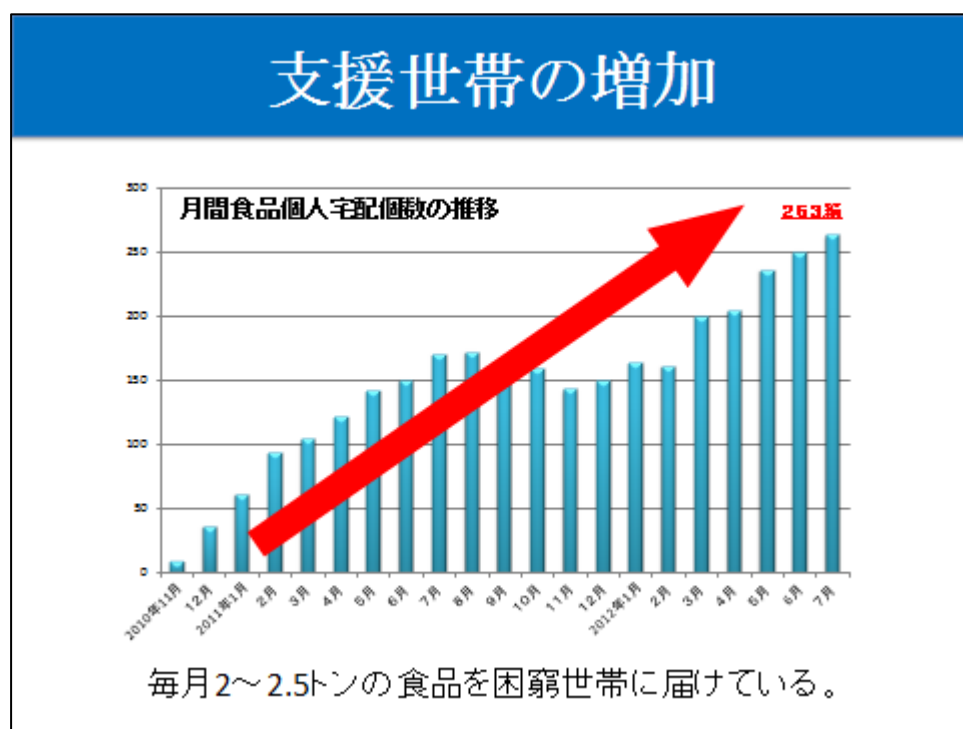
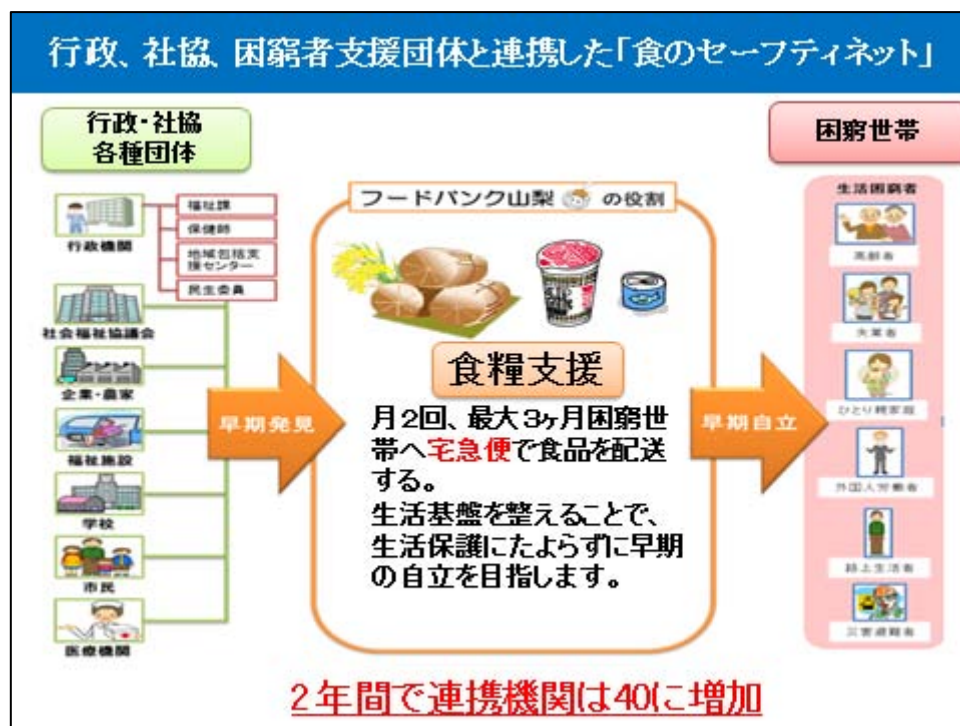


NPO法人
フードバンク山梨

なぜ食糧支援が必要なのか？

困窮状態

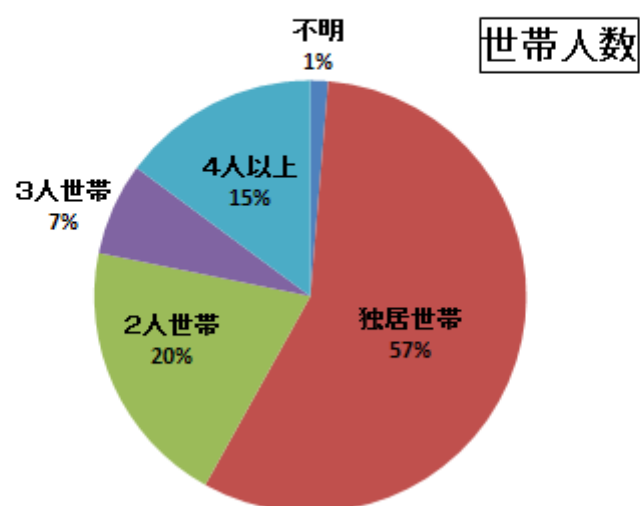
- 仕事がない
- 住まいがない
- 食べ物がない



アンケート調査の実施

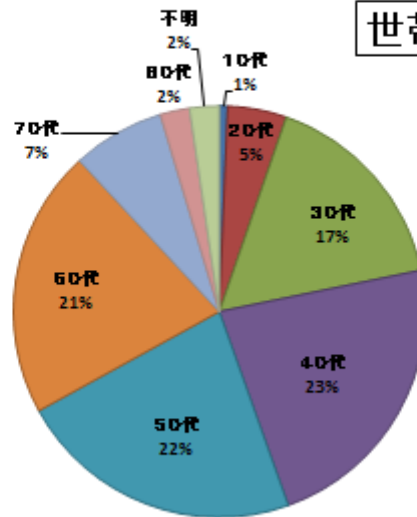
- 調査対象:これまでにフードバンク山梨を利用したことがある世帯または現在利用している世帯 **361世帯**
- 調査期間:**2012年7月19日～8月3日**
- 調査方法:調査票は訪問時に配布、郵送で回収
- 回収数:**119世帯**
- 有効回答数:**118世帯**

食のセーフティネット利用者属性

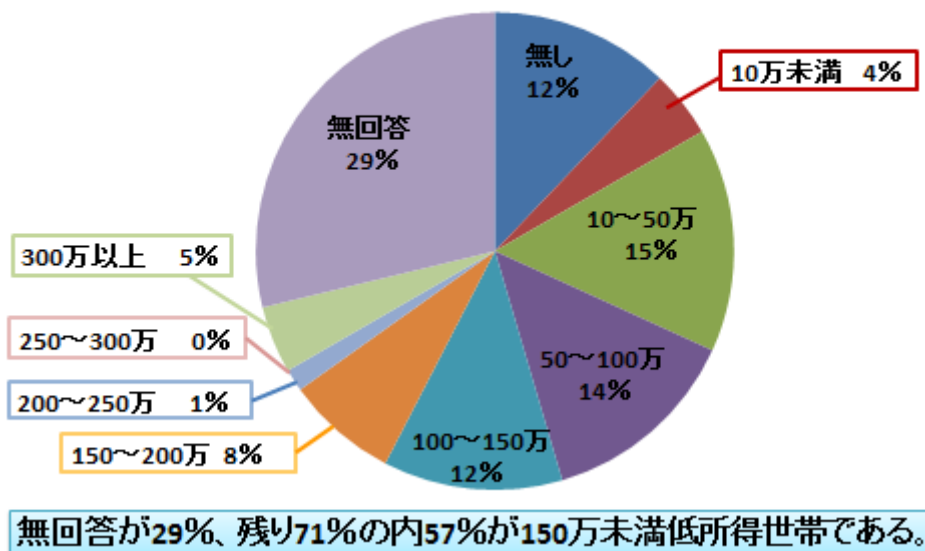


食のセーフティネット利用者属性

世帯主の年齢比

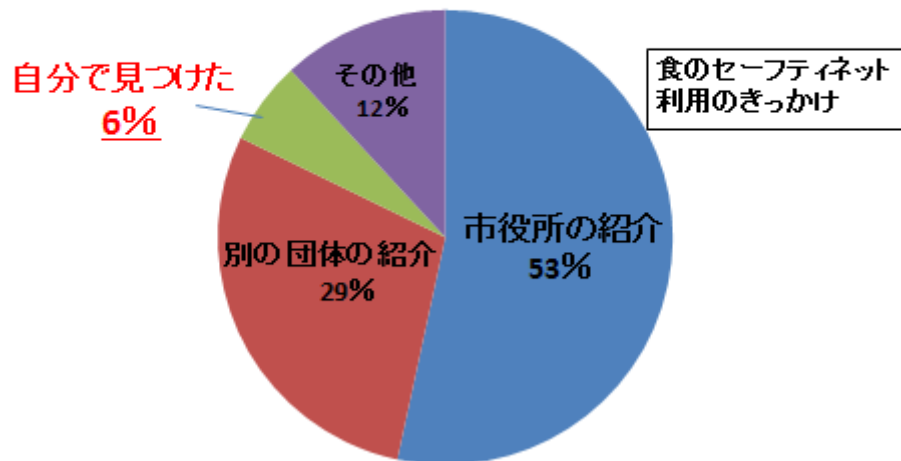


食のセーフティネット利用世帯の年収

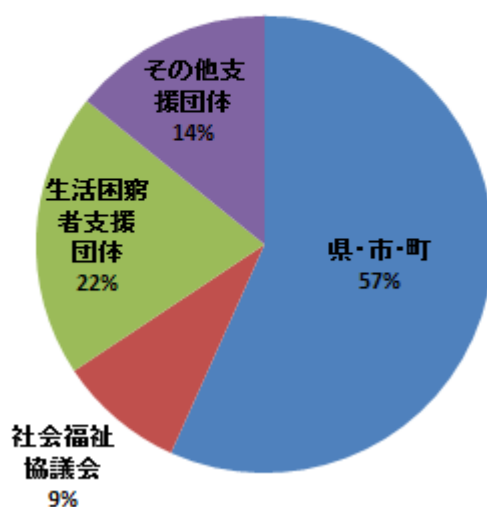


なぜ行政、社会福祉協議会、 困窮者支援団体と連携するのか？

生活に困窮した方が一番最初に行くところは市役所や社会福祉協議会であるため、それらの機関と連携することで県下の広域において生活困窮者の把握が可能となる。



食のセーフティネット事業 2011年度申請元機関・団体内訳



県・市・町	152件
社会福祉協議会	24件
生活困窮者支援団体	54件
その他支援団体	38件
合計	268件

◆その他支援団体一覧

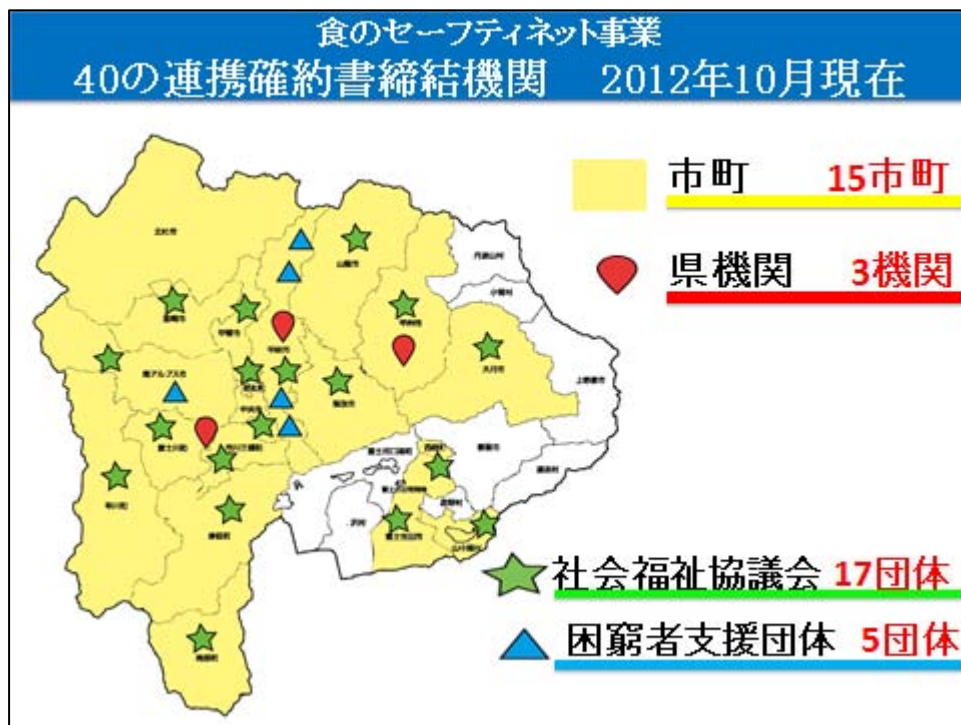
- ・外国人支援団体
- ・小学校
- ・定時制高校
- ・障がい者授産施設
- ・震災避難者支援団体
- ・介護支援事業所
- ・病院
- ・地域包括支援センター

市町福祉課・県機関・団体との連携

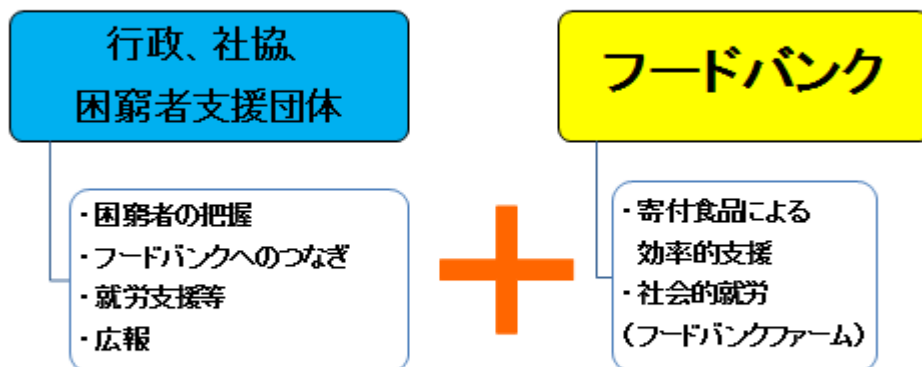
40機関・団体と連携確約書締結

2012年10月現在

行政(18)	社会福祉協議会(17)	支援団体(5)
南アルプス市 甲府市 韭崎市 北杜市 甲斐市 中央市 昭栄市 甲州市 市川三郷町 富士川町 南都町 身延町 早川町 富士吉田市 西桂町 山梨県中北保健福祉事務所 山梨県峡南保健福祉事務所 山梨県峡東保健福祉事務所	甲府市社会福祉協議会 富士吉田市社会福祉協議会 山梨市社会福祉協議会 大月市社会福祉協議会 韭崎市社会福祉協議会 南アルプス市社会福祉協議会 甲斐市社会福祉協議会 昭栄市社会福祉協議会 中央市社会福祉協議会 昭和町社会福祉協議会 市川三郷町社会福祉協議会 富士川町社会福祉協議会 早川町社会福祉協議会 身延町社会福祉協議会 南都町社会福祉協議会 西桂町社会福祉協議会 山中湖村社会福祉協議会	NPO法人やまなし ライフサポート 社会福祉法人山梨ライフハウス 青い鳥支援センター 特定医療法人南山会 地域活動支援センターきがる館 一般社団法人多文化 リノースセンターやまなし 株式会社アソナックス



連携による相乗効果



食のセーフティネット事業のメリット

1. 無償の食糧現物支給による効率的支援
2. 早期の食糧支援、行政との協働による就労支援によって生活保護に陥ること無く自立
3. 行政、社協、支援団体、民生委員との連携による早期把握・早期支援・広域支援
4. どの公的支援制度も受けられない生活困窮者への迅速な支援
5. 市民の助け合いの心の醸成

連携機関との信頼関係を構築するために 定期的にフードバンク連携会議を開催



2012年3月 山梨県、県福祉事務所、市町福祉課、
社会福祉協議会など 19機関が出席
2012年9月 15機関が出席

アドボカシー活動（政策提言） 環境大臣へフードバンク活動支援要請



農林水産省と厚生労働省への フードバンク活動支援要請



2011年5月
農林水産省
食品産業企画課 食品環境対策室 へ
要望書提出

2011年6月
厚生労働省
社会・援護局 地域福祉課
へ
要望書提出



南アルプス市・甲府市へ フードバンク活動支援要請



2011年6月 南アルプス市長訪問
賛同書をいただきました



2011年9月 甲府市長訪問

厚生労働省生活困窮者自立支援室へ 食のセーフティネットモデル提案

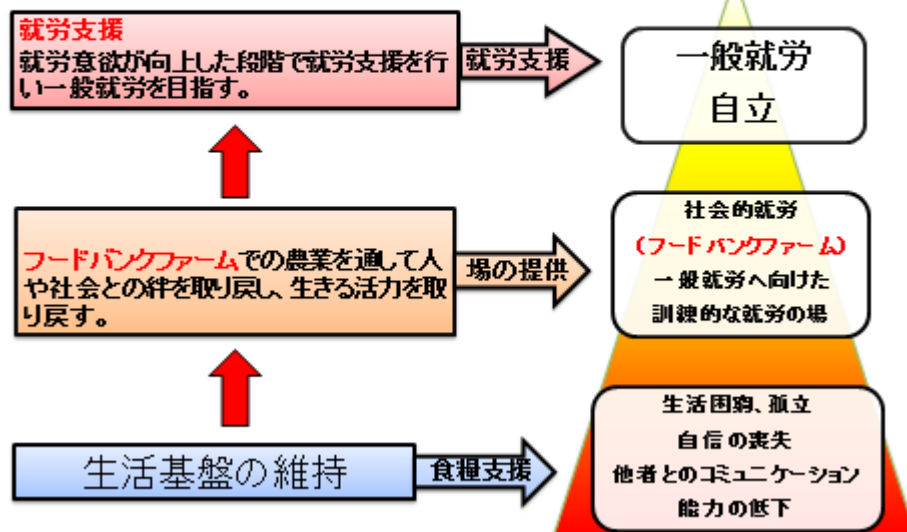


2012年8月

厚生労働省
生活困窮者自立
支援室 室長へ

「新たな第2の食
のセーフティネット
モデルの提案」
提出

新たな取り組みフードバンクファーム 人と人がつながるというセーフティネット



フードバンクファームは南アルプス市内の
耕作放棄地を借り、2012年度7月より実施



7月中旬



9月中旬

12月現在大根、人参、玉ねぎ、白菜、水菜、ほうれん草などを栽培
している。収穫した作物は生活困窮者への食糧支援に使用する。

コスモスの定植



9月上旬



フードバンクファームの効果

フードバンクファームでは耕作放棄地を活用するので、耕作放棄地の増加問題解決にも寄与することができる。

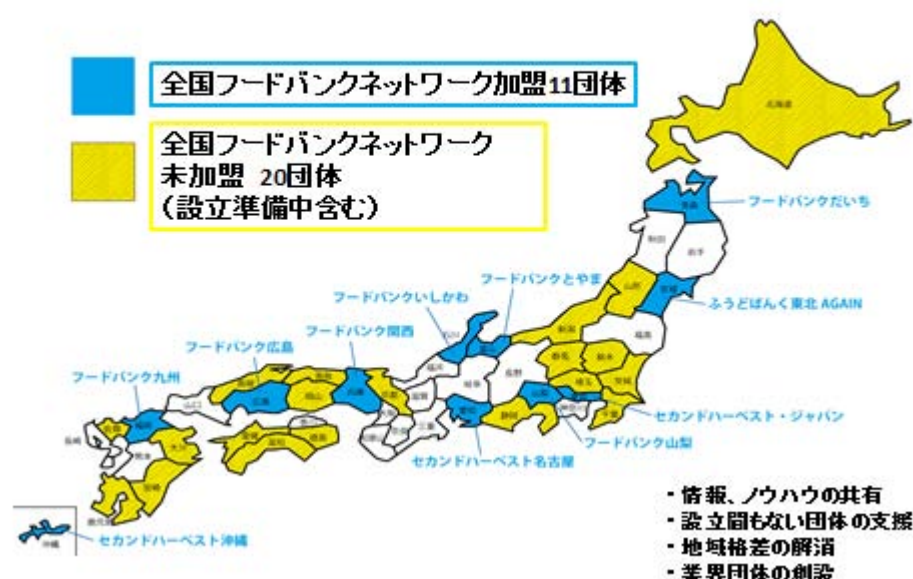


7月13日より活動が開始され、11月現在、1名が就労支援により就労自立したほか、就労意欲が向上した3名が就職活動を開始。

日本におけるフードバンクの課題

1. 日本全国のフードバンク団体の連携
2. 認知度
3. 運営資金の確保
4. フードバンク活動を推進するための仕組みや制度

課題①日本全国のフードバンク団体の連携不足



課題②地方における認知度不足

日本ではフードバンクの歴史は浅く、特に地方においては、認知度が依然として低く、食品企業も少ないため企業からの食品の寄付が集まりにくい。

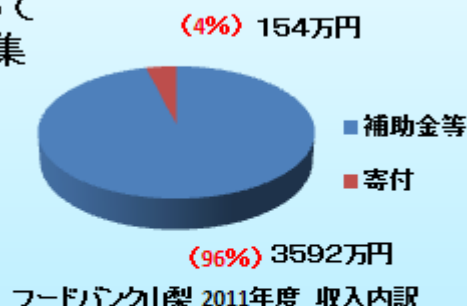
課題解決に向けたフードバンク山梨の取り組み

- 様々な場での講演会
- フードドライブや、きずなBOXなど一般市民や企業を巻き込んだイベントの開催
- マスメディアへの露出
2012年:新聞掲載16回、テレビ出演20回



課題③運営資金の確保

- ◆日本では寄付文化が根付いておらず、市民からの寄付が集まりにくい。そのため、**寄付だけに頼った組織運営は難しい。**



- ◆フードバンク自体が**新しい活動**のため、純粋なフードバンク活動に対する公的な助成枠がなく、設立されたばかりの団体に限らず、日本のフードバンク団体は最低限の人件費の確保すら困難なのが現状。

課題解決に向けたフードバンク山梨の取り組み

フードバンク山梨では**2008**年から**2011**年までは主にふるさと雇用再生特別基金事業「商店街活性化ビジネス」で運営資金を確保。

2012年度は厚労省の「絆」再生事業や社会福祉推進事業等により運営資金を確保した。

全国的なフードバンクの発展には、純粋なフードバンク活動に対する助成枠の創出が必要不可欠



アドボガシー活動
関係省庁への
働きかけ

課題④フードバンク活動を推進するための仕組みや制度がない

先進的なアメリカの事例

- 1.農作物価格安定政策により買い上げられた作物をフードバンクに寄付
- 2.ビル・エマーソン食糧寄付法による寄付側の法的責任の軽減
- 3.食糧の寄付に対する税の控除
- 4.賞味期限切れの食品を扱う際のルール整備

このようにアメリカにあるような**フードバンク活動を推進する仕組みや制度**が日本にはない。

フードバンクはこれからの日本社会 から必要とされる活動



2年間という短い期間でこれほど広い範囲で、多数の機関と連携できたのは、行政からだけでなく社会全体から必要とされているからである。

フードバンクは市民、企業、行政と深く関係しており、食品ロス削減、環境負荷低減、貧困問題など、様々な分野で社会に貢献することができる。海外事例からみても今後日本のNPOにおいて最も成長するセクターである。



フードバンクフォーラム
国策としてのフードバンク
～食のセーフティネットの可能性～

韓国のフードバンク

セカンドハーベスト・アジア 李 永淑



趣旨と背景



1

「食品分かち合い文化」の継承

・隣人と食品を分かち合う、美しい伝統を継承してきた韓国が、食品分かち合い文化を制度化できずに、食品資源を浪費している。

2

余剰食品などの福祉資源化を図る

・年間18兆ウォン相当の「食品資源の浪費」を「食品分かち合い福祉制度」へ転換

3

政策推進の適時性

・98年の外貨危機によって発生した、路上生活者などの、社会から疎外されている層に対する支援に関する、国民的共感帯が拡散される中、フードバンク事業は、福祉事業として定着した。
・08年のグローバル経済危機の余波の続くなか、寄付食品などの支援体系、インフラの大幅な拡充を通して、貧困層に対する迅速な食品などの支援によって欠食問題を積極的に緩和したい。

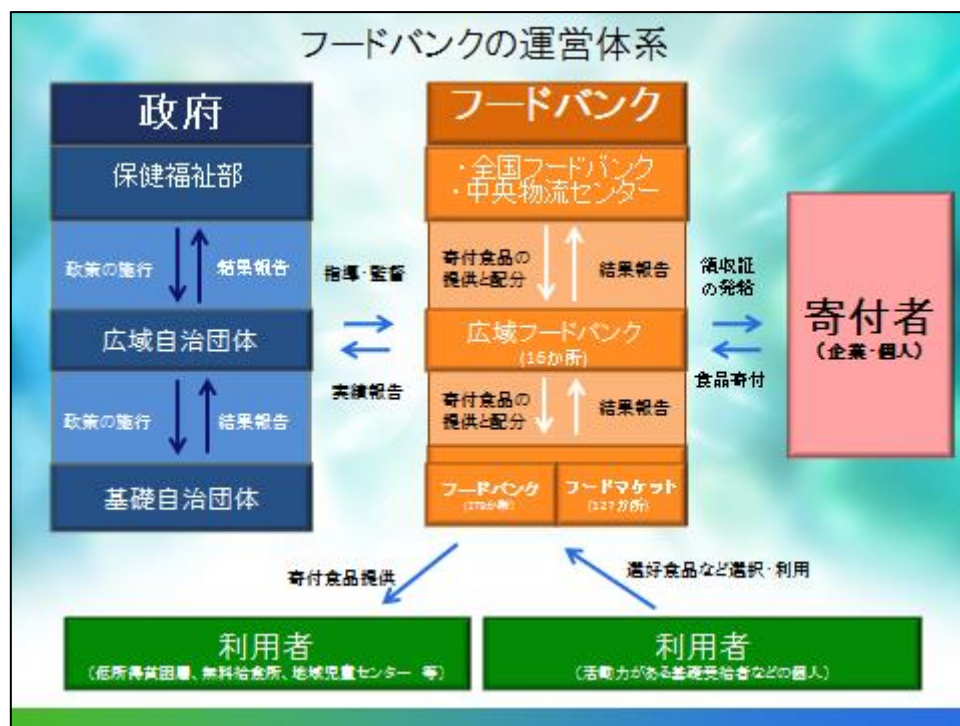
事業根拠となるもの

2006年3月
「食品寄付活
性化に関す
る法律」の制
定と施行

2012年度保
健福祉部「寄付
食品提供事業の
運営案内」

推進の経過





全国分布状況 (全国・広域フードバンク)

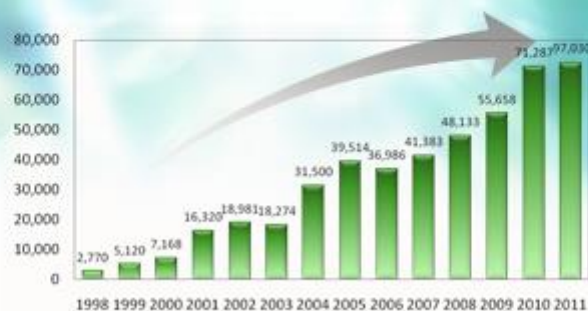
区分	計	全国	ソウ ホ	香 島	大 分	仁 田	高 知	大 田	香 島	京 島	江 原	山 梨	山 梨	山 梨	山 梨	山 梨	山 梨	山 梨
合計	424	1	80	29	20	26	18	16	9	69	20	27	27	20	29	24	23	6
フード バンク	298	1	26	16	12	11	15	6	7	53	19	22	20	15	26	20	19	4
フード マ ケ ット	126	-	52	11	8	15	3	8	2	16	1	5	7	5	3	4	4	2

韓国フードバンク事業の現況

・食品寄付の現況

単位: 百万ウォン(1ドル=1100ウォン)で換算した円単位値

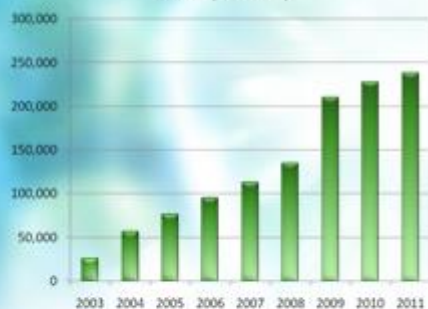
区分	累計	2011	2010	2009	2008	2007	2006	2005	2004	2003	2002	2001	2000	1999	1998
合計	485,283	97,080	71,287	55,655	48,133	41,383	36,986	31,500	25,514	21,920	18,274	15,981	14,320	7,168	2,770
	39,859	7,762	5,703	4,453	3,850	3,311	2,958	3,161	2,520	1,462	1,518	1,306	573	410	222



寄付食品利用者および団体の現況

・利用者(1日平均)

利用者(1日平均)



2011年度利用者



ビジョン・目標および事業内容

ビジョン

食糧困窮のための「民間社会安全網（セーフティ・ネット）」の役割を遂行

目標及び 事業内容

寄付食品提供事業の活性化と基盤の醸成および分かち合い文化の醸成

全国フードバンクの運営

- ・寄付食品提供事業のインフラを拡充
- ・食糧安全事項の予防と教育・訓練の強化
- ・寄付食品の公正・透明性確保のための、FMSの高度化

中央物流センターの運営と内実化

- ・全国単位での、寄付食品の安全な保管と管理
- ・寄付食品の支援物資の需給調整
- ・緊急需要に備えた保有食品の管理および迅速な運送の支援

食品寄付の拡散・促進活動

- ・食品などの寄付文化の拡散のための、**食品寄付ボックス**の設置と管理
- ・食品などの寄付文化の拡散および参入の促進のための大国民店頭の強化

フードバンクおよびフードマーケットの運営支援

- ・全国の各単位別フードバンクおよびフードマーケットの運営支援



フードマーケット担当者の サービス風景



利用品目のバーコード入力システム



食・生活用品寄付ボックスネットワーク



寄付食品中央物流センターネットワーク



기부식품 중앙물류센터 내부전경



기부식품 물류센터 식품 보관전경



식품꾸러미 포장하는 모습



기부식품의 자원 적재 모습

푸드뱅크事業部事務所 (社会福祉協議会内 全国푸드バンク))



フードマーケット内①



フードマーケット内②



物流センター



物流センター内



フードバンク用トラック



ご清聴ありがとうございました。
감사합니다.



欧米のフードバンクと政策について

2012年12月17日

株式会社三菱総合研究所

主任研究員 氷川珠恵

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.

ヨーロッパの政策

PEAD

(MDP: FOOD DISTRIBUTION PROGRAMME FOR THE
MOST DEPRIVED PERSONS OF THE COMMUNITY)

“最も恵まれない人たちへの食糧配給プログラム”

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.

2

PEAD(MDP)誕生の背景

1980年代 EU各国は市場介入により買い上げた食品で倉庫が満杯

■ CAP(Common Agricultural Policy) : 価格支持(最低価格の保証)

- 作物別に支持価格を定め、市場価格がそれを下回った際に、EU加盟国の機関が買い支えを実施(対象となる作物:小麦、大麦、トウモロコシ、大豆、牛肉、乳製品など)

■ 在庫は・・・

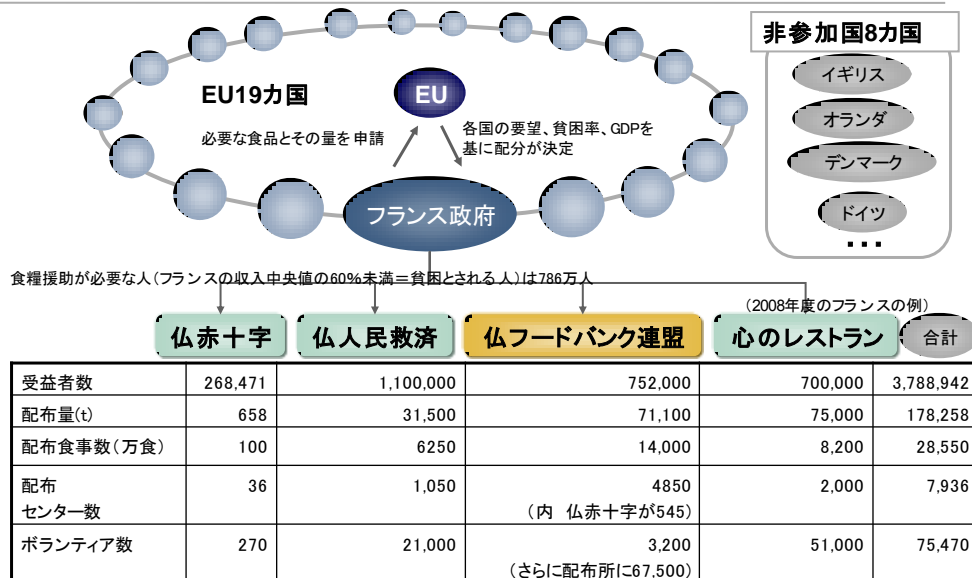
- EU内で販売できない
- コスト高によりEU外の国に販売することができない
- 倉庫代など、経費の負担増



PEAD

“最も恵まれない人々への食糧配給プログラム”

PEADの食糧流通システム



【参考】フランスのフードバンク

【概要】

- 1984年パリ郊外でアメリカのフードバンク活動を参考に活動開始
- フードバンク数は79(2009年時点、ヨーロッパで最多)
- PEADからの食品提供は全体の約3分の1

【行政の支援策】

- 栄養面の配慮等の理由から、政府が生鮮品を提供(1000万€規模)
- 寄付者の税制優遇制度
- 地方自治体による資金援助
- 地方自治体の雇用支援制度により有給で職員雇用

【フードバンクに関連する規制、法律】

- 他の食品関連事業者と同様に農林水産省食糧総局の衛生管理状況の監査を受ける

【参考】ヨーロッパフードバンクキャンペーン

毎年冬の初め(11月~12月)に実施

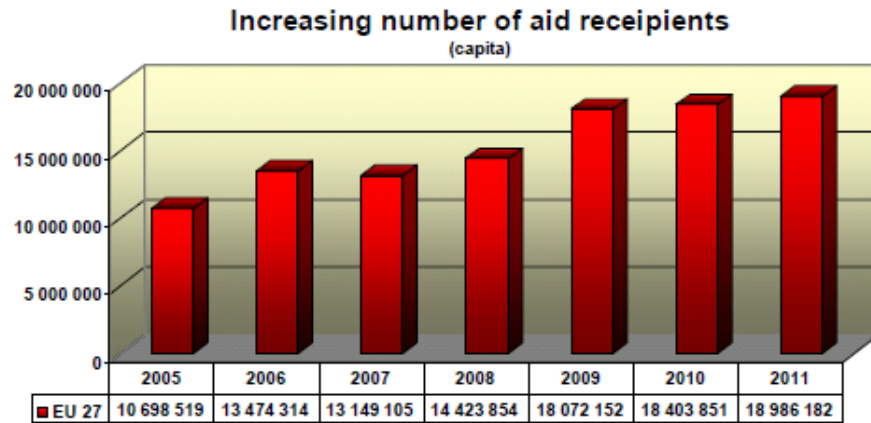
2011年の実績

11月23日・24日 フランス 12,500トン、イタリア 9,600トン

11月29日・30日 スペイン1,700トン、ポルトガル2,914トン、イギリス1000トン

<http://www.eurofoodbank.org/>

PEADの受益者



COMMISSION STAFFWORKING DOCUMENT IMPACT ASSESSMENT
Accompanying the document
 Proposal for a Regulation of the European Parliament and of the Council on the Fund for European Aid to the Most Deprived
 Brussels, 24.10.2012

PEADのこれまで①

年	PEADの状況
1987	<ul style="list-style-type: none"> フランス人コメディアンのコリュシュと当時のEU委員長 ジャック・ドロールの提案で設立 共通農業政策(CAP)の第一の柱(価格市場政策)のための制度の一つ 当初の目的はEUの農産物に関する介入買入在庫の有効活用と食糧支援の両立(加盟は任意)
1990年代半ば	<ul style="list-style-type: none"> 一時的に介入買入在庫が活用できない場合は同種の農産物を市場から調達することも可能

PEADのこれまで②

年	PEADの状況
2008～ 2009	<ul style="list-style-type: none"> CAPの改正により市場志向の農業が推進され、活用できる介入買入在庫が急減 必要に応じて常時市場から農産物の調達を可能とするため、数回にわたりPEAD制度の見直しが検討されたが、加盟国反対により行き詰り、協議は紛糾
2011	<ul style="list-style-type: none"> PEAD加盟国に対して市場調達のための金銭的支援を提供することは違法であると、ドイツがEU裁判所（一般裁判所）に提訴 裁判所は、原則として公的食糧在庫のみから食糧を調達する必要があると判断。 その後、制度の改正のための協議が重ねられたが、加盟国間で意見は食い違うまま。
2012	<ul style="list-style-type: none"> 膠着状態に終止符を打つべく、現行のスキームを2013年まで継続させることに合意する、EU規則(EU)No.121/2012を採択 現行PEADは2013年で終了、同年以降は、European Fund for Aid to the Most Deprived (FEAD)という新制度に移行（新制度の具体的内容については協議中。）

新制度FEAD(European Fund for Aid to the Most Deprived)

現在検討中の案

選択肢	概要	非金銭面での支援	付随する手段
0: 支援なし	撤退		
1: 食糧配給	現物支給/金銭支援?	食品セット 食事	
2: 食糧支援	1と同じ	1と同じ	<ul style="list-style-type: none"> 家計、調理、栄養等に関するトレーニング 自信と目標設定のトレーニング 食品のサプライチェーンとの協働、社会的雇用
3: より幅の広い支援	どのようなモノを? 現物支給/金銭支援?	(1) 食糧支援(1と同じ) (2) ホームレスが住居に定住するための物品支援 (3) 子供のための物品支援	2に加え、 <ul style="list-style-type: none"> 課外活動 育児相談

アメリカのフードバンクと政策

アメリカのフードバンク

【概要】

- 1967年にアリゾナ州でフードバンク活動開始、全米に200以上
- 食品ロス削減がきっかけであったが、現在は飢餓撲滅に主目的がシフト
- 企業等からの寄付が少ない肉や乳製品などの食品を購入し、施設・団体に提供
- 食品提供の際には施設・団体より共有施設維持費を徴収
- 企業、個人からの寄付が主な収入源

【行政の支援策】

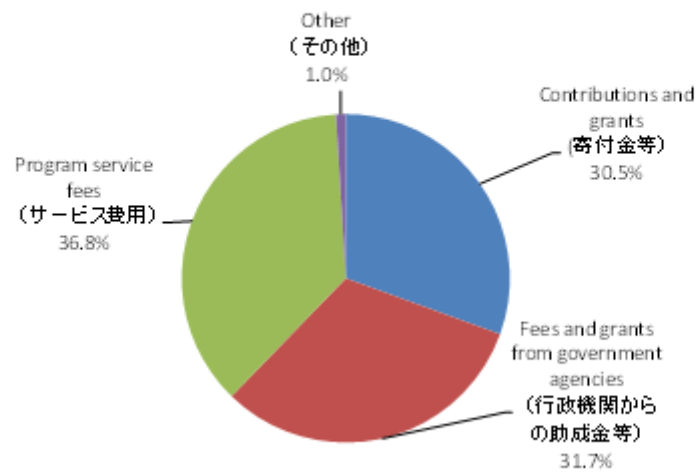
- 助成金制度
- 農務省が生産者より買い上げる余剰農畜産物の提供
- 寄付者の税制優遇制度
- 事故発生時に食品提供者の責任を免除する法律

【フードバンクに関連する規制、法律】

- 営利目的の食品倉庫事業者と同レベルの衛生管理を求められ、FDA、USDA、地方保健局の監査を受ける

【参考】アメリカのフードバンクの状況

Northern Illinois Food Bank 収入の内訳



Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.

13



NPO法人フードバンク山梨主催 フードバンクフォーラム

「国策としてのフードバンク」～食のセーフティネットの可能性～

スケジュール

15：30 はじめの言葉

主催者挨拶

シンポジスト・コーディネーター紹介

第1部基調講演

「海外で社会保障政策として推し進められるフードバンク」

15：35 「韓国ของフードバンク」 李永淑氏

15：50 「欧米のフードバンクと政策について」 氷川珠恵氏

16：10 「食のセーフティネットと日本におけるフードバンクの課題」 米山けい子氏

16：30 「行政と民間との協働」 中込博文氏

16：45～50 休憩

第2部シンポジウム

「日本における食のセーフティネットの可能性」

16：50 コーディネーター 大原悦子氏

シンポジスト 李永淑氏、氷川珠恵氏、中込博文氏、米山けい子氏

17：55 終わりの言葉

18：00 終了

- ・ 終了後、アンケートへの協力をお願いします。
- ・ 地下1階にて、ゲストカードを返却し、お帰りください。

*書籍販売のお知らせ

コーディネーター大原悦子氏の著書

「フードバンクという挑戦 貧困と飽食のあいだで」(岩波書店)

定価 1995 円(税込)を 1700 円(税込)で販売します。20冊限定ですので、この機会にご利用くださいませ。

2012. 12. 17 フードバンクフォーラム アンケート
以下、該当する番号に○や数字をご記入ください。

性別… 男 ・ 女 年齢… () 歳代

所属… 議員、行政機関、社会福祉協議会、フードバンク団体、一般、その他
()

(1) テーマ「国策としてのフードバンク」～食のセーフティネットの可能性～はいかがでしたか。

1. とてもよい 2. まあまあよい 3. 普通 4. あまりよくない 5. 全くよくない

ご意見ご感想)

(2) 基調講演「海外で社会保障政策として推し進められるフードバンク」の理解度はいかがですか。

1. よく理解できた 2. まあまあ理解できた 3. 普通 4. あまり理解できなかった
5. まったく理解できなかった

ご意見ご感想)

(3) シンポジウム「日本における食のセーフティネットの可能性」の理解度はいかがですか。

1. よく理解できた 2. まあまあ理解できた 3. 普通 4. あまり理解できなかった
5. まったく理解できなかった

ご意見ご感想)

(4) その他、フードバンクに関して今後期待すること・ご意見等、ご自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

* 差し支えなければ、連絡先等をご記入ください。

お名前

所属

メール

NPO法人
フードバンク山梨主催

フードバンクフォーラム 「国策としてのフードバンク」 ～食のセーフティネットの可能性～

第1部 基調講演

「海外で社会保障政策として推し進められるフードバンク」

第2部 シンポジウム

「日本における食のセーフティネットの可能性」

開催日 2012年 **12月17日**(月)15:30～18:00

参加費 無料 定員 100名

場所 三菱総合研究所 4F大会議室



中込博文氏
南アルプス市
市長



李 永淑氏
セガンドハーベスト・
アジア
特任研究員



氷川 珠恵氏
三菱総合研究所
主任研究員



米山 けい子氏
NPO法人
フードバンク山梨
理事長



大原 悦子氏
ライター、津田塾大学
ライティングセンター
特任教授

コーディネーター

主催

NPO法人
フードバンク山梨



共催



株式会社三菱総合研究所

<お問い合わせ> NPO法人フードバンク山梨

〒400-0306 山梨県南アルプス市小笠原317サンシャインビル1F Tel / Fax : 055-282-8798 担当 齊藤・河野

開催趣旨

雇用情勢が悪化し、生活保護受給者が過去最多を記録する中、厚生労働省は生活困窮者の自立を支える「生活支援戦略」を検討しています。社会資源を最大限活した、効率的な支援が可能なフードバンクは、最後のセーフティネットである生活保護前の「第2のセーフティネット」として、今注目を集めています。

このフォーラムでは、すでにフードバンクをセーフティネットとして社会保障政策の中に組み込んでいる欧米や韓国の取り組みを学び、日本でのフードバンクの可能性やあり方を検討します。「フードバンクを国策にする」という目標を全国各地のフードバンク団体が共有し、直面する貧困問題の解決に向け、「社会保障政策としてのフードバンク確立」への道筋をつけたいと考えています。議員、行政関係者、市民等多くの皆様にご参加いただき、日本におけるフードバンクの未来について議論を深めていきたいと思います。



「2011年12月3日朝日新聞より」

会場案内

場所：株式会社三菱総合研究所(略称MRI) 4F大会議室 【東京都千代田区永田町二丁目10番3号】

当日連絡先：03-6705-5532(担当:氷川)

- 東京メトロ南北線・銀座線 溜池山王駅6番出口直結
- 東京駅より車で10分
- 東京メトロ千代田線・丸の内線 国会議事堂前駅6番出口直結

後援

山梨県、甲府市、富士吉田市、韮崎市、南アルプス市、北杜市、甲斐市、甲州市、中央市、山梨県社会福祉協議会、山梨県ボランティア協会、テレビ山梨

参加ご希望の方は、FAXまたは、facebookからお申込ください。

FAX：055-282-8798

facebook: <http://www.facebook.com/foodbank.yamanashi>

F A X 申込書	申込締め切り 2012年12月10日 (月)		
氏名		同行者 人数	
所属			
住所	〒		
電話		FAX	
メール			

フードバンクフォーラム開催概要

日時 2012 年 12 月 17 日（月）15：30～18：00

場所 三菱総合研究所 4 F 大会議室（東京都千代田区永田町二丁目 10 番 3 号）

参加者数 79 人

登壇者

大原 悦子 （ライター、津田塾大学ライティングセンター特任教授）

中込 博文 （南アルプス市 市長）

氷川 珠恵 （三菱総合研究所 主任研究員）

李 永淑 （セカンドハーベスト・アジア 特任研究員）

米山 けい子 （NPO 法人フードバンク山梨 理事長）

主催

NPO 法人フードバンク山梨

共催

セカンドハーベスト・ジャパン、株式会社三菱総合研究所

後援

山梨県、甲府市、富士吉田市、韮崎市、南アルプス市、北杜市、甲斐市、甲州市、中央市、

山梨県社会福祉協議会、山梨県ボランティア協会、テレビ山梨

平成24年度 セーフティネット支援対策等事業費補助金
社会福祉推進事業

山梨県内の生活困窮者の早期把握に関する実態調査 報告書

2013年3月
NPO 法人 フードバンク山梨

未来をより良い社会にしていく為に

フードバンク山梨 理事長 米山けい子

生活保護制度は国民の最低限度の生活を保障する役割を担って来ましたが、『入りにくく、出にくい仕組み』と言われてきました。

また、捕捉率も低く制度の狭間にいる方も多いのが現実です。

その様な方々への支援は、これまで皆無でした。フードバンク山梨は生活困難な状態に陥ってから支援するのではなく、早期に支援する事の重要性を感じてきました。

そして、2010 年より、生活に困窮する個人への食料支援を開始しました。

この仕組みは「食のセーフティネット（山梨モデル）」であり、国の社会保障制度として、新たなセーフティネットとなりうる可能性を感じています。

この度のアンケートで、これまでどの公的制度も受ける事が出来なかった生活に困窮する方々の実態が浮き彫りになりました。

私達は「一億総中流」の夢の社会からめざめ、現実の貧困問題と真摯に向き合うべき時が来ています。

今回のアンケート調査が、拡大する貧困問題の解決に一石を投じ、未来をより良い社会にして行く為に寄与する事を願ってやみません。

最後になりますが、アンケート調査にご協力頂いた多くの皆さんに心より感謝申し上げます。

さらに、調査の詳細な分析等ご尽力頂きました株式会社三菱総合研究所様、今回の調査への真摯な考察をお寄せ頂きました健康科学大学の川村岳人先生に厚くお礼申し上げます。

平成24年度 セーフティネット支援対策等事業費補助金
社会福祉推進事業

山梨県内の生活困窮者の早期把握に関する実態調査 報告書

① フードバンク山梨利用者に関する実態調査

調査報告

株式会社三菱総合研究所

山梨県内の生活困窮者の早期把握に関する実態調査報告書

①フードバンク山梨利用者に関する実態調査

目次

1. 調査の概要.....	116
1.1 調査手法	116
1.2 調査結果	116
2. 調査結果	118
2.1 アンケート調査	118
2.2 ヒアリング調査について	134

1. 調査の概要

1.1 調査の手法

本調査では、生活困窮者であることが行政やNPO等の支援機関によって既に把握されている生活困窮者（以下、「把握済み群」という）の実態を把握するため、これまでにフードバンク山梨を利用したことのある世帯または現在利用している 118 世帯に対してアンケート調査を行った。また、アンケート調査を行った者のうち、ヒアリング調査への協力を可とした 53 世帯に対して追加でヒアリング調査を行い、対象となっている世帯について、主なケース別に分類し、状況を分析した。

1.2 調査結果

(1) フードバンク山梨利用者に対するアンケート調査

主に以下のことがわかった。

- 利用者の大半が生活保護を過去も現在も受けていない。
- 回答者の 3 割が「無職であり、求職中である」で、「正社員／職員で働いている」は 2%にすぎない。
- 世帯の主な収入源については、「年金」「生活保護の給付金」「給与」それぞれが 3 割程度になっている。利用者では「給与」が約 4 割であり、生活保護世帯を除くその他世帯では「年金」が約半数となっている。
- 回答世帯のほとんどが 150 万円未満の年収の世帯である。利用者と生活保護受給者を比較すると利用者では 50 万円未満が 13 名（利用者全体の 37%）であるのに対して受給者では 0 %であり、生活保護受給者よりも低い年収の回答者が相当数いる。
- フードバンク利用前後では、金銭的理由による食事制限の回数が大幅に減少している。
- フードバンク利用のきっかけは「市役所の紹介」が大半であり、「別の団体の紹介」を合わせると全体の 8 割を超える。「自分で見つけた」という回答者は 7 名（全体の 6 %）であった。
- フードバンク山梨と自治体や関係機関との連携については、「今のままで良い」とする回答が約 6 割である一方で、約 2 割がもっと「連携してほしい」と回答した。「連携しなくても良い」という回答はなかった。
- フードバンク山梨の利用によって、約 8 割の回答者の気持ちが前向きに好転している。
- 個人宅配の食品箱に入れる手書きの手紙については、「今のまま」「毎回入れてほしい」を合わせると 8 割を超える。「無くても良い」は 1 名であった。
- 企画については、多くの回答者が好意的に受け止めているものの、必ずしも必要とは思っていない回答者 1 割程度いる。

- フードバンクファームについては、「参加したい」が24%にとどまっており、個々の事情によって参加意向は大きく異なっている。

(2) フードバンク山梨利用者に対するヒアリング調査

主に以下のことがわかった。

- 生活保護申請から受給までの間を支援したケースについては、現行の制度では生活保護申請から給付までの期間、金銭的援助がなく生活を支えることが難しい場合があり、この期間に食糧支援を行うことは当面の生活を維持するうえで有効な手段の一つとなっている可能性がある。
- その他収入が得られるまで一時的に支援したケース、就労に結びついたケースについては、就労できる能力を持つ世帯においても、退職等をきっかけに一時的に生活困窮に陥る場合があるということが本調査では明確になり、現行の制度においてはこのような場合に食糧支援を行うことは生活を支えるうえで有効な手段の一つとなっている可能性がある。また、一時的な生活困窮について、食品以外の精神面や物質面を支えるような社会資源との連携のあり方も今後検討される余地がある。
- 高齢者世帯のケースについては、年金等の制度によって基本的には生活基盤が維持できているものの、何らかの事情により困窮の場合があることがわかった。今後、資産を所有する高齢者で生活困窮に陥りそうな場合に、こういった支援や制度を設けるべきかについては議論が必要と考えられる。また、これらの世帯においては、フードバンクとのつながりや社会とのつながりを求める声があることから、精神的にも何らか支える支援や制度の検討が必要である可能性がある。
- ひとり親世帯のケースにおいては、行政との結びつきも強く、地域の社会資源の活用は比較的容易な状況にあると考えられる。しかしながら、フードバンク山梨の支援が継続している世帯が多く、現行の制度では生活困窮の状況からは脱出できない場合があることが分かった。こういった状況の世帯において食糧支援を行うことは有効である可能性がある。また、これらの世帯においては、精神的にも何らか支える支援や制度の検討が必要である可能性がある。さらに、労働環境の問題などがそもそも生活困窮から脱出できない理由になっている可能性があり、生活困窮にある場合の条件など改めて調査を行い、より根本的な問題解決を検討する必要がある。
- その他のケースについては、世帯の人員構成、生活困窮に陥った主な理由、就労状況など個別に事情が異なっている状況にあり、一概に共通点を見出すのは難しい。これらのケースは、現在の支援制度では何ら支援を受けていない状況であり、反対に生活困窮から脱出する出口も見えにくい状況にあるともいえる。こういったケースについてどのような支援が行われるべきか、食糧支援も含めて総合的な支援のあり方について社会的議論が必要であろう。

2. 調査結果

2.1 アンケート調査

これまでにフードバンク山梨を利用したことのある世帯または現在利用している世帯に対してアンケート調査を行った。その結果を以下に示す。

(1) アンケート調査概要

- 調査対象：これまでにフードバンク山梨を利用したことのある世帯または現在利用している世帯 361 世帯
- 調査期間：2012 年 7 月 19 日～8 月 3 日
- 調査方法：調査票は訪問時に配布、郵送で回収
- 回収数：119 世帯（33.0%）
- 有効回答数：118 世帯（32.7%）

(2) アンケート調査結果

1) 回答者プロフィール

a. 回答者全体

① 回答者の性別・年齢

回答者の性別・年齢を図 2-1 に示す。

回答者は 40 代～60 代が 90 名と全体の 76%を占めた。

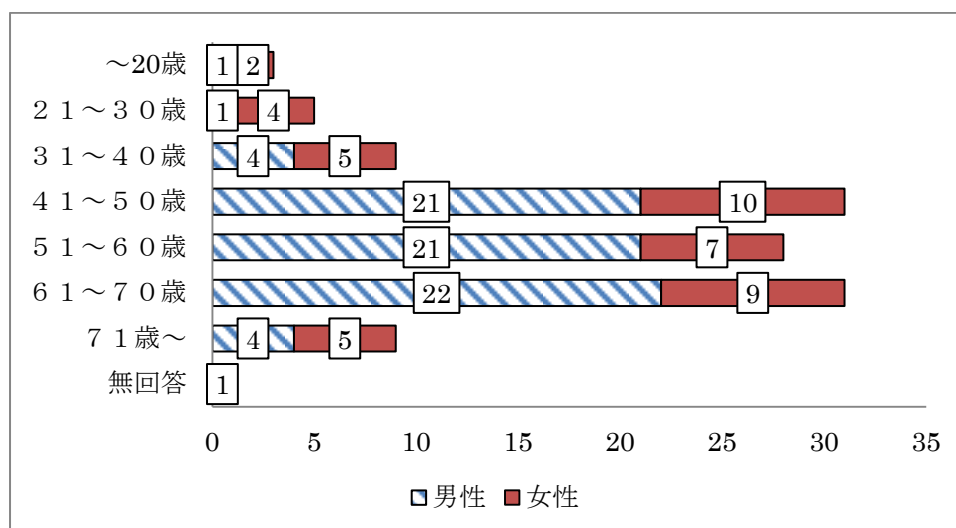


図 2-1 回答者の年齢・性別

② 回答者の住所

回答者の住所を図 2-2 に示す。

回答者は甲府市が 55 名と全体の 47%を占めた。

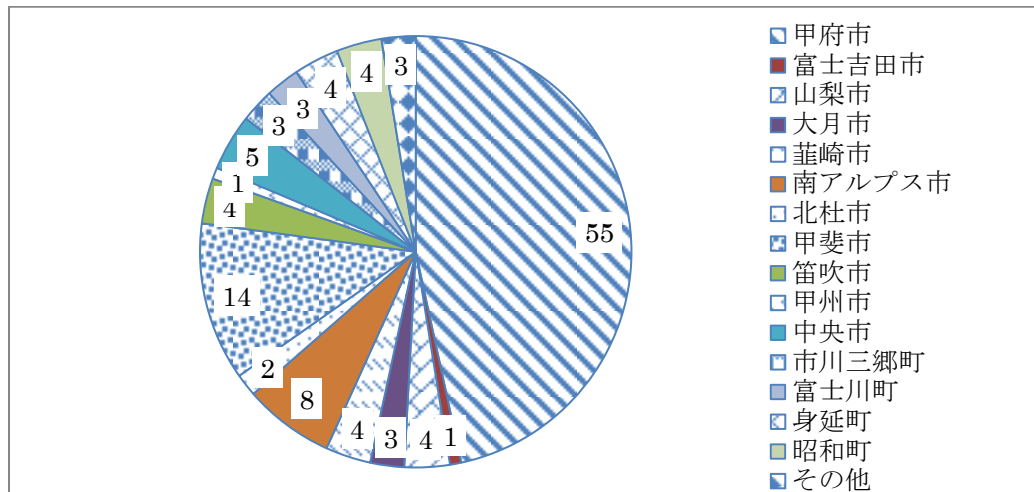


図 2-2 回答者の住所

③ 回答者の生活保護受給状況

回答者の生活保護の受給状況を図 2-3 に示す。

「現在も受けていないし、過去も受けていない」が 60 名（全体の 51%）で、「生活保護を受けている」が 37 名（全体の 31%）¹、「過去に受けたことがある」が 8 名（全体の 7%）、「生活保護申請中」が 7 名（全体の 6%）であり、これらを合わせた生活保護制度利用者の合計は全体の 44%であった。

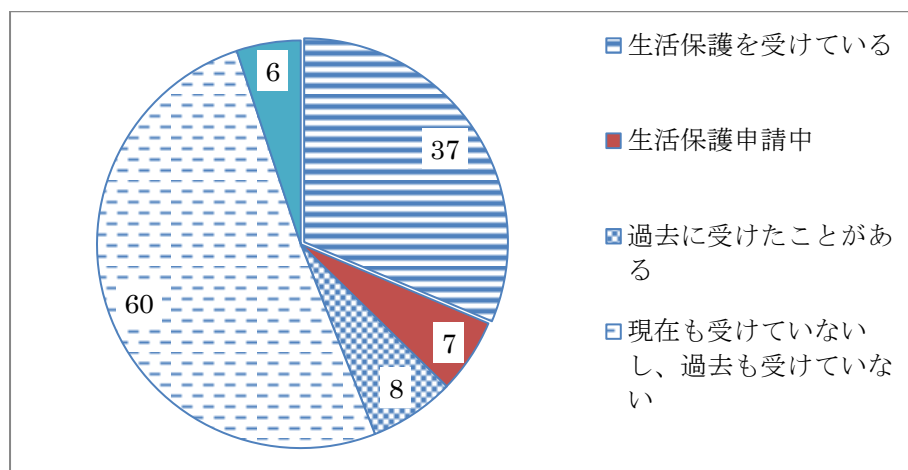


図 2-3 生活保護の受給状況

¹ フードバンク山梨では生活保護の受給が始まり次第、支援を終了していることから、「生活保護を受けている」と回答した者は、基本的にフードバンク山梨を過去に利用した者である。

④ 回答者の職業

回答者の職業を図 2-4 に示す。

最も多かったのが「無職であり、求職中である」の 35 名（全体の 30%）、ついで「パート・アルバイトで働いている」が 23 名（全体の 19%）であった。「正社員/職員で働いている」は 2 名（全体の 2%）であった。

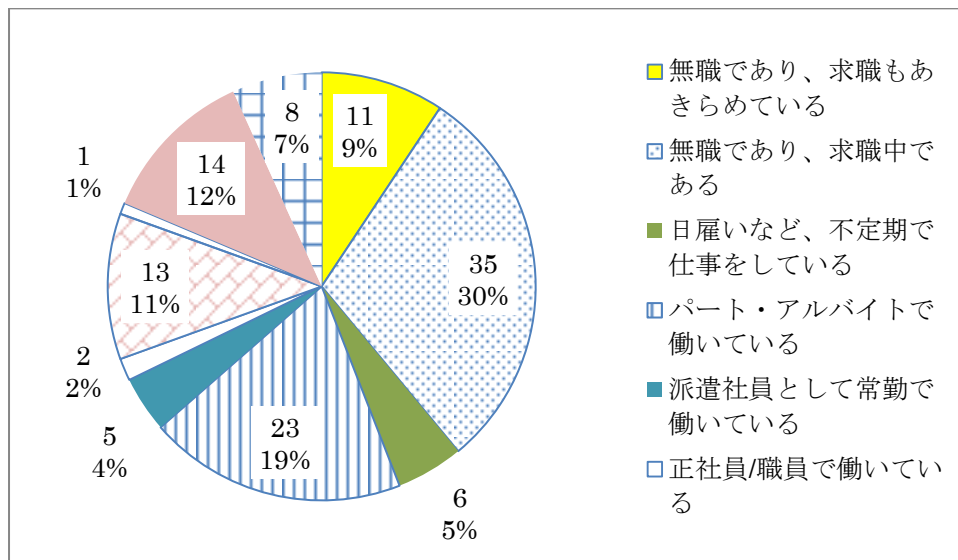


図 2-4 回答者の職業-回答者全体

⑤ 世帯の主な収入源

世帯の主な収入源を図 2-5 に示す。

「年金」が 37 名、「生活保護の給付金」が 35 名、「給与」が 35 名であった。

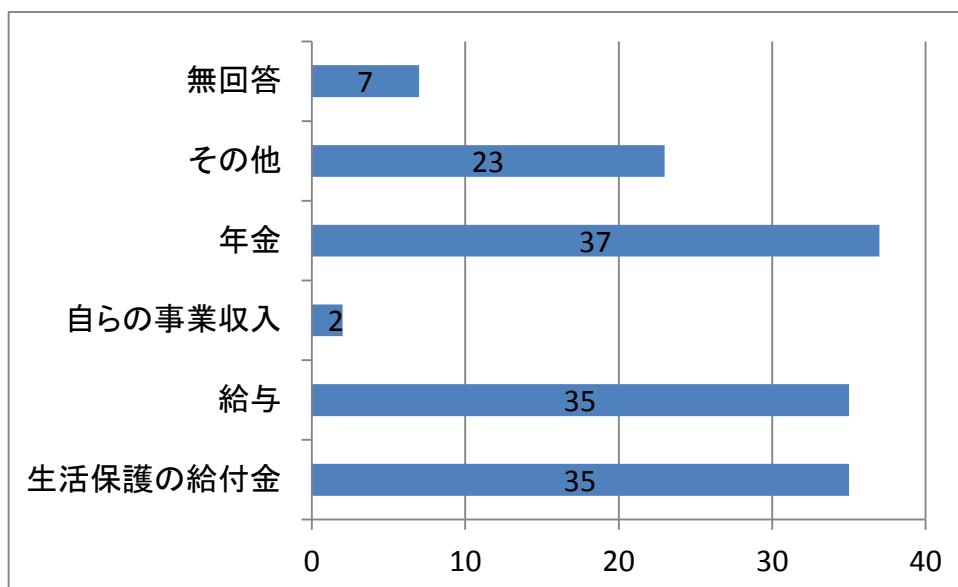


図 2-5 世帯の主な収入源（複数回答）

⑥ 世帯の年収

世帯の年収を図 2-6 に示す。

「100 万円以上 150 万円未満」が 18 名（全体の 15%）と最も多く、ついで 50 万円以上 100 万円未満が 14 名（全体の 12%）、「10 万円以上 50 万円未満」が 11 名（全体の 9%）であった。「無し」は 8 名（全体の 7%）であった。年収が 150 万円未満を合計すると、54 名で全体の 46%を占める。残りのほとんどが「無回答」であることから、回答世帯のほとんどが 150 万円未満の年収の世帯となっている。

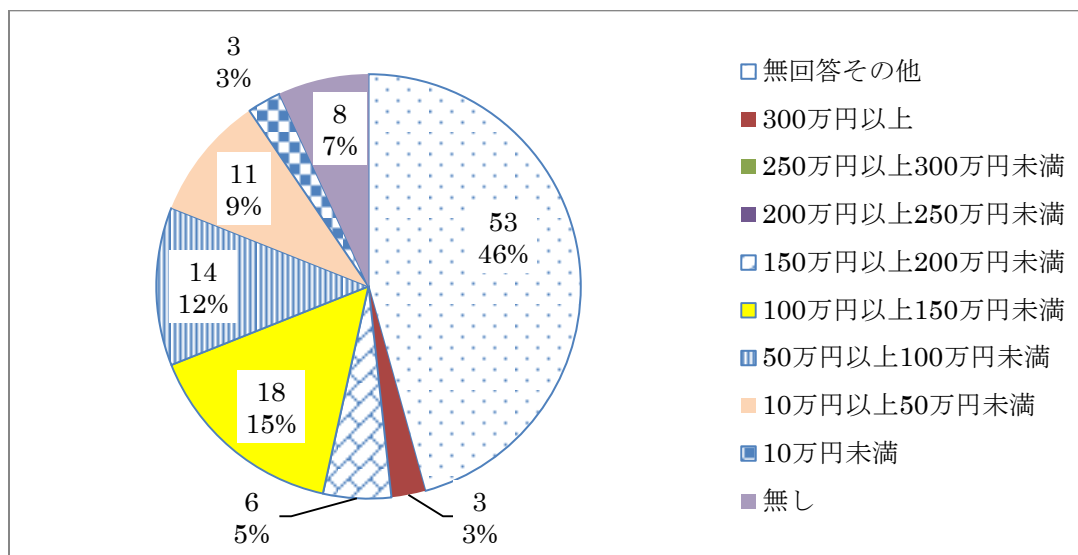


図 2-6 世帯年収

⑦ 世帯の 1 か月の食費

世帯の 1 か月あたりの食費を図 2-7 に示す。

「2 万円以上 3 万円未満」が 21 名（全体の 18%）と最も多く、ついで「1 万円以上 2 万円未満」が 20 名（全体の 17%）、「3 万円以上 4 万円未満」が 19 名（全体の 16%）であった。

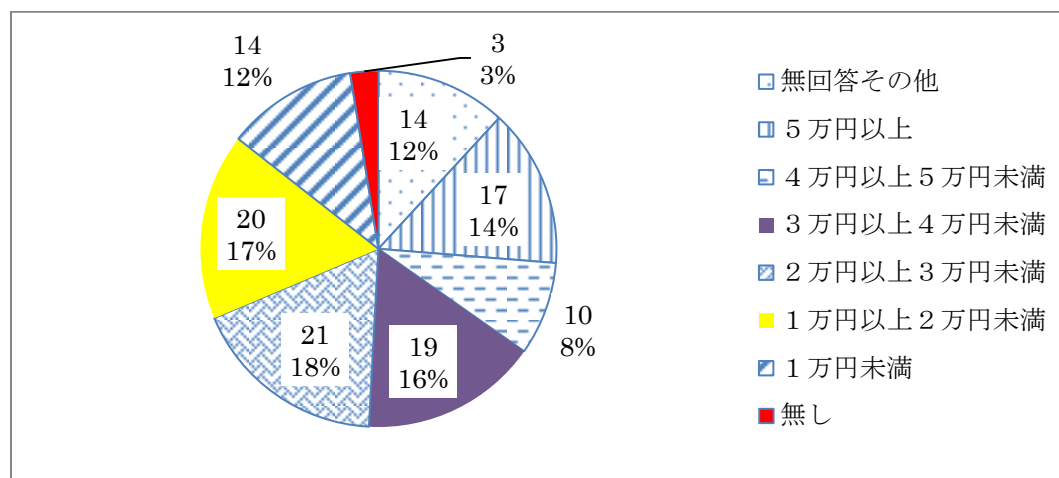


図 2-7 世帯の 1 か月あたりの食費

⑧ 食事制限の状況

フードバンク山梨を利用する前と後における金銭的理由による食事制限の回数を図 2-8 に示す。

フードバンク利用前では、「週 2～3 回」が 41 名（全体の 35%）と最も多く、ついで、「週 4～5 回」と「無い」がそれぞれ 15 名（全体の 13%）、「週 6～7 回」が 14 名（全体の 12%）であった。

フードバンク利用後では、「無い」が 39 名（全体の 33%）と最も多く、ついで「週 2～3 回」が 26 名（全体の 22%）、「週 1 回以下」が 23 名（全体の 19%）であった。

フードバンク利用前と利用後を比較すると、食事制限の回数が大幅に減少しており、食の環境が改善していることがわかる。

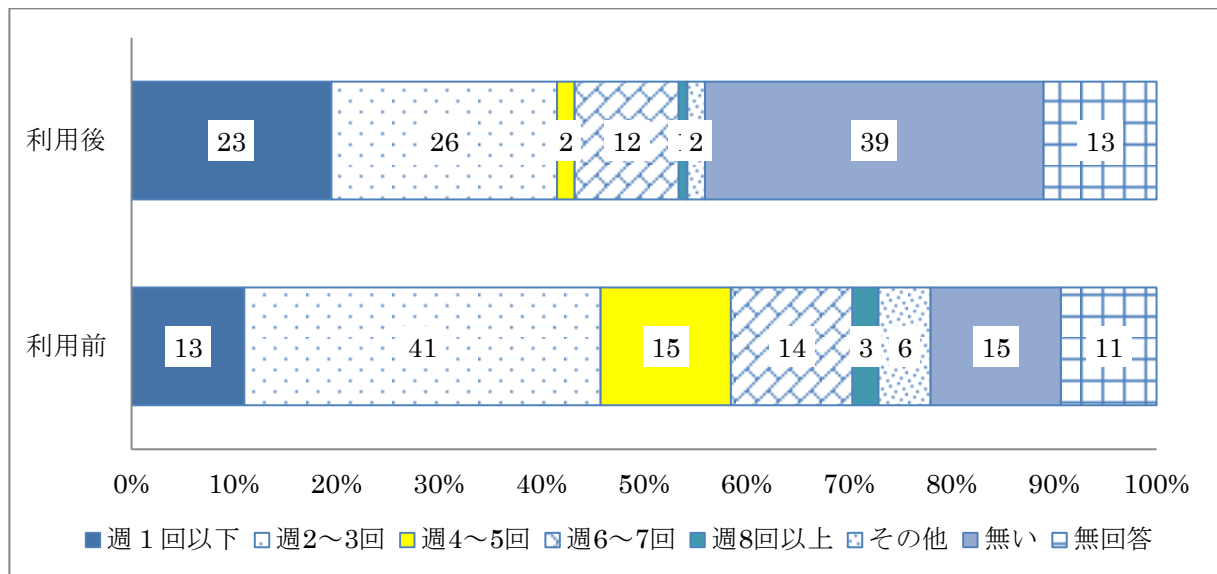


図 2-8 金銭的理由による食事制限回数（週間）

b. フードバンク山梨を現在利用している回答者と終了者

今回の調査回答者について、フードバンク山梨を現在も利用している回答者（以下、「利用者」という）、現在生活保護を受給中の回答者（以下、「生活保護受給者」という）、いずれの支援も受けていない回答者（以下、「その他」という）に分けて、プロフィールのうち特に異なっていると考えられる「職業」「年収」「食費」について集計を行った。なお、利用者は 35 名、生活保護受給者は 35 名、その他は 48 名であった。なお、その他には現在生活保護申請中であるが、フードバンク山梨の支援を受けていない者も含まれる。

① 回答者の職業

回答者の職業を図 2-9 に示す。

利用者では、「パート・アルバイトで働いている」が 11 名（利用者全体の 31%）と最も多く、ついで「無職であり、求職中である」が 10 名（利用者全体の 29%）であった。「正社員/職員で働いている」は 1 名（利用者全体の 3%）であった。雇用形態によらず「働いている」をすべて合わせると 13 名（利用者全体の 37%）であった。

生活保護受給者では、「無職であり、求職中である」が 15 名（生活保護受給者全体の 43%）と最も多く、全体の半数弱を占めた。

その他では、「無職であり、求職中である」が 10 名（その他全体の 21%）、ついで「パート・アルバイトで働いている」が 8 名（その他全体の 17%）であった。「正社員/職員で働いている」は 1 名（その他全体の 2%）であった。雇用形態によらず「働いている」をすべて合わせると 18 名（その他全体の 38%）であった。

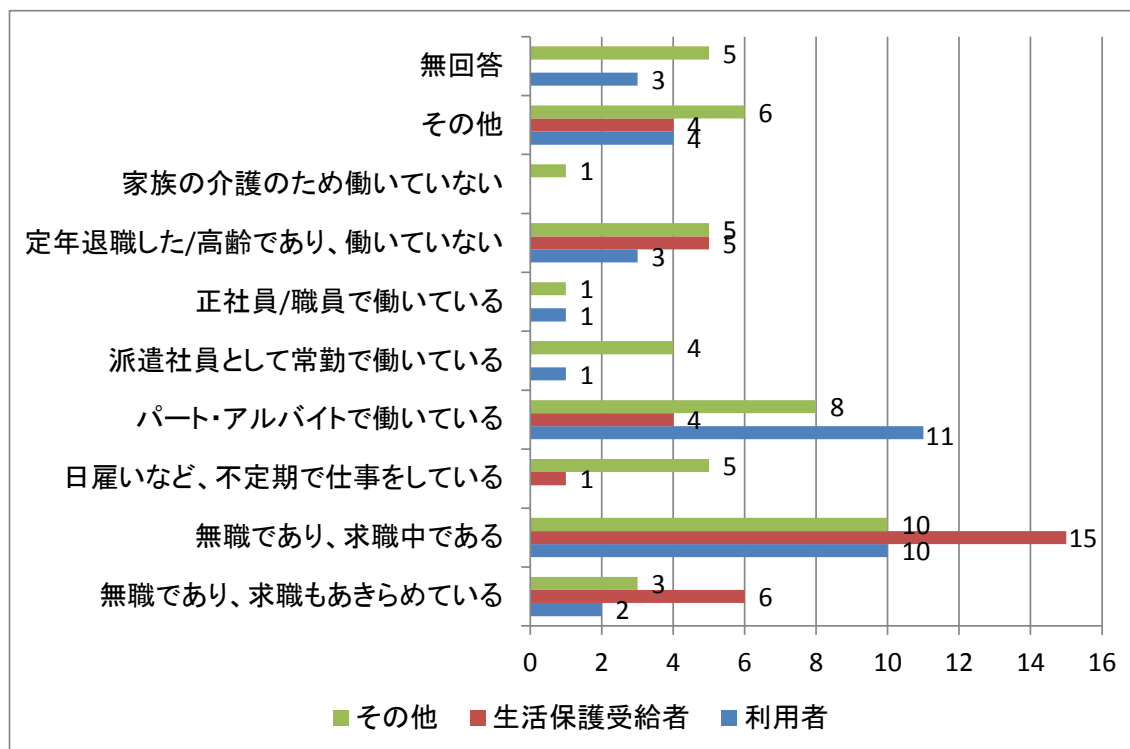


図 2-9 回答者の職業-フードバンク山梨利用者

② 世帯の主な収入源

世帯の主な収入源を図 2-10 に示す。

利用者では、「給与収入」が 15 名（利用者全体の 43%）と最も多くなっている。

生活保護受給者では、「生活保護の給付金」のほか、「年金」が「給与」などの収入がある者もわずかなではあるが見受けられる。

その他では、「年金」が最も多く 24 名（その他全体の 50%）、ついで「給与」が 17 名（その他全体の 35%）であった。

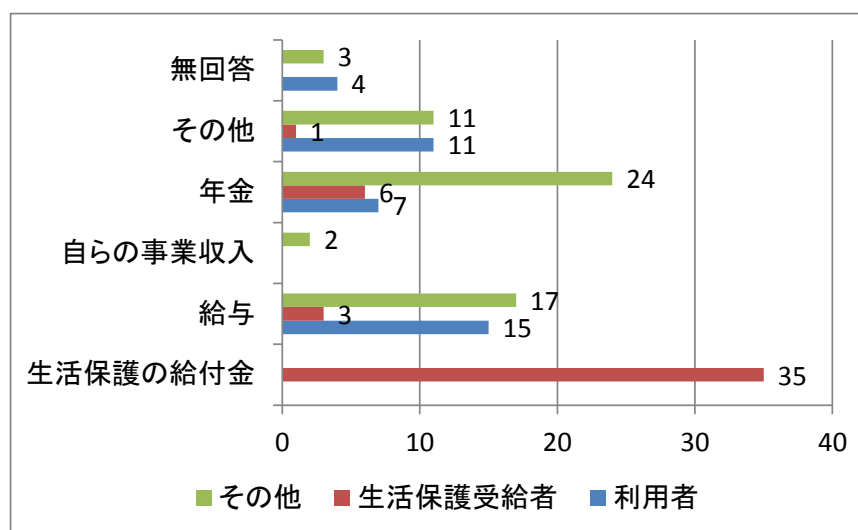


図 2-10 世帯の主な収入源

③ 世帯の年収

世帯あたりの年収を図 2-11 に示す。

利用者では、「10 万円以上 50 万円未満」が 7 名（利用者全体の 20%）と最も多く、ついで「無し」が 6 名（利用者全体の 17%）であった。「無回答」を除くと全回答者が 200 万円未満であった。

生活保護受給者では、「100 万円以上 150 万円未満」が 9 名（生活保護受給者全体の 26%）と最も多く、ついで「50 万円以上 100 万円未満」が 5 名（生活保護受給者全体の 14%）となっている。「無回答その他」を除く全回答者が 50 万円以上 200 万円未満の年収となっている。

その他では、「50 万円以上 100 万円未満」が 8 名（その他全体の 17%）と最も多く、次いで「100 万円以上 150 万円未満」が 6 名あった。「300 万円以上」も 3 名（その他全体の 6%）である一方で、「無し」も 2 名（その他全体の 4%）であった。

利用者と生活保護受給者については、いずれも「無回答その他」を除く全回答者が 200 万円未満となっている。また、利用者では 50 万円未満も 13 名（利用者全体の 37%）であるのに対して受給者では 0%であり、生活保護受給者よりも低い年収の回答者が相当数いる。

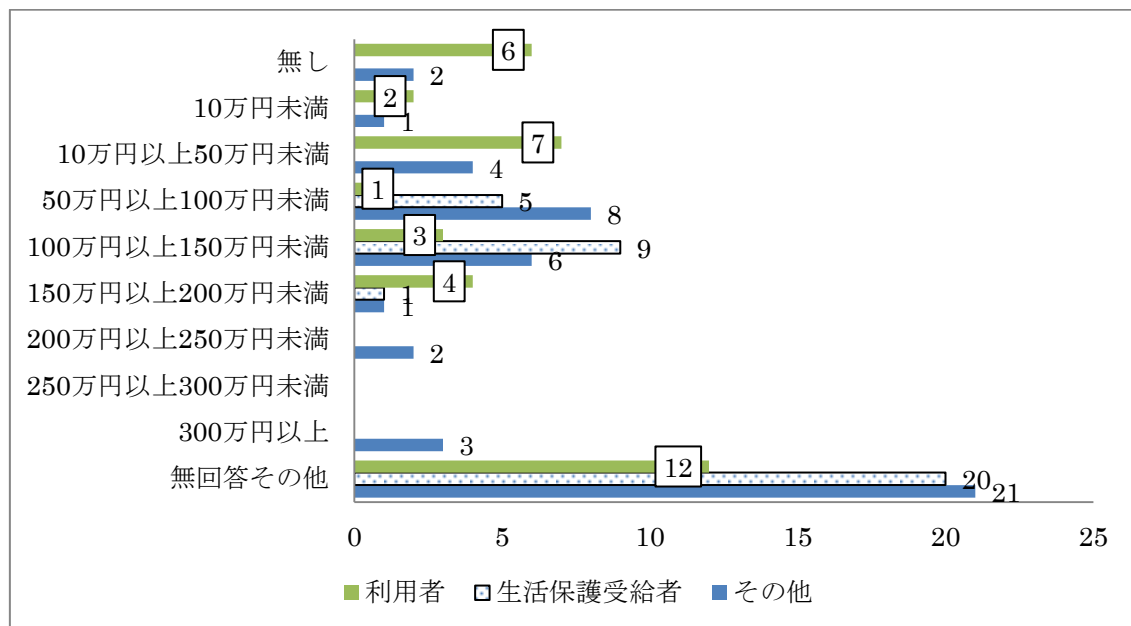


図 2-11 世帯年収-世帯あたり²

世帯人員一人あたりの年収を図 2-12 に示す。

利用者では「10 万円以上 50 万円未満」が 7 名（利用者全体の 20%）と最も多く、ついで「無し」が 6 名（利用者全体の 17%）であった。「無回答」を除くと 1 名を除き

² 他の回答項目と照らし合わせて明らかに不適当と思われる回答（たとえば、生活保護受給者であるにもかかわらず、年間収入が 0 円になっているなど）については、「無回答その他」に含め、集計から除外している。

全員が 150 万円未満であった。

生活保護受給者では、「100 万円以上 150 万円未満」が 9 名（生活保護受給者全体 26%）と最も多く、ついで「50 万円以上 100 万円未満」が 4 名（生活保護受給者全体の 11%）であった。

その他では、「50 万円以上 100 万円未満」が 12 名（その他全体の 25%）と最も多く、ついで「10 万円以上 50 万円未満」が 6 名（その他全体の 12.5%）であった。300 万円以上も 1 名（その他全体の 2%）である一方で、「無し」も 2 名（その他全体の 4%）であった。

利用者と生活保護受給者を比較すると、いずれも「無回答その他」を除く全回答者が 200 万円未満となっている。ただし、生活保護受給者では全回答者が 10 万円以上である一方で、利用者では 10 万円未満も 10 名（利用者全体の 29%）であり、生活保護受給者よりも厳しい経済状態の回答者が相当数いる。

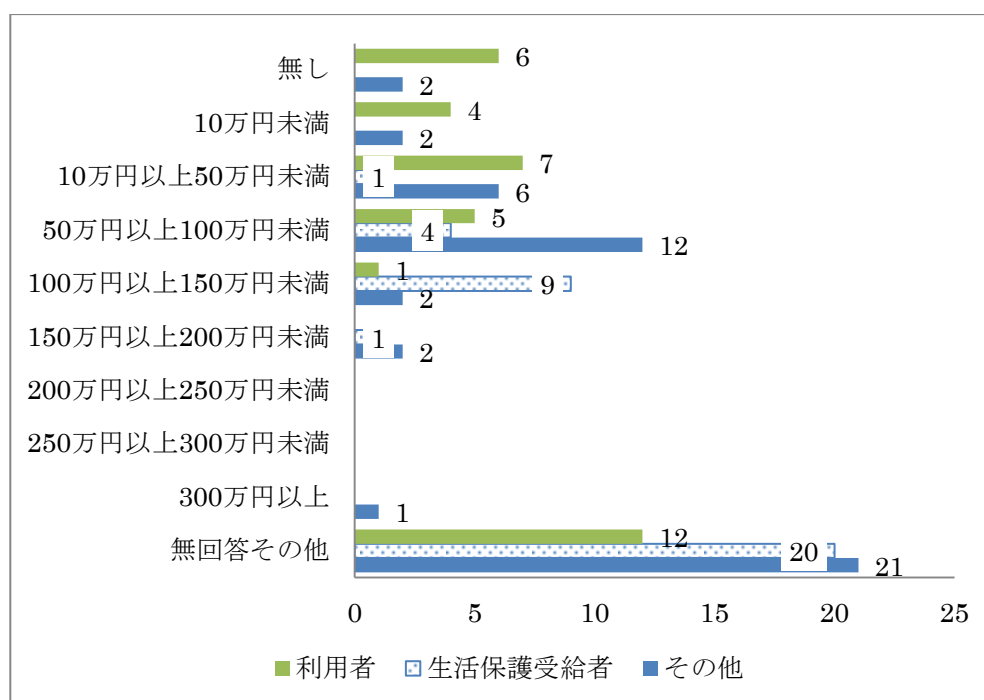


図 2-12 世帯年収・世帯人員一人あたり

④ 世帯の1か月の食費

世帯の1か月あたりの食費を図 2-13 に示す。

利用者では、「1 万円未満」が 7 名（利用者全体の 20%）と最も多く、ついで「1 万円以上 2 万円未満」が 6 名（利用者全体の 17.1%）であった。

生活保護受給者では、「3 万円以上 4 万円未満」が 10 名（生活保護受給者全体の 29%）と最も多く、ついで「2 万円以上 3 万円未満」が 9 名（生活保護受給者全体の 26%）、「1 万円以上 2 万円未満」がいずれも 8 名（生活保護受給者全体の 23%）であった。

その他では、「5 万円以上」が最も多く 10 名（その他全体の 29%）であり、ついで「2 万円以上 3 万円未満」が 9 名（その他全体の 19 の%）、「1 万円以上 2 万円未満」が 6 名（その他全体の 13%）であった。

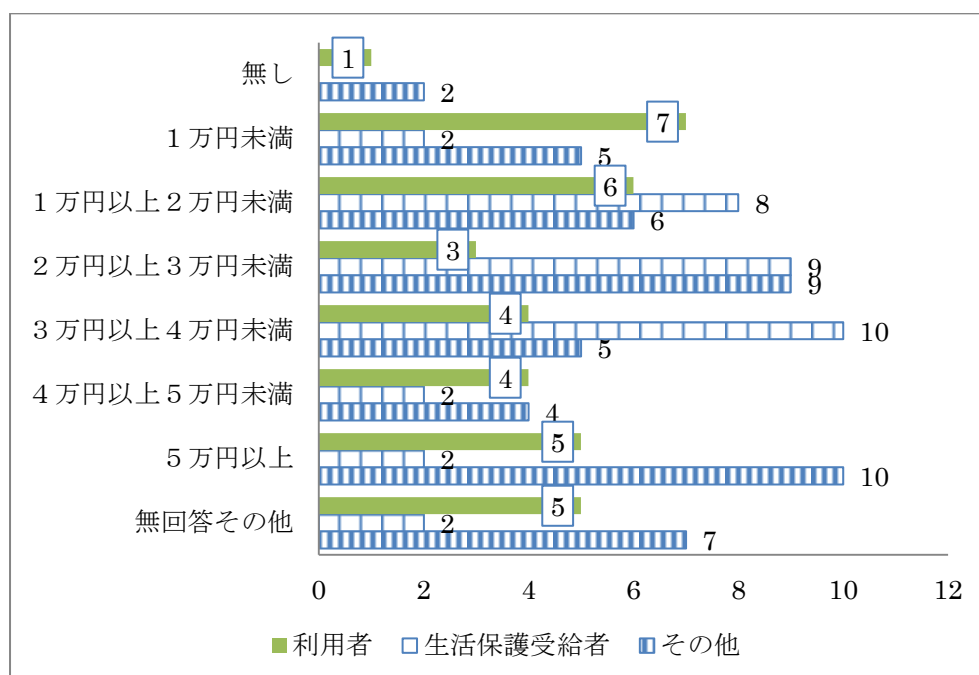


図 2-13 世帯の1か月あたりの食費-世帯あたり

世帯人員一人あたりの1か月あたりの食費を図 2-14 に示す。

利用者では「1 万円未満」が 14 名（利用者全体の 40%）と最も多く、ついで「1 万円以上 2 万円未満」が 5 名（利用者全体の 14.3%）であった。1 万円未満は 15 名（利用者全体の 43%）であった。

生活保護受給者では「1 万円以上 2 万円未満」、「2 万円以上 3 万円未満」がいずれも 10 名（生活保護受給者全体の 29%）、ついで「3 万円以上 4 万円未満」が 8 名（生活保護受給者全体の 23%）であった。

その他では、「1 万円以上 2 万円未満」が 14 名（その他全体の 29%）と最も多く、ついで「2 万円以上 3 万円未満」が 10 名（その他全体の 20%）、「1 万円未満」が 8 名（全体の 23%）であった。

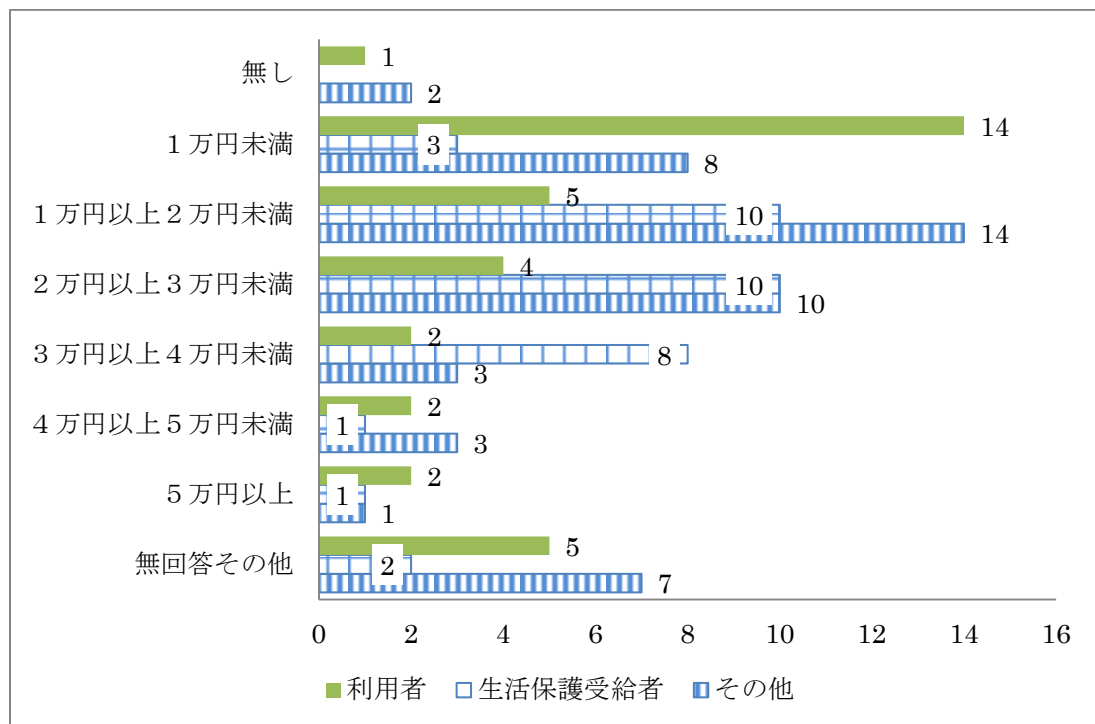


図 2-14 世帯の1か月あたりの食費・世帯人員一人あたり

2) フードバンクとのかかわり

① きっかけ

フードバンク山梨を利用するようになったきっかけを図 2-15 に、きっかけとなった「別の団体」の具体的な内容を表 2-1 に、「自分で見つけた」の具体的な内容を表 2-2 に、「その他」の具体的な内容を表 2-3 に示す。

「市役所の紹介」が 63 名（全体の 53%）と最も多く、職業安定所、児童相談所、保健所など他の行政機関を合わせると 70 名（全体の 59%）であった。ついで「別の団体の紹介」が 34 名（全体の 29%）であり、以上の 2 つを合わせると全体の 8 割を超える。「別の団体」としては、生活困窮者支援団体、東日本大震災震災避難者支援団体、外国人支援団体、障害者支援団体等の NPO が 11 名であった。

また、「自分で見つけた」とする回答者も 7 名（全体の 6%）であった。きっかけの具体例としてはマスメディア（テレビ、ラジオ）が 3 名、インターネットが 2 名であった。「自分で見つけた」回答者は限定されているものの、支援機関のネットワークに接する機会のない生活困窮者にとって、マスメディアやインターネットを通じた広報は有効であるといえる³。

「その他」の具体例としては、「友人・知人の紹介」が 5 名であり、「ソーシャルワーカー」が 4 名、「民生委員」が 3 名であった。「友人・知人の紹介」についても限定はされているが、支援機関のネットワークに接する機会のない生活困窮者にとっては口コミも重要な広報手段といえる。

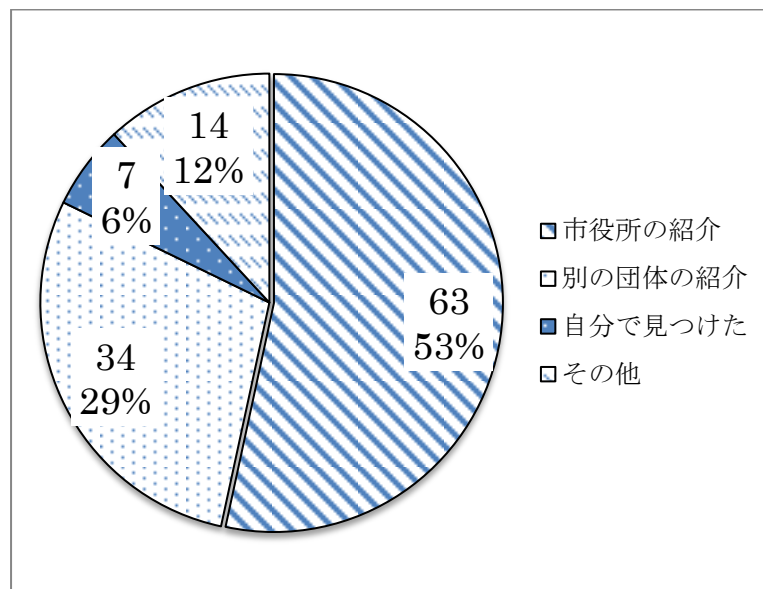


図 2-15 フードバンク山梨を利用するようになったきっかけ（N=118）

³ ただし、電気代が払えなかったり、そもそも自らメディアに接触していないなど、マスメディアやインターネットに接触する機会のない生活困窮者もいると思われることから、広報のあり方についてはさらなる検討が必要である。

表 2-1 別の団体の具体例

種類	例	回答者数
NPO	生活困窮者支援団体、東日本大震災震災避難者支援団体、外国人支援団体、障害者支援団体等	11
社会福祉協議会	-	10
宗教団体	カトリック教会	4
その他	職業安定所、児童相談所、保健所など行政機関	7

表 2-2 自分で見つけたきっかけの具体例

種類	回答者数
マスメディア（テレビ、ラジオ）	3
インターネット	2

表 2-3 その他の具体例

種類	回答者数
友人・知人の紹介	5
ソーシャルワーカー	4
民生委員	3

② フードバンク山梨と他の関係機関との連携

フードバンク山梨と自治体や関係機関との連携について聞いた結果を図 2-16 に示す。

「今のままで良い」が 68 名（全体の 58%）である一方で、「もっと連携してほしい」が 25 名（全体の 21%）であった。「連携しなくても良い」という回答はなかった。

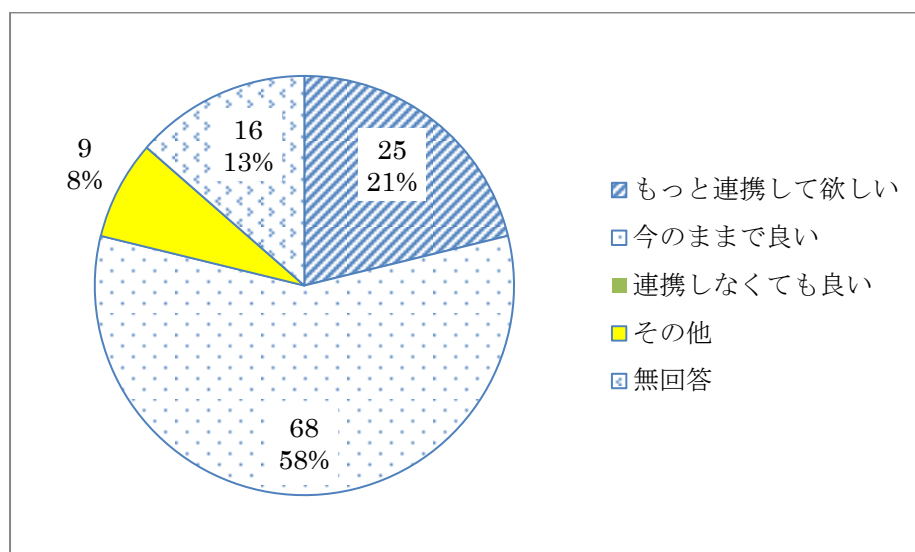


図 2-16 フードバンク山梨と他機関の連携（N=118）

③ 気持ちの変化

フードバンク山梨を利用するようになった結果、気持ちの変化について聞いた結果を図 2-17 に示す。

「気持ちが非常に前向きになった」が 50 名（全体の 42%）と最も多く、ついで「気持ちが少し前向きになった」が 46 名（全体の 39%）であり、以上の 2 つを合わせると全体の 8 割を超える。

フードバンク山梨の利用によって、多くの回答者の気持ちが前向きに好転していることがわかる。

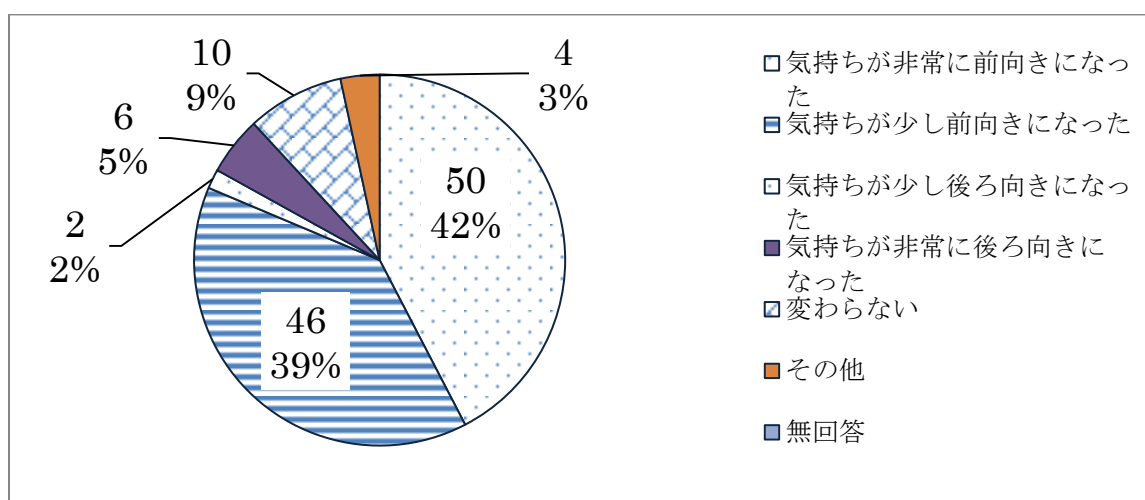


図 2-17 フードバンク山梨を利用することによる気持ちの変化

④ 手書きの手紙

個人宅配の食品箱に入れる手書きの手紙について聞いた結果を図 2-18 に示す。

「今のまま」が 52 名（全体の 44%）と最も多く、ついで「毎回入れてほしい」が 49 名（全体の 42%）であった。「無くても良い」は 1 名であった。

ほとんどの回答者は手書きの手紙について好意的に受け止めていることがわかる。

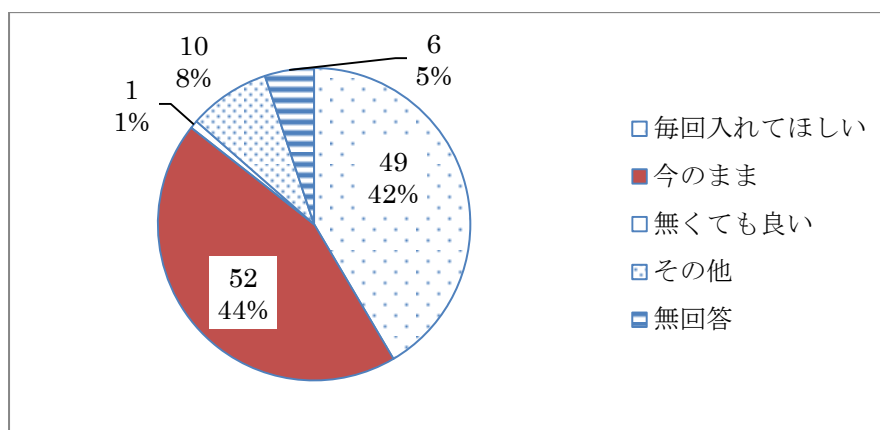


図 2-18 手書きの手紙

⑤ 企画の評価

個人宅配の食品箱に入れる企画について聞いた結果を図 2-19 に、「良かった企画がある」と回答した回答者に対して良かった企画を選んでもらった結果を図 2-20 に示す。

「良かった企画がある」が 66 名（全体の 56%）と最も多く、「無くても良い」は 11 名（全体の 9%）であった。

良かった企画としては、「フーちゃん通信」が 29 名と最も多く、ついで「七夕」が 23 名であった。

多くの回答者が企画について好意的に受け止めているものの、必ずしも必要とは考えていない回答者もいることがわかる。

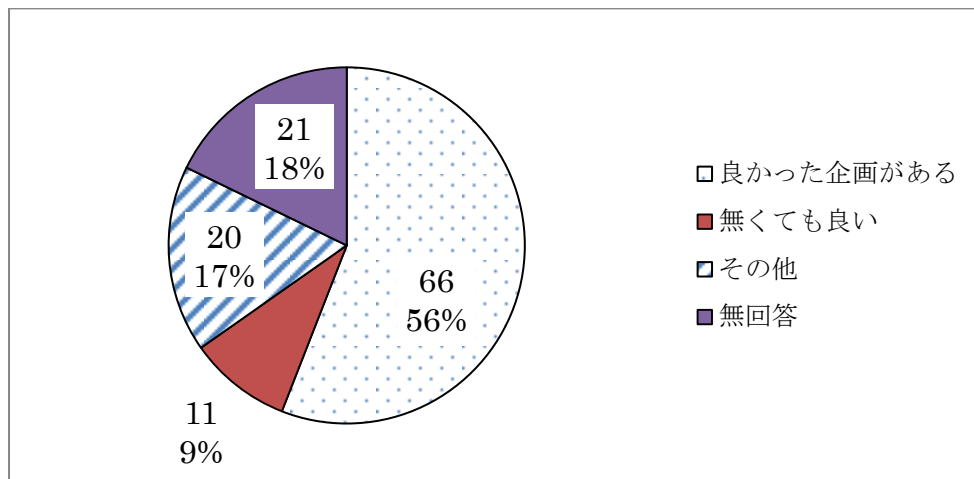


図 2-19 企画への評価 (N=118)

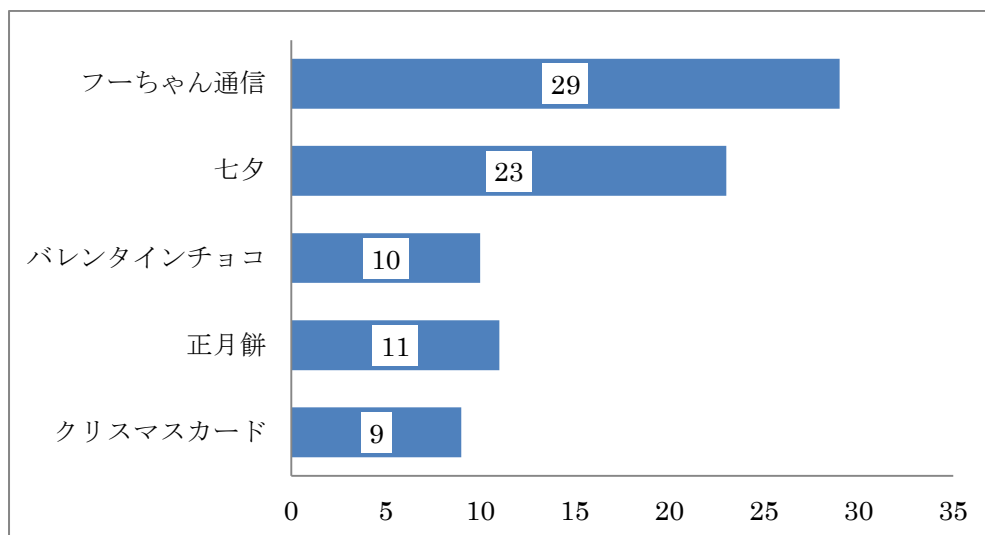


図 2-20 良かった企画 (複数回答、N=66)

⑥ フードバンクファームへの参加意向

フードバンク山梨の新しい取り組みであるフードバンクファームへの参加意向について聞いた結果を図 2-21 に示す。

「参加したい」が 28 名（全体の 24%）、「興味がない」が 18 名（全体の 15%）であった。

「その他」が 47 名（全体の 40%）と最も多くなっている。

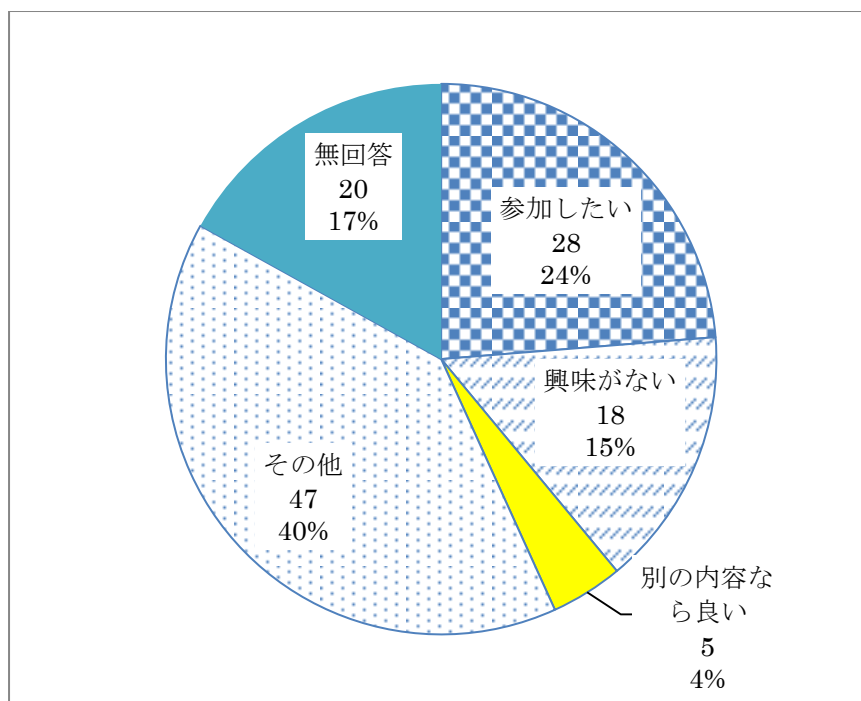


図 2-21 フードバンクファームへの参加意向（N=118）

2.2 ヒアリング調査について

生活困窮者のより詳細な実態を明らかにするとともに、生活困窮者からみた場合にフードバンク山梨の活動がどのように活用されているか、また、今後どのように発展させていくことが望まれているかについて把握するために、フードバンク山梨利用世帯に対するヒアリング調査を行った。

(1) 調査概要

調査概要を以下に示す。

- 調査対象：
以下の条件を満たすフードバンク山梨利用者
 - ✓ フードバンクを過去に利用したことのある世帯、あるいは、現在も利用を継続している世帯
 - ✓ アンケート調査において、ヒアリング調査への協力を可と回答した世帯
- 調査期間：2012年9月3日～10月26日
- 調査方法：フードバンク山梨スタッフによる訪問聞き取り調査
- 有効回答数：53

(2) ヒアリング調査結果

1) 調査対象世帯全体の状況

ヒアリング調査対象となった世帯全体について、主なケース別に分類し、状況を分析した。世帯人員の状況を表1－4に、生活困窮に陥った主な理由を表1－5に示す。

世帯人員の状況については、全体では、単身世帯が30世帯と過半であった。また、未成年の子供（以下、「子供」という）がいる世帯は8世帯、65歳以上の高齢者（以下、「高齢者」という）がいる家族世帯（単身世帯を除き、主に家計を支える者が高齢者である場合も含める）は2世帯であった。

生活困窮に陥った主な理由については、全体では、「退職、仕事がない」が最も多く12世帯、ついで「病気・けが」が11世帯であった。

表 2-4 調査対象世帯（全体）の世帯人員の状況

ケース	生活保護申請から受給までの間を支援したケース	その他収入が得られるまで一時的に支援したケース	就労に結びついたケース	高齢者世帯のケース	ひとり親世帯のケース	その他のケース	全体	
単身	11	5	2	9	0	8	30	
家族	5	3	2	2	5	5	22	
	家族世帯のうち子供有	1	0	1	0	5	3	8
	家族世帯のうち高齢者有	1	0	0	2	1	0	2
その他	1	0	0	0	0	0	1	
合計	16	8	4	11	5	13	53	

表 2-5 調査対象世帯（全体）の生活困窮に陥った主な理由（複数回答）

生活困窮に陥った主な理由	生活保護申請から受給までの間を支援したケース	その他収入が得られるまで一時的に支援したケース	就労に結びついたケース	高齢者世帯のケース	ひとり親世帯のケース	その他	全体
障がい	2	1	0	0	0	4	6
病気・けが	4	1	2	2	0	3	11
借金	2	0	0	0	0	3	7
退職、仕事がない	5	5	0	3	1	2	12
その他・不明	6	1	3	6	4	3	22
合計	16	8	4	11	5	13	53

2) ケース別の状況

対象となっている世帯について、主なケース別に分類し、状況を分析した。その結果を以下に示す。

① 生活保護申請から受給までの間を支援したケース

生活保護申請から受給までの間を支援したケースには、生活保護申請から実際に給付金を受給するまでには一定の期間を要する。フードバンク山梨がこの間に限定して食糧支援を行った世帯が含まれる。

世帯人員の状況については、単身世帯が 11 世帯と過半であった。

また、子供がいる世帯、高齢者がいる家族世帯はともに 1 世帯であった。

生活困窮に陥った主な理由については、特に多いものはなく分散している。

フードバンク山梨を利用して良かったことを聞いたところ、「何も食べる物がなく、食品が届いて嬉しかった」「非常に助かった、金より命拾いした」「生活基盤が整った」「食糧支援のおかげで 9 月から 11 月まで生きていられた」等、食糧支援を行うことで当面の暮らしを維持できたとの内容が多く、「食費が大幅に減少した」等経済面でも助かったとの指摘があった。

フードバンク山梨や厚生労働省に望むことを聞いたところ、「生活保護受給者でも、緊急的に食品が必要な場合は、一時的に食糧支援が利用できる仕組みにしてほしい」（3 件）等、生活保護の給付を受けていても、食糧支援を望む指摘があった。また、「求人などの情報もほしい」（2 件）、「食品配送の際、情報だけでもほしい。今は求職のためのフォーマル服と防寒服がほしいので、他団体を含めた寄贈品の情報があると嬉しい」等、別の情報を合わせて提供してほしいとの意見、「フードバンクファームなど、居場所づくり」「直接会って、話を聞いてもらえるとよい」「ボランティアでも良いから仕事がしたい」等、社会や人とのかかわりを持てる機会や場所の提供を求める意見もあった。

なお、フードバンク山梨の食糧支援は全世帯とも終了している。

② その他収入が得られるまで一時的に支援したケース

その他収入が得られるまで一時的に支援したケースには、年金や給与等生活保護を除く収入を手にするまでに現金がなく、フードバンク山梨がこの間に限定して食糧支援を行った世帯が含まれる。

世帯人員の状況については、単身世帯が 5 世帯、家族世帯が 3 世帯となっている。

また、子供がいる世帯、高齢者がいる家族世帯はともになかった。

生活困窮に陥った主な理由については、「退職、仕事がない」が 5 件と過半であった。

フードバンク山梨を利用して良かったことを聞いたところ、「食べることで元気が出た」「手書きの手紙に一言あって、うれしい」等、精神面における効果についての意見があった。給与所得等が手に入るまで一時的に利用していた世帯においては、「自分には、生活保護を受給できずに餓死することを防ぐ、最後のセーフティネットと思える」と、既存の制度では支援のない状況下でもフードバンク山梨の利用により当面の生活

を維持できたといった趣旨の指摘があった。

フードバンク山梨や厚生労働省に望むことを聞いたところ、「食品以外の日用品があればなおよかった」といった食糧支援以外の機能を求める指摘、「世の中の多くの人たちに知ってもらえるように、活動を広く宣伝してほしい」といった広報に関する指摘、「支援終了後も、情報や手紙がほしい」等、社会や人とのかかわりを持てる機会や場所の提供を求める意見もあった。

なお、フードバンク山梨の食糧支援は全世帯とも終了している。

③ 就労に結びついたケース

就労に結びついたケースには、フードバンク山梨の支援を経て何らかの形で就労し、フードバンク山梨の利用を終了した世帯が含まれる。

世帯人員の状況は、単身世帯が 2 世帯、家族世帯が 2 世帯であった。

子供がいる世帯が 1 世帯あり、高齢者のいる世帯はなかった。

生活困窮に陥った主な理由については、「病気・けが」が 2 件であった。

フードバンク山梨を利用して良かったことを聞いたところ、「短期間だが、支援が何もない状況下で、とりあえず食い繋げると思った」「食品をもらうことで、安心感も得られた。最初は自己責任と考え、内心もらっても良いのかと迷いがあった。もし、支援が無かったら、どうなっていたか恐ろしい」等、当面の生活維持ができたとの趣旨の指摘があった。また、「ファームへの参加。定まった仕事もなく、毎日張合いもなく、これを機会に前向きに自立したかった」等、社会参加の機会を得たことで自信を得て自立できたとの意見もあった。

フードバンク山梨や厚生労働省に望むことを聞いたところ、「失業者、生活困窮者の就労に自治体との連携が必要と思う」「ファームは皆で集まること自体が価値がある」といった就労に結びつくための制度として継続・発展を望む意見の他、「配送終了後の者にも、ふーちゃん通信等を定期的に送付希望」等、継続的なつながりを求める意見もあった。また、「支援期間が長くなると、もらえる期待感が出てきて、気持ちの張りがきかない人が出てくるのではないか」といった支援のあり方についての意見もあった。

なお、フードバンク山梨の食糧支援は全世帯とも終了している。

④ 高齢者世帯のケース

高齢者世帯のケースには、世帯の主な収入を得ている者など、世帯を代表している者が 65 歳以上の高齢者である世帯が含まれる。

世帯人員の状況については、単身世帯が 9 世帯と家族世帯と比較して圧倒的に多い。

また、子供がいる世帯はなかった。

生活困窮に陥った主な理由については、「退職、仕事がない」が 3 件、「病気、けが」が 2 件であった。

フードバンク山梨を利用して良かったことを聞いたところ、「近所には話し相手がい

ないので、手書きの手紙がほしい」「手書きの手紙が良かった」「手紙をすべて保管している」等、手書きの手紙によって精神面が支えられたとの指摘が複数あった。「妻とともに命をつなぐとことができた。本当にフードバンク山梨がなかったら今はない」「手持ち金がないときだったので助かった」等、他のケースと同様に食糧支援を行うことで当面の暮らしを維持できたとの回答も多く、「食費が大幅に減少した」等経済面でも助かったとの指摘もあった。

フードバンク山梨や厚生労働省に望むことを聞いたところ、「市役所内にフードバンク山梨の看板を置いて、困った時に相談できる体制を望む」「市議会に提案して、フードバンク活動を制度にしてほしい」「広報に力を入れてほしい。民生委員は近所にいて、おすそ分けをもらうこともある関係だが、フードバンク山梨のことは知らなかった」等、より使いやすい制度や体制にしてほしいとの意見が多かった。

なお、1世帯を除くすべての世帯がフードバンク山梨の利用を終了している。これらの世帯のうち、4世帯は年金等の収入があるまでや、けがによる一時的な生活困窮をしのぐなど短期間の利用であった。また、3世帯は資産があり、生活保護は受けられない状況であった。

⑤ ひとり親世帯のケース

全て子供がいる家族世帯であり、高齢者がいる世帯も1世帯あった。

生活困窮に陥った主な理由については、「退職、仕事がない」が1件であり、その他として「離婚」「前の配偶者の問題」等があげられている。

フードバンク山梨を利用して良かったことを聞いたところ、「フードバンク山梨の支援有無では毎月2－3万の違いがある」「食べ盛りの2人の息子の食事やお弁当に役立っている。現在、フードバンクの食品＋1週間1万円の食費でやりくりしている」といった経済面での効果についての意見の他、「子供たちは、今度は何が入っているのか、箱を開ける瞬間が楽しみ」「子供から、『お母さん、お米が入っていてよかったね』と言われた」「子供と一緒に箱を開けるときは、宝箱のような感動がある」等、子供とともに感動を分かち合っているとの意見も複数あった。また、「途方に暮れていた。その日の食事もない状態で声をかけてもらい、ありがたかった」といった精神面での効果についての意見もあった。

フードバンク山梨や厚生労働省に望むことを聞いたところ、「同じ境遇にある者が集まれる機会がほしい」「母親との話をする集まりがほしい」等、親同士の交流の場を求める意見が複数あった。「心の悩みを相談できる、信頼できて無料のカウンセリングを希望」「日用品があると助かる」「働きたくても働けない時に分割返済の貸付制度があると助かる」等、他のサービス提供の希望もあった。「自立を基本にして、出来ないところを助けるのが良いと思う。甘やかしてはいけないと思う」といった支援のスタンスについての意見もあった。

なお、3世帯がフードバンク山梨の利用を継続している。また、全ての世帯で給与収入または失業保険収入がある。

⑥ その他のケース

その他のケースには、①～⑤のいずれにも当てはまらない世帯が含まれる。

単身世帯が 8 世帯、家族世帯が 5 世帯であり、子供がいる世帯も 3 世帯あった。

生活困窮に陥った主な理由については、様々な理由が取り上げられている。

フードバンク山梨を利用して良かったことを聞いたところ、「米が助かる。1 日 1 食のときもあり、2 キロの量で足りている」「米は、購入する量が減少できた」「米が食べられたこと」「特に米や缶詰はありがたかった」「お米も他のものもとても助かっている。なま物があると助かる。」「米は美味しく、次の配送まであった。」「お米が助かった」「米は本当に助かる。もらえるだけで十分である」等、米の支援について高い評価が多くみられる。「手紙はあったほうが良い。四季折々のことが書いてあるとうれしい」「七夕の笹の葉。厳しい状況後だったのでうれしかった。」「手書きの手紙は、毎回読んでいたが、切羽詰ってくると気持ちがなえてしまい、返信はがきを書く気持ちが無くなってくる。返信がなくても続けてほしい」「手書きの手紙は、自分のことを案じてくれている。七夕企画など、楽しみにしている」等、手紙による精神的な効果を指摘する声も多い。また、子供がいる家庭では、「子供のお菓子が入っていてうれしい」「特に子供に十分に、かつバランスよく食べさせられた」「2 歳の子供に食べさせてあげられる」等、子供に食べさせられてよかったとの意見があった。「食べられるだけ、幸せ」「食事を抜いたり食べられない辛さが、食品を受け取ることで解消され、栄養不足にもならずまた食べ物のありがたさを痛感した」等、食品があることの重要性についての指摘や、「食費が浮いた分を他に回せた」といった経済面での効果を上げる意見の他、「食品が不足するときは、アルバイト収入で食品を補うこともあった。自分で何とかしなければという気持ちになった。」との意見もあった。

フードバンク山梨や厚生労働省に望むことを聞いたところ、「1 クールが 3 か月（6 回）では、生活の安定や立て直しは困難なので、期間を延ばしてほしい」「なるべく食品の充実を図ってほしい」「米だけは送ってほしい」「今後も食糧支援をしてほしい。せめて米だけでも」といった継続を希望する声が複数あった。また、「日用品、おむつがあると助かる」「食品の支援のみでなく、経済的なサポートを得られたら、自立に向け進みやすくなる」「国民保険等の保険制度が使用できないため、無職や求職中の者に対する医療支援制度があるとよい」等、他のサービスも合わせて提供してほしいとの希望があった。「利用者には比較的自由になる時間があると思うので、1 回でもいいからボランティア体験ができる機会を作してほしい。前向きになると思う」「自分が積極的に動くことで、道が開けると考える。フードバンク山梨の活動情報が欲しい」といった情報へのニーズもあった。「もっと、世間の方々が認知するように、広く活動を宣伝してほしい。近年、増加傾向にある餓死者や自殺者を減少させるためにも大事だと思う」という広報活動に対する意見もあった。そのほか、「食品支援の終了後は不安があるので、サポートを希望する」や「話を聞いてくれるだけでもうれしい。自分の気持ちを口に出すだけで、気持ちが落ち着く」といった意見もあった。

なお、9 世帯がフードバンク山梨の利用を継続している。

また、7世帯で給与または年金の収入がある。

(3) ヒアリング調査まとめ

①生活保護申請から受給までの間を支援したケース

生活保護申請から受給までの間を支援したケースについては、現行の制度では生活保護申請から給付までの期間、金銭的援助がなく生活を支えることが難しい場合があり、この期間に食糧支援を行うことは当面の生活を維持するうえで有効な手段の一つとなっている可能性がある。また、フードバンク山梨では、生活保護を受給し始めた時点で食糧支援を中止することとしている。したがって、生活保護申請から受給までの間を支援したケースについては、フードバンク山梨の食糧支援は全世帯とも終了している。これらの生活保護申請世帯については、その後も当然のことながら行政との結びつきは強く、地域の社会資源の活用は比較的容易な状況にあると考えられる。

しかしながら、これらの世帯においても食糧支援を継続する希望が複数指摘されていることから、生活保護の給付を受けている世帯でも、一時的に現金がなくなる場合など実際に食糧に困る場合がある、または食糧に困るのではないかという不安が常にある可能性がある。

②その他収入が得られるまで一時的に支援したケース、就労に結び付いたケース

その他収入が得られるまで一時的に支援したケース、就労に結び付いたケースについては、フードバンク山梨の食糧支援は全世帯とも終了しているが、これらの世帯については食糧支援を継続する希望も出ていないことから、比較的生活は安定している状況にあり、地域の社会資源との連携について、現状は大きな問題はないと考えられる。通常に生活しており、就労できる能力を持つ世帯においても、退職等をきっかけに一時的に生活困窮に陥る場合があるということが本調査では明確になり、現行の制度においてはこのような場合に食糧支援を行うことは生活を支えるうえで有効な手段の一つとなっている可能性がある。

また、生活困窮に陥っていた際については、生活保護を申請していないことから行政を頼ることも難しく、一時的とはいえ、地域の社会資源との連携については困難な状況にあったと考えられる。一時的な生活困窮について、食品以外の精神面や物質面を支えるような社会資源との連携のあり方も今後検討される余地がある。

③高齢者世帯のケース

高齢者世帯のケースについては、年金等の制度によって基本的には生活基盤が維持できているものの、何らかの事情により困窮の場合があることがわかった。また、資産があって生活保護の申請をあきらめ、困窮に陥っているケースが複数みられたことから、高齢者については、住み慣れた住居を処分し新たな生活を開始するための手続き等の精神的負担が大きく、結果、生活保護を申請せずに生活困窮に陥る可能性がある。

ることを示している。さらに、結果として行政を頼ることができず。行政等地域の社会資源との結びつきは困難な状況にある可能性もある。今後、資産を所有する高齢者で生活困窮に陥りそうな場合に、こういった支援や制度を設けるべきかについては議論が必要と考えられる。また、これらの世帯においては、フードバンクとのつながりや社会とのつながりを求める声があることから、精神的にも何らか支える支援や制度の検討が必要である可能性がある。

④ ひとり親世帯のケース

ひとり親世帯のケースにおいては、児童手当や学校の授業料の減免措置など様々な制度を利用しており、行政との結びつきも強く、地域の社会資源の活用は比較的容易な状況にあると考えられる。しかしながら、フードバンク山梨の支援が継続している世帯が多く、現行の制度では生活困窮の状況からは脱出できない場合があることが分かった。子供が複数いる家庭では、なかなか正社員としての職がなく、比較的低収入のアルバイトやパートでの就労となっており、給与収入だけでは非常に生活が厳しい状況にあるためと考えられる。また、雇用も不安定である可能性がある。こういった状況の世帯において食糧支援を行うことは有効である可能性がある。また、これらの世帯においては、同じような境遇にある親同士のつながりやカウンセリングを希望する声があることから、精神的にも何らか支える支援や制度の検討が必要である可能性がある。さらに、労働環境の問題などがそもそも生活困窮から脱出できない理由になっている可能性があり、生活困窮にある場合の条件など改めて調査を行い、より根本的な問題解決を検討する必要がある。

⑤ その他のケース

その他のケースについては、世帯の人員構成、生活困窮に陥った主な理由、就労状況など個別に事情が異なっている状況にあり、一概に共通点を見出すのは難しい。これらのケースは、現在の支援制度では何ら支援を受けていない状況であり、反対に生活困窮から脱出する出口も見えにくい状況にあるともいえる。こういったケースについてどのような支援が行われるべきか、食糧支援も含めて総合的な支援のあり方について社会的議論が必要であろう。

118 人の声（アンケート自由記述）

NPO 法人フードバンク山梨

これまでにフードバンク山梨を利用したことのある世帯または現在利用している世帯に対するアンケート調査で回収された調査結果⁴の中から、自由記述を以下にまとめる。

- ⑦ あなたの生活をより良いものにするために、他にどのような支援（現在支援を受けていないもので）があれば、良いと思いますか。具体的に記述してください。

仕事をしたい

- すぐに働ける就労支援（正社員）があれば良いと思います。その他には金銭的な支援があればうれしい。
- 現在仕事してなくて、困っています。お金がないので必要な物は、たくさんあります。後、健康は、あんまりよくないので、気をつけます。
- 国や県、ハローワークによる就労支援でしょうか…。確かに現在、ハローワークなどで就労支援策（職業訓練等）が組まれてはいるんですが、かならずしも就職に結びついてはいない現状があります。10代、20代の若い人向けには支援に力を入れています、自分のような30代、さらには40代にも何か施策を練って欲しいです。
- 就職支援
- 仕事の紹介
- 仕事（アルバイト、パート）の紹介。生活のための一時貸付など。
- 年はとっても元気なうちは働きたいので、仕事が欲しいと思います、
- 日払いの仕事の紹介などの支援があると良いと思う。
- 安定職場。
- 支援より働く場所です。
- 現在フードバンクファームの活動に参加中だが、永続的な農作業等に就きたい。

話を聴いて欲しい

- 仕事をしていても生活苦でどうしていいかわからないけど、どういう所に相談していいかわからない…。後、子供の相談をもっと気軽に話せる所。
- 一生懸命毎日考えていますが自分ひとりでは生きていけないのが現状です。心配がたえません。
- 話をしていただきたい。（話相手）
- フードバンク山梨の方と近況など生活状況を直接お話する機会があれば心から感謝の気持ちが伝えられるのではないかと思います。
- 独り住まいの人はさみしいので心のケアがほしい、私は仕事が無いので何か人の役にたつお手伝いができればしたい。

⁴ 三菱総合研究所の報告にあるアンケート調査と同じ調査を指す。

- カウンセリング等が必要です。ただ個人的に非常にナーバス（神経質）な方もいると思うので、そのへんをどうクリアーできるかも問題です。物心（ブッシン）心のケアも年配者には必要かと。

包括的支援

- 今家では子供が5人において生活が大変。就職活動中の方、生活保護をうけている方など一人一人が違う環境で違う立場でいるのでそれぞれにあったニーズを考えていければと思う。
- 個人的な意見ですみませんが、私は職を失って一年あまり路上生活を続けていました。なんとか社協の方々のお世話で住まいを探していただきました。食べものは、フードバンク山梨さんから頂いて助けていただきましたが、新しい住居がみつかったても布団や家財道具がなく、親しくなった町民の方々に布団をもらったこともあり、助けていただきました。支援を受ける人の中には、様々な方がいるので一概に生活物資もお願いしますとは言えませんが、私の体験で感じたことです。

心の支え

- 全県にフードバンク山梨さんのような組織があればいいと思う。
- 私は東京に住んでいるので、一回だけ支援をいただきましたが、たとえ物でなくても「フーちゃん通信」のようなものをおくっていただけたところがあれば精神的なはげましになります。

政治

- まず政治家が先頭に立って仕組みをつくらなければ、いつになってもよくなりません。生活保護課へいっても今のままじゃだめです。
- 行政の支援は手続きなどにかかなり時間がかかり本当に困っている。至急、一時的などには、利用しづらい。もっと気軽に相談したり、支援していただけるシステムを希望します。

医療

- 国民保険等の保険制度が使用できないため、無職や求職者のものに対する医療支援制度があると望ましい。
- 突然の入院で申請が間に合わず、困っています。役場・病院などかけまわり申請したので、困った時アドバイスを受けれる場所が欲しいです。
- 再就職先が決まった時に、身元保証人になってくれる親族などがいない場合に、どう対応すれば良いのかのアドバイスが欲しいです。
- 病気を沢山もっているので病院代。
- 健康保険料や学校の学年費や給食料の免除
- 生活保護があれば良いと思う。バス代は障害者なので半額になったり、無料にな

ったりで、たいへん助かっている。医療費が安くなれば一番助かると思う。(1割負担くらい)

住宅

- 住宅手当を、子供が産まれたばかりでハローワークに通うことができないので、受けることができないけど、受けれるようにしてほしいと思う。
- 即、住むことができる場所。(仮設住宅の様なもの)

貸付

- 働いたお金が入るまでの現金の貸出があるとありがたいです。
- 金銭の支援。
- 生活保護か一時的な貸付があったら助かると思う。
- 支援していただいていたとき思ったのはやはり、お金の手配でしょうか。
- 自己破産しているので、自己破産した人もお金を借入できるところ。
- 仕事が決まるまでの間のお金を貸してもらえて、給料をいただくようになったら返済していけるような支援機関があれば大変助かると思います。
- 生活保護か一時的な貸付があったら助かると思います。
- やっぱり、お金がかかわってくるので、少しでも生活に必要な分だけのお金の支援がありがたいと思います。

利用基準

- 身体障害者一級ですが、若い頃から別の病気(透析以外)も患っていたので中々仕事につけず、年金支払えず障がい者年金が受給できず不自由しているので、何とかもらえるような支援があれば嬉しい。
- 心臓病で仕事ができない、市の福祉課に相談しても全然ダメだった。3~4 時間仕事できるまで何らかの協力が欲しい。
- 2週間に1回でなく1週間に1回がいい。
- 2週間に1度では足りない。10日に1度、1週間に1度とか期間を少し短くして欲しい。

具体的希望品目

日用品

- ✓ 私達には3人の子供がいます。下の子供達はお下がり、洋服をあげられますが、上の子供には買ってやらなければなりません。もし、洋服の物資があればですが、頂きたいです。
- ✓ 食品以外に日用品があれば良いと思います。
- ✓ 夏場は食品を少なめにして、台所用品たとえばライボン、クレンザーお風呂用クレンザー等を1個でも良いと思います。調味料がほしいです。
- ✓ 無理と駄目なのはすごくわかっているのですが、食料品(物品)の他に商

品券とかがあれば、必要な物が買えるかなあ!!と思ってしまいました。

- ✓ 細々と多数の食品を詰め合わせて送って頂く食品、本当に助かっております。無駄にせず、大切に工夫しながら、使わせて頂いております。
- ✓ 日用品やボランティア活動の情報、(野菜作り)、求職活動の情報。
- ✓ トイレトペーパー、ティッシュペーパーなど。
- ✓ 日用品、シャンプー、洗剤など。
- ✓ 生活用品。
- ✓ お金がない場合、日用品が必要となる。そんな物が届くと大変助かる。
- ✓ 洗剤類があれば助かります。
- ✓ 卓上ガスコンロのガスボンベ、蚊取り線香、古本、精神的安らぎになると思います。
- ✓ 体調が悪く、何もできない日も多いのですが、子供が2人いますのでなんとか生活はしていけます。1人きりであれば食事以外に必要な生活用品を調達するのがむずかしい気がします。
- ✓ 日用品や家庭用品やギフトカードをもらえると、とても助かります。
- ✓ 美術館、科学館などの入場割引、小学生の夏休みの日中の世話、時間管理、昼食、習い事(遠距離)の送迎、安否確認。

食品

- ✓ 本人の希望する食品があれば良いと思います。生ものも送っていただけるとうれしい(魚や肉など)。食事を食べることで元気で明るく仕事ができる。
- ✓ ラーメンなどがあればと思います。
- ✓ 欲をいえば計り知れないけれど、もう少し缶詰がほしかった。お米はあるけど、おかずが足りない時もありました。水分補給にはペットボトルもあったほうがいい。
- ✓ 夏飲みもの冬お茶など、少し多く頂けたら嬉しいです。
- ✓ おかずになるものがなく缶詰などがあれば良いと思います。
- ✓ 年金が基礎年金だけなので、苦しい生活をしています。

その他

- 炊き出しの回数 UP 希望。
- 母子家庭と同じ家庭。
- 現在のままで良いと思います。
- 今の支援で満足です。
- 生活保護と同等の支援。(生活保護を受けられない人たちの為に)
- 町の介護関係の仕事ですが、お金を取るしボランティアは限界はないようで、すぐ近くになってしまう。多くのことに金銭がからむので!

⑧ フードバンク山梨と自治体や関係機関との連携についてどう思いますか。関係機関との連携についてどう思いますか。

- 1.もっと連携してほしい →理由
- 2.今のままで良い
- 3.連携しなくても良い →理由
- 4.その他

山梨県外で困窮しても、行政からフードバンクにつながる事が無い状況

- 現状を理解していないので、回答できません。
- 県外ですので、わかりません。
- 私は東京に住んでいて自治体（目黒区）としかつながりがないので、今のところよくわかりません。
- 私は知らなかったのでフードバンク制度を広めるため。
- 初めてなのでまだ分からない。
- 連携状態かどうなのかわからないので何とも言えない。

利用者の立場から、行政との連携強化を望む方の意見をみる。

- 誰に何を相談したらよいか、わからない。
- 役所役場でも人員は増えていなくて無理だと思う。意外に無駄なことをしている職員が多い。なにしろ知名度が低すぎて私の知り合い 30 人～60 人くらいで知っていたのは数人です。確か 3～4 人かな。知名度を上げる努力を考えてみてください！地道にこつこつと非常に根気が必要とされます。成果が得られることがわかりにくい仕事です。多くを望まず少しずつ一步一步ずつ幼児を育てるような愛が必要です。愛とは育むことです。いつくしみ育てる心です。偉そうなことを書きました。すこしでも参考になれば幸いです。
- 増税や電気料金値上げ、その他経済状況によって今後、生活に困る人が増えると思う。フードバンク山梨だけでなく、県や各市町村も更に生活支援に力を入れて欲しい。現状はフードバンク山梨のスタッフの皆さんに結構、負担がかかっているとおもうので…。
- 無理と駄目なのは、すごーくわかっているのですが、食料品（物品）の他に商品券とかがあれば、必要なものが買えるかなあ!!と思ってしまいました。
- 私は、まだ身体が動くので買物にも行けます。介護保険料が上がりわずかばかりの年金も減って行き、節約節約の生活ではありますが、自治体民生委員の方達がもう少し動いて調査して下されば支援をお願いしたい方も沢山いると思います。生きる一食べる…私もこの制度で随分助けられました。
- 生活が苦しいのでもっと連携してほしいです。

- その時々、不足が生じる場合がある。(生活費)
- どのような人が支援を受けれるか、わからない。
- 宣伝が少なすぎるから。
- もっと多くの方に知ってもらいたい。
- フードバンクを知らない人も多い。
- 困っている人は早く連絡してほしいと思う。
- 言われないと気付かず、支援を受けられないから。
- 情報交換していけば、もっと多くの生活困窮者が助かる。
- 静岡にもフードバンク事業を行ってほしい。
- 大変良いことだと思う。
- 失業者、生活困窮者の就労に有効かと思う。
- 大変よいと思います。
- もっと強く仕組みを作るよう言ってもらいたい。
- いろんな情報が飛び交う中で救護を求めている方々がこの世の中には多いので少しでも手元に届く様にしたらいいと思います。
- 個々でやっても意味がないから。
- 市役所の対応がいまいち良くないのでその点を何とかして欲しい。
- 福祉課の方とフードバンク山梨の方々には親切に対応して頂きました。

⑨ フードバンク山梨を利用するようになって、あなたの気持ちに変化がありましたか。

＜必ず答えていただく項目＞

1. 気持ちが非常に前向きになった。
2. 気持ちが少し前向きになった。
3. 気持ちが少し後ろ向きになった。
4. 気持ちが非常に後ろ向きになった。
5. 変わらない。
6. その他

- 食品を頂けるということは大変、大変有り難いと思っています。ただ毎月のローンは変わることなく、支払っていく額は変わりません。求職活動中の私達夫婦にとって、この先どうしていいものか頭が痛くなります。お互い勤める様になったとしたら F 県で住んでいた時と同じお給料がもらえるとは限らないし、ローンの組み直しできるのかも分かりません。万が一の為の家族の生命保険は解約せず、ずっと残しておきたいし…と、いろいろ考えてばかりであつというまに、こんなにも月日が経ってしまいました。
- 拾い食い（犯罪）をしなくて良いので精神的に大変楽になりました。非常に有り難く思っています。
- 私もこまっている人を助けたいと思っています。でも今はお金がありませんので気持ちだけです。

⑩ 個人宅配の食品箱に入れる手書きの手紙についてどう思いますか。

- 1.毎回入れてほしい →理由
- 2.今のまま（月1回）で良い
- 3.無くても良い →理由
- 4.その他

毎回希望される意見

- 手書きのメッセージに励まされ、元気になれた。応援してくれる人がいると思うと嬉しかった。手書きはありがたいです。
- 手紙は、とてもその人その人にとって大事なことなので、とくに手書きは大切。
- 手紙はその人の心があらわれるので、でも、毎回は大変だと思いますので、月1回で良いです。
- 元気が出るし、なんか嬉しい気分になるので。気分転換には最適です！
- 誰かとつながっていて、うれしかった。
- 他の情報や地域との交流がわかるから。
- 元気がもらえる。社会とのつながりが実感できる。
- 安心できるし、心のはげみになります。
- 非常に助かりました。
- 見るのが楽しみで、とても良かったです。
- やさしい気持ちになる。
- 心あたたまるので。
- 心がおちつきます。
- 心がなごむ。（2人）
- 心のささえになります。
- いろんな意味で励みにもなりました。
- 励みになるから。（2人）
- 他の情報がつねにほしい。
- とてもうれしい。他の方の話を書いてあるのも共感できて心強い。
- 今回から利用していますが、とても嬉しかったので。
- とても大変かと思いますが、とても気持ちが前向きになり、うれしかったから。
- フードバンク山梨の方々の親切に感謝しております。
- 読むとホッとしますが、手数のかかる事なので1回で良いかと。

その他の意見

- 御多忙中にもかかわらず、丁寧なお手紙を書いて頂き、励ましや応援のお言葉などとても嬉しく感じています。それと同時に私達夫婦がいつまでも仕事がみつか

らずにいることなどたくさん頭の中で考えてしまい、フードバンク山梨さんに申し訳ない気持ちでいっぱいになっています。

- うれいですが、政治家が努力すべきです。
- いつも、一緒に送ってくれるお手紙はとてもうれいです。良いです。
- 手書きと云うのはとて心温まる嬉しいものです。お忙しい中での一筆、時折同封して頂けると有難いです。
- 気持ちがうれしくなる。
- 気持ちが下向きの中、心が楽になる気がする。
- 七夕のも経験ですが心がなごみました。
- とてもうれいです。良いです。
- わからない。
- 私は東京に住んでいるので、ただ、手紙はとて良いと思います。
- お手紙であたたかいふれ合いを感じるから。
- 一度だけの宅配だったのですが、お返事をかけず申し訳ございません。
- 本当に生活に困っている場合に、心の支えになる。言葉が嬉しい。
- すごくはげましてもらい、これからも頑張ろうと思える。子供たちは、「あしながおじさん」とて喜んでる。
- 手紙を見るのが楽しみで、来るのを待っている。
- 安心できるし、心の励みになる。
- 心のケアになり、気持ちが癒され前向きになる。
- 何もなくただ食品、食料を送られてくるだけでは味気ない。
- 毎回気持ちが楽になる、温かい気持ちになる。
- 独身男性は特に寂しがり屋さんだからコミュニケーションを取るために俺は賛成。
- フードバンク様との連絡を取る為。
- 企画になったときは3~4回しか見てないのでわかりません。
- 元気が出ます。ありがとうございます。
- 勇気づけられているから。
- 手紙によって勇気が出る。
- 心の支えになった。
- 配布されていた時はうれしかった。
- この様なお仕事をしている方は忙しいので、又、ムダを少しでも省くことで良いと思います。
- 手書きの手紙はとて心が温まりありがたいと思います。

⑪ 個人宅配の食品箱に入れる企画についてどう思いますか。

1.良かった企画はありますか。

フーちゃん通信 セタ バレンタインチョコ 正月餅

クリスマスカード →理由

2.無くても良い →理由

4.その他

続けて欲しい

- 季節や心温まる言葉がうれしかった。
- はげまされました。
- 担当者よりの一言、うれしく思う。
- セタの心くばり、ありがとうございます。利用させていただきました。女性の職員らしい心くばり。男性の職員はちょっと無理かな！個人差がありなんとも言えないけれど。年配になればなるほど多くの方が感謝していると思う。
- 私達家族の分まで、たんざくが入っていた。
- もらった事がなかったから、うれしいと思う。
- すごく心がこもっていました。
- お餅は高いので、せめて正月くらいは。
- 昔ながらの物が良いと思う。
- （フーちゃん通信では）フードバンクのことがよくわかって良い。利用している人達のことでもわかって良い。
- 通信を見ると、世の中に見捨てられてない温かい気持ちになる。
- どんな方がどんな想いで食品を送ってくれているのか良くわかる。
- 読むのが楽しかったです。また、チョコレートはおいしかったです。
- 単なる支援品としてのチョコレートではなく、バレンタインなのだという気持ちがとても嬉しかった。
- うれしいきもちになれる。
- 子供がいるので。
- その年のことがわかって、うれしいものです。
- 私の時は無かったので分からない。
- 私自身がよかったから。
- 贈ってくれる人が周りにいなかったの。チョコはおいしかったですし、クリスマスカードは温かい気持ちになった。
- 忘れていた子供の頃を思い出して楽しかった。
- 元気がもらえるから。
- 家庭理由から貧困社会に落ちた人達には嬉しいプレゼントだと思う。

- 世の中の一員であるという実感が持てます。
- 近況がわかるから。
- とても、うれしかったです。頑張ろう！とか、素直に前向きになれる。
- 全ていいと思います。心があつたまります。
- 初めて七夕の道具をみて、願いを書き、ベランダにかざしました。(6月から)
- 笹の葉、励ましの言葉、ウチワの明るい絵など、前向きになれる。
- ささがはいっていたので、気分が上がった。
- 四季を感じられ、全部ありがたく存じます。
- 他の交流情報がほしい。
- 初の利用でしたがインパクトは良かったです。
- もらってないのでわからない。
- 子供達と願い事を書いてとても楽しかった。
- 他の人の意見も聞けて良い、クリスマスカードは気持ちがこもっていてクリスマス気分を味わえた。
- 個人ではなかなかもらえないので嬉しかった。
- 全て良かった、心が温まる。
- 行事はいい事なので全部してほしい。
- 知らなかったフードバンクの活動がわかる。
- その日々での行事がイベントを自分の中でも再確認できて、当たり前が幸せと感じられるから。
- 震災前を思い出した。
- 時期が思い浮かべていい、今は時間がわからない。
- 季節感が出て嬉しい。
- 一人暮らしで久々にももらいました。
- お料理の事や、情報が知れて助かりました。
- 見ていて楽しい。
- フードバンクを利用し始めたばかりなのでわからない
- ふーちゃん通信は良いと思います。まだ2回目なので、その他のことはわかりません。
- 励みになる。

他の所に力を注いで欲しい

- 7月の七夕を頂いたとてもうれしかったです、少しでも無駄を省くこと、少しでも費用がかからない様にしてください。
- 非常にありがたいが、日用食品の方が助かります。
- 気持ちだけで十分です。

⑬ もし、フードバンク山梨の利用がなかった場合、どのような点が困るでしょうか。具体的に記述してください。（困る点がない場合は、「なし」とご回答ください。）

- 生きていたかどうか分からないですね。世の中の仕組みを作ってカイゾウしなきゃ良くなりません。
- もし利用してなかったらと思うととてもこわいです。どんなにありがたかったか、わかりません。
- 食べる物がないと、人間は精神的におかしくなったり、会社の面接等の行動力がなくなってきたりします。精神的にはスーパーなど行って食品を万引きしようとか、そこまでおかしくなる時もあります。だからこそ食の支援は、これからも有り続けるべきだと思います。
- 誰も頼る人がいないので、本当に助けて頂きました。フードバンクさんの様な所がなければ餓死するか、万引きするかもしれません。
- 拾い食い（コンビニ等の残飯を早朝に拾うこと）をすることになります。衛生面にて夏は危険な面があります、又、法的には犯罪にもなると思われ精神面で非常にきつい面もあります。
- 身内友人知人しか頼れなくて多くの人が実直な方が多いと思うので健康を害してしまう方も出てくる。近所で身寄り少なく餓死した方、65才くらいの男性を知っています。
- 食べる物がなく、親子でお腹をすかせていたと思います。助かりました。
- 食べなければ生きて行けないし、何もしなくても生きていてだけで、お腹は減る。
- 生活保護が始まるまでの期間、そして生活が安定するまでの間に利用させてもらい、とても助かった。利用がなかったら食事は後回しになり、ほとんどとれなかったと思う。
- 市役所の福祉課に生活保護の申請をしてから認定を受けられて、初回の保護費が受給できるまで約1ヶ月かかりました。ほぼ所持金が無い状態でしたので、フードバンクさんの支援が無かったら、生活が維持できなかったと思います。
- 今は生活保護を受給している為、フードバンク山梨から食材の提供を受けていないが、支給されている額も1ヶ月食べていくのにやっとのものなので、支給日の1週間くらい前になると生活費も食べるものも、ほぼなくなってしまっている状況です…。もう少し生活費を切り詰めていかないといけないんですが。
- 高齢で無職、僅かな年金…同居ではありませんが身体不自由な娘、孫等の為、毎日応援に行っています。（病院とか買物など…寝たきりではないのですが）フードバンクの支援で自分の食生活…本当に助かっております。
- 衣食住にかかわる預金がありませんでした。電気代、水道代、家賃等支払えませんでした。
- なし。でも米、お茶は買わなくて良い。
- ご飯の量が減ってしまう。

- 私達家族の食費。
- お米を買うお金がない。食費が少なすぎて、栄養的に良くないと思う。
- 米が食べられない。
- 米が買えない。
- お金がなく食べられない時期もあり、その時は来るのがうれしく思い、待ちどうしかった。
- 具合の悪い時も良い時も、助かります。
- 食生活。
- 食べれない。(2人)
- 毎日の食事に困る。(3人)
- お金は、いつもあるとは限らないので、食べていくのに困る。
- 毎日に食事とかいろいろ店に買物に行けません。食べたり食べなかったりすると思います。
- 食事の摂れない日が何日もあったと思う。
- 月のお金が決まっているので、突発的な時にやりくりが苦しいので、支援があると助かると思います。
- やはり決められた予算の中での食費なのでとても助かります。
- 食糧がなくなり明日から生きるすべがなくなっていたと思います。
- 食糧が困難で生活が苦しくなる。
- たべものがないと、ほんとうにこまる。お金もなくてもこまる。病気になったとか。
- 今現在、身体を動かす事が困難である為、その都度知人にたのむ。
- 多分ほんとに生きていなかっと思います。
- フードバンクが利用できなかつたら、今頃はどうなっていたかと思うと、たぶん、生きてはいない様な気がします。大変感謝しています。
- 食事や気持ちのことで前向きになれないことがあったので、利用がなかった場合には困ります。
- お金がなく、食べ物を買う事が出来なくて悩んでいたのも、そんな事を毎日考えていたのでずーと(仕事)がみつかるまで辛かったと思うので困ります。今もまだ探しています。
- 食品が何も買えない程現金がなかったことがあったので、毎日少しでも食べられることは、とてもうれしかったです。特に子供が2人もいたので結構きつかったので本当に助かりました。
- 食費が違う。
- 米とか調味料、味噌、酢等を頂き、家計が助かった。
- 米、麺類。
- いざという時(生活費のやりくりがうまく行かなかった場合)これらの支援が無いと困る。
- 退院未定なので、利用できなければ(貯蓄減少含)、子供には食べさせ、私は食

を抜くなどしたと思います。

- 子供が産まれたばかりで、買い物にあまり行くことができないので利用しないと大変です。
- 育ち盛りの子供が2人います。部活動や学校にお弁当を持たせてあげなければなりません。女の子なので美容院やオシャレもしたい年頃ですが、その辺はがまんしてもらえますが…。(がまんするしかない) お弁当を持たせない訳にはいきません。お米を毎回入れてもらえて、本当に助かりました。
- 無収入なのでフードバンク山梨に援助して頂き、本当に助かっています。もし無かったら生活が出来るか不安です。
- フードバンクの利用が必要な人は必ずといっていいほど金銭的に困っている。食がなくては生きていけない、万引きするわけにも行かない。そんな時フードバンクがあれば命をつなぐ事ができる。フードバンクは大変重要な意味を持っていると思う。
- バイト代は月2万円で低所得状態なので、食料品購入資金がないので食料支援がないと大変困る。
- お米がない時は子供にご飯のおかわりをさせてあげられず、情けなくて涙が出た。
- お米が何よりも嬉しく、毎回待っています。食べ盛りの5人の子供たちはよく食べるのでフードバンク山梨の利用がなかった場合にはお米を食べられなかったかもしれない。
- 毎日の食事に困る。
- 食料がなくなりあすから生きるすべがなくなっていたと思います。
- 子供二人を抱えていたので、以前も今日明日食べ物がないという時は本当に落ち込んだ。
- 残金が50円になり福祉課に相談、フードバンクさんより3回食料支援を受けた。ほんとうに助かりました。今年も5月から7月まで入院、仕事ができなくなり生活が又苦しくなった。とにかく困っている人がたくさんいます。フードバンクさんは光です。
- 食べ物が買えないので栄養不足になり病気になる可能性があると思う。
- 収入面が非常に厳しいため、食べ物が限られてくる。
- 生活の維持ができなくなって、途方に暮れるばかりの日々ですごしていることになるから。
- 収入が少ないので食費のやりくりに困ります。
- そうならないとわからない、友人のところへ頭を下げていくかもしれないし。それもいざとなるとできないかもしれないし。
- 食べる事が困る、生活困窮者が増える。気持ちが前向きでなくなる、もう一度やり直したいという思いがなくなる、無職である私たちが困る。
- 私みたいな貧乏な人には大変良いことだと思います。
- 商店が近くにないから。
- はっきり言って今の俺は病院の病室のベッドの上に寝ているか、それともフード

バンク山梨さんの助けがあったからこそ今の自分がここまで元気に暮らすことができるのです。本当に少しの間だけお世話になりました。感謝を込める思いでいっぱいです。

- 食料品が手に入らなくて何も食べられない。
- 生活が困る。子供たちの食べ物に困る。
- お米や乾麺などの消費量をもっと減らす努力がひつようになる。
- 惣菜パン、シリアル、ジュース、コーヒーなどの贅沢品は買えないので、心のゆとりがなくなる。
- 又、たまの外出や多忙時にお弁当などを利用することが出来なくなるので、疲れている時の逃げ場がなくなる。ささくれた生活になってくる。
- 生活に余裕がなくなる。
- 今のところはあります。困る事がありました時はまたお願いいたします。
- 病弱なので利用がなければ生きてはいけません。
- 仕事がなく病気療養中なので収入がなく食べる物がありません、生活をしていくためにはやはりフードバンク山梨さんのような食の支援はとても助かります、ありがとうございます。
- 食事や生活の環境。
- あすの希望がなかったと思います。
- 生活費がないため食材の購入ができず、食物をとることができない。
- 特になし。
- 食事がやはり一番大事だと思うので、フードバンク山梨の利用がなかったら家族の（子供たち）はなくなっていたかもしれない状況でしたので使用できてよかったです。
- 収入が少ないため支払いや生活費が無くなり困ってしまう時期がある。
- 2月の火事で全部失ってしまいました。最初の頃は地区の皆様のお陰でなんとか生活できましたがその後はフードバンクにたよるしかありませんし、もし利用する事が出来なかったら今の生活は出来ません。困る事全部でどうなっているのか想像つきません。
- 生活が大変だ。
- 何も食べられず、考えるだけでぞっとする。
- 今は配布が無いため、すべての食材（特に米）は配布があった時の倍は買っています。
- ある物で間に合わせる、一日三食は食べる様にする。
- 今頂いて居る物がないと、美味しいものがいただけません。
- 奇数月は私自身の収入がなく（障がい者年金）生活が苦しく現金がないのがとても困ります。お米も頂いているのでとても有難いです。
- 前回まで収入がなく明日食べる事を心配して苦勞していましたが、今回は生活保護の受給がされることになり今までフードバンク山梨の助けがなかったら大変だと思います。ありがとうございました。

⑮ 7月よりフードバンクファームを始めました。

＊フードバンクファーム：花と野菜であふれた地域の憩いの場

- | |
|---|
| 1.参加したい →理由
2.興味が無い
3.別の内容なら良い →理由
4.その他 |
|---|

- 地域の活動に参加希望します。
- 花も野菜も好きで、他人との交流がほしいため。
- 野菜に興味あり。
- 気持ちが癒されそうなので、参加する時間があれば。
- 他の人とのふれあいや野菜作りなどで、汗を流したい。
- どんなことでも、やってもらいたい。
- たのしそうだから。
- なんとなく。
- 内容がわからないし、憩い場か趣旨は理解できるけど！少しでも（一人でも）多くの人々が安らげれば幸いです。くつろぐこともできたり、試行錯誤に陥らないと思うけど！少しずつの前進になると思います！
- その他に意見
- 南アルプス市に畑があることを新聞で知りました。前向きな気持ちで参加したいという訳ではないのですが、どんなところなのか？どんな人達が集まっているのか？関心があります。
- 初めて聞きました。どこでどんなふうに何をするのか、もっと詳しく知りたいです。
- 機会があれば見学したいと思います。
- 今は仕事でいっぱいですが機会があれば。
- 参加したいが足（車）がない為いけないです。
- 内容が分からないことと、南アルプス市まで伺うのが難しいと感じます。
- 内容がよくわからないので、わからない、もっとよく知りたい。
- どのような企画なのか具体的にわからない。
- 一度は行ってみたいと思いますが、移動する「ゆとり」がまだなので。
- 人前に出るのが苦手なもので、申し訳ありません。
- 人とあまり接しなくなりました。
- 心の余裕が無いので。
- 時間がないです。
- 行くまでの行動がない。

- 仕事で毎日おわれているので。
- そうゆう所に行きたいと思うが移動手段がないので、あきらめている。
- 1日1日の生活におわれているので、とてもできない。
- 看病と仕事と家事をしているので、時間があれば参加してみたいです。
- 人間最低生活でも米は必要な物です。
- 子供が幼いため参加できない。
- 病気のため参加出来ない。
- 参加したいが、腰がわるいので出来ない。
- したくても、体調が無理。
- 距離的に参加は難しい。(県外者)
- 高齢のため。
- 意味内容がわからない。
- 知りません。
- あまりわからない。
- 生活保護はもらっていない。
- 私は東京に住んでいます。いつか行ってみたいと思います。
- 参加すれば何かもらえるのですか、もらえれば参加します。

㊴ 最後に気づいた点があれば、自由に記述してください。

フードバンクの周知を

- スーパーやまとなにて「きずなBOX」が設置されています。個人的な意見として、他のスーパーにも置いてあれば更に多くの人から支援に協力を頂けるような気がします。他のスーパーからの協力は難しいのでしょうか？「きずなBOX」の、この取り組みはとてもいいと思いますので山梨全体にこの輪が広がったらいいなあとと思っています。
- とにかく政治家が先頭に立って何事も仕組みを作っていかなければ、いつになっても世の中良くならないと思いますね。
- 今や支援は、行政だけでは無理な所もあります。だからこそ第三者団体ががんばってほしいと願っています。これからも本当の支援とは何か、支援のあり方とは何かを考え、大きく成長してもらいたいです。私達も、この支援をただの支援と思わず、自立の道を歩けるよう、がんばりたいと思います。
- 社会には貧困も自己責任という考え方があると思います。私も自分自身がこうゆう状況になる前は、そう思っていました。今は自力では難しいけど、少しの支援があれば、それがきっかけで自立できる人がたくさんいると思います。そういう人を社会全体で支援するのは当然の事だという考えが少しずつでも広がって欲しいと思います。震災後の復興支援のボランティア脱原発のデモなど、少しずつ

日本も変わり始めたとも実感しています。

- もっと世間の方々が認知するように、広く活動を宣伝して欲しい。近年増加傾向にある餓死者や、自殺者を減少させるためにも大事だと思う。
- 毎日旦那様の給料だけで返済や衣食住をやり繰りしていますが、派遣なので給料も12万しかもらえず一ヶ月に一回は必ず、電気やガスが止まりいつも困っている。自分も一応働いているが勉強中の身なので少しの足しになりません。住宅も市営に在るが半年以上も滞納しており、退去も余儀なくされて今ものすごく困っている。頼る人もいなくただただ悩んで困っている状態で、日を追うごとにキツさが増している。
- 貧困問題は社会の問題であり、政治の問題でもあるので簡単に解決出来るとは思わないが、ビッグイシューなど新しい運動もあるのでそのような動きに期待したいと思っています。フードバンクもその中の一つであると感じておりますので、一層の発展を楽しみにしております。※ビッグイシュー (The Big Issue) は、ホームレスの社会復帰に貢献することを目指すとする企業であり、またイギリスを発祥に世界で販売される雑誌のことである。

子どものために

- 毎回子供達の好きそうなお菓子や飲みものなどを人数分入れて下さりフードバンクの方々の感謝の気持ちでいっぱいです。暑いですがみなさんも体に気を付けてください。
- 食べ盛りの子供が居る中でなんとか生活をしています。贅沢はできませんがせめて子供達にはさみしさや不自由さを感じさせないように頑張ろうと思います。これもフードバンクの皆様のお陰ですありがとうございます。これからもよろしくお願い致します。
- フードバンクを利用したい。子供も障害があり半年前より仕事がなくハローワークにいらしています。今はハローワークの支援で子供はパソコン教室へ行っています。
- 高校生の子供がいるのでお米や野菜はすごく助かります。我が家にはお菓子はいらない。
- お米は大変助かります、長男が毎日おにぎりを持っていきますので、おかずとなる缶詰が欲しいです。後お味噌汁などがあると嬉しいです。スープが入っていたときはとても助かりました。

他者への気遣い

- この4ヶ月程ですが、どれほど助けられたことか。又、宅配便が来ることを心待ちにしたことか…。このような制度があることを知らずに生活されている方、沢山おられるのではないのでしょうか。私よりもっともっと節約生活しておられる方、

1人でも多くの方に届けてあげてほしいと思っています。野菜、肉、魚、果物等々、スーパーのハネ出しばかり買っておりますが、工夫次第での生活習慣でこれからも頑張ります！

前向きな気持ち

- 出来る限り、今の給料で生活していけるように（1ヶ月）しないとならないのですが、もし最悪生活費が足りなくなった場合のみ、また利用させて頂きたいと思っていますが、なるべく給料でやっていけるように心がまえ持って日々生活していきたいと思っています。
- フードバンクのおかげで、気持ちが前向きになりました。元気が出てきました。ありがとうございます。
- 月に2回、本当にありがたく、待ち遠しく楽しみにしている。早く働けるようになって、私と同じように悩み苦しんでいる人に私がしてもらったフードバンク山梨の思いやりと支援に少しでも協力や、寄付できる様になって恩返しができればと、とても前向きに頑張っていこうと思う。
- 善意ある皆様のおかげやフードバンク山梨の皆様の活動で本当に助けて頂き、「頑張るゾ。」と素直に思え、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。
- 米が助かった。フードバンクを見習ってベランダ菜園したのですが、水のやりすぎでキュウリはだめになってしまいましたが、トマトは元気です。
- 働いていたところは山梨県によく行きました、野呂川林道、広河原、夜叉神峠なども。気がめいていたおとしの12月、1回でもおくっていただいてありがとうございます。はげまされました。

感謝の気持ち

- いつもたくさん食品をありがとうございます。七夕の笹飾りも、みなさんの優しい心遣いに感謝しています。震災後に初めてほっこりしました。本当にいろいろとありがとうございます。
- フードバンクの皆様には大変お世話になりました。ほんとうに有りがとうございました。
- 毎月2回の食品をいただきありがとうございます。糖尿病の為増殖網膜症をわずらいレーザーをしています。
- 今体調がとても悪いです。お手紙をいただきありがとうございます。心より感謝しています。
- お世話になり、有難うございます。フードバンクファームの参加を楽しみにしています。
- フードバンク山梨を紹介していただき、そして食品を頂いて食べ物のおありがたさを心より感じております。本当にありがとうございます。

- 今は何とか生活再建が出来、なんとか食べれる様になりました。県外なのに支援いただき本当に有難うございました。
- 大変ありがたく利用させて頂いている。
- 本当にありがたく思います。大変感謝しております、ありがとうございます。
- これからもよろしくお願いします。
- いつも食料をいただき、とてもたすかっています。ありがとうございます。
- フードバンクで3ヶ月お世話になりましたが、本当に助かりました。ありがとうございました。
- 申し込んだのは6月からお世話になっています。本当に助かっています。ありがとうございます。
- まだまだ苦しい生活は続いていますが、どんなに励まされたかしれません。本当にありがとうございます。
- 私は大食いだったので10年くらい前は1回配布では10日で食べきってしまい、姉に助けてもらってました！身内と（本当の）友人しかいなくて、やせました。助かりました。心よりお礼申し上げます！
- 良い支援にあえて嬉しかったです。本当にありがとうございます。
- フードバンク山梨の心づくし、たいへんありがたく感謝しております。フードバンク山梨の方々の御多幸を祈ります。
- いつもありがとうございます。
- このようなアンケートに協力できてとてもうれしい。今はフードバンクは利用していませんが、以前食料をもらった時はうれしかった。
- フードバンク山梨を長くつづけてやって下さい。
- この2ヶ月間すごく助かった、ありがとうございます。
- 本当に助かっています。ありがとうございます。
- このような支援を受けられるなら受けたい。
- おかしや食品がバランスよく送られてきた。

申請基準・利用期間

- もう少しフードバンクの期間をのばしてほしい。（6ヶ月以上）
- 2012年1月13日発送分で終了しました。あまえてはいけないとわかっていますが、誰かの紹介がないと、又お願いする事は出来ないのでしょうか。
- フードバンクはどんな人が利用できるか知りたいです。
- 4～6月まで支援して頂きましたが、これからも支援して頂けるのでしょうか、宜しくお願い致します。
- フードバンクからの食品が生活保護を受けるとすぐに終わってしまいますが、もう少し続けてほしいと思う。ほかに受けたい人が多いと思いますが、私たちみたいな無職のため食べ物もない物も続けて欲しいと思う。
- 市役所に申し込みをして、1度～2度ほどくらいしかフードバンク山梨様からの救援物資は受けてないのでよくわからないのですが、どのような方法を取れば良

いのか具体的に教えて下さい。やっぱり、市役所などの窓口などで申し込みをしなければならぬのでしょうか？

- フードバンクを利用したが、やはりお金がない人には2週間の間は長い。やはり短くなれば、なお、うれしく思われる。
- 今は食品はもらっているけど、出来たらもっとくれたら助かります。週に2回くらいでお願いします。

具体的希望品目

- 毎回定期的にきちんと宅配があり、安心して待っていられます。缶詰（魚やフルーツ）などを送ってもらえれば保存がきいて助かります。いつも本当に感謝しています。
- 以前より手間をかけずに食べられるもので栄養価の高いものが増え、長期間の保存のものもあり色々考えながら次回までにつなげるように努力しています。以前にとっても助かった甘い物が少しずつ入っているようになりましたが、夏場は塩気の多いものを少し多めにお願いしたいと思います。
- 私達大人は口にしなくても良いと思うのですが、やっぱり小さい子供達はどうしてもお菓子やアイスを食べたがります。お米、インスタント麺などへらして子供達が喜んで食べるお菓子をふやすことは可能ですか？
- 乾物類や野菜、調味料、何でもいいので。飲料水下さい。お願いします。
- 七夕などで笹をもらったが家につく時には葉が丸まってしまい、かざらずじまいでした。又、3週続けてティッシュペーパーが入っていたが量が多いためまだつかっていません。もうすこし食料を多くしてもらいたかった。
- 食品はいつも役に立っています。ただあまり名の知れない物があるので、少し考えたりすることがある。

参考：アンケート調査票

アンケート調査票

以下の項目について、当てはまるものに○をつけてください。また、() 内は自由に記述してください。

1.あなたの生活状況について

① あなたの性別について教えてください。

＜必ず答えていただく項目＞

1.男性

2.女性

② あなたの年齢について教えてください。

＜必ず答えていただく項目＞

() 才

③ あなたのお住まいの住所について教えてください。（具体的な番地等は不要です。）＜必ず答えていただく項目＞

山梨県 () 市・町

④ フードバンク山梨の利用歴について教えてください。

＜必ず答えていただく項目＞

平成 () 年 () 月頃から

- ⑤ フードバンク山梨を利用するようになったきっかけについて教えてください。＜必ず答えていただく項目＞

1.市役所で勧められた/紹介された

→具体的な部署名 ()

2.別の団体に進められた/紹介された

→具体的な団体名 ()

3.自分で見つけて依頼した

→見つけたきっかけ ()

4.その他 ()

- ⑥ フードバンク山梨以外に生活支援を受けている団体等があればご記入ください。

団体名	支援の内容
-----	-------

- ⑦ あなたの生活をより良いものにするために、他にどのような支援（現在支援を受けていないもので）があれば、良いと思いますか。具体的に記述してください。

- ⑧ フードバンク山梨と自治体や関係機関との連携についてどう思いますか。

1.もっと連携してほしい →理由

2.今のままで良い

3.連携しなくても良い →理由

4.その他

- ⑨ フードバンク山梨を利用するようになって、あなたの気持ちに変化がありましたか。

＜必ず答えていただく項目＞

1. 気持ちが非常に前向きになった。
2. 気持ちが少し前向きになった。
3. 気持ちが少し後ろ向きになった。
4. 気持ちが非常に後ろ向きになった。
5. 変わらない。
6. その他

- ⑩ 個人宅配の食品箱に入れる手書きの手紙についてどう思いますか。

1. 毎回入れてほしい →理由
2. 今のまま（月1回）で良い
3. 無くても良い →理由
4. その他

- ⑪ 個人宅配の食品箱に入れる企画についてどう思いますか。

1. 良かった企画はありますか。
フーちゃん通信 七夕 バレンタインチョコ 正月餅
クリスマスカード →理由
2. 無くても良い →理由
4. その他

- ⑫ あなたはお金をやりくりするために、ご飯を抜いたり、減らしたりしたことはありますか。フードバンク山梨を利用する前と後でお答えください。

＜必ず答えていただく項目＞

・利用する前

1. ある →週に 回くらい
2. ない

・利用した後

1. ある →週に 回くらい
2. ない

- ⑬ もし、フードバンク山梨の利用がなかった場合、どのような点が困るでしょうか。具体的に記述してください。（困る点がない場合は、「なし」とご回答ください。）

- ⑭ あなたのご職業について教えてください。

＜必ず答えていただく項目＞

- 1.無職であり、求職もあきらめている
- 2.無職であり、求職中である
- 3.日雇いなど、不定期で仕事をしている
- 4.パート・アルバイトで働いている
- 5.派遣社員として常勤で働いている
- 6.正社員/職員で働いている
- 7.定年退職した/高齢であり、働いていない
- 8.家族の介護のため働いていない
- 9.その他

⑮ 7月よりフードバンクファームを始めました。

*フードバンクファーム：花と野菜であふれた地域の憩いの場

- | |
|---|
| 1.参加したい →理由
2.興味が無い
3.別の内容なら良い →理由
4.その他 |
|---|

⑯ 生活保護の受給状況について教えてください。

<必ず答えていただく項目>

- | |
|---|
| 1.生活保護を受けている。
2.生活保護を受けていないが、過去に受けたことがある。
→（ ）年（ ）か月前まで
3.生活保護を受けていないし、過去にも受けていない。 |
|---|

⑰ あなたの世帯の主な収入源について教えてください。

<必ず答えていただく項目>

- | |
|--|
| 1.生活保護の給付金
2.給与
3.自らの事業収入（内職、個人事業など）
4.年金
5.その他（ ） |
|--|

⑱ 世帯の年収について教えてください。（あなた以外に収入がある方がいれば世帯の収入として合計した数値をご回答ください。）<必ず答えていただく項目>

約（ ）円

- ⑬ あなたの世帯の **1 か月間の食費** について教えてください。（フードバンクから配布される食品は 0 円として、その他にお金を実際に払って購入しているものの費用を教えてください。）＜必ず答えていただく項目＞

約（ ）円

- ⑳ 一緒にお住まいのご家族（全員）について教えてください。

＜必ず答えていただく項目＞

一人住まいである

同居人がいる

年齢	性別	ご職業	あなたとの関係
才	男	1.会社員	1.親
	女	2.パート、アルバイト	2.配偶者
		3.日雇い 4.無職 5.学生	3.子供
		6.未就学児	4.孫
		5. その他 ()	5.その他親戚
			6.その他

- ⑳ 最後に気づいた点があれば、自由に記述してください。

平成24年度 セーフティネット支援対策等事業費補助金
社会福祉推進事業

山梨県内の生活困窮者の早期把握に関する実態調査 報告書

②連携機関に関するアンケート調査

調査報告

株式会社三菱総合研究所

山梨県内の生活困窮者の早期把握に関する実態調査報告書

②連携機関に関するアンケート調査

目次

1. 調査の概要.....	174
1.1 調査手法	174
1.2 調査結果	174
2. 調査結果	176
2.1 アンケート調査.....	176
2.2 全体会議での議論	193

1. 調査の概要

1.1 調査手法

本調査では、生活困窮者であることが行政や NPO 等の支援機関に既に把握されている生活困窮者（以下、「把握済み群」という）の実態を把握するため、フードバンク山梨との連携機関に対してアンケート調査と会議での議論を行った。

1.2 調査結果

主に以下のことがわかった。

- 個人情報の取り扱いや広報、企業の紹介やフードドライブへの協力、会員加入など、フードバンクとの関係の多くの部分について、機関によって大きく方針が異なっている。
- フードバンク連携会議の参加や会議、イベント等会場の提供については前向きである連携機関が多い。
- 防災品の提供については、進んでいない。
- フードバンクに求める役割として、生活困窮者への食糧支援の必要性については、ほとんどが「必要」と回答したが、市民を巻き込んだボランティア活動の創造、利用者への伴奏型支援については、「必要」とする回答が多いものの、「わからない」や「不要」とする回答もあり、今後議論が必要である。
- 生活困窮者の把握ルートについては、ほとんどの機関が「本人が窓口に来た」と回答している。「他機関から連絡があり、自機関からコンタクトした」と回答した機関も半数あった。
- フードバンク山梨との連携があることにより改善していること（フードバンクがなかった時に比べて）については、「安心感」や「精神的な安定」など「生活困窮者本人の精神の安定」についての回答が最も多く、そのほか、「生活保護件数の低減」「対応の迅速性」に関する指摘もあった。反対に連携での課題については、フードバンクがあることで生活困窮者の自立に向けた意識が低くなっているといった趣旨の指摘が見られた。
- 当面の生活費支給について実施していた機関は半数であったが、支給額の減少度合いは機関によって異なっており、増加している場合も 1 機関であるがみられた。
- 食品の支給に関しては実施している機関そのものが限られてはいるが、フードバンク山梨との連携で負荷が減っている。また、フードバンク山梨との連携により、支援機関側の手間は減少している。
- 食料提供を即日的に行うことにより、生活困窮者の当面の生活を確保させることについては大きなメリットがあるものの、それによるコスト削減効果については、算出が難しいと考えられる。
- 公的資金が利用できない場合においては、食料提供を行うことにより、生活困窮者の当面の生活を確保させることについては大きなメリットがあると考えられ

る。また、支援の方法そのものが難しいために、それによるコスト削減効果もあげられていない。

- 公的資金が利用できない場合においては、支援の方法そのものが難しく、各機関対応に苦慮している。
- 様々な機関との連携がありえるものの、機関によって連携している先にばらつきがある。
- 自治体によってフードバンクの紹介の対象者が異なっている。
- 一時的に生活困難な状況にある家庭に対するフードバンクの利用は効果的であった一方で、フードバンク利用を勧める相手については、行政による生活実態等の詳細な調査が必要であり、誰にでもフードバンクを勧めるのが良いというわけではないという意見が多くある。

2. 調査結果

2.1 アンケート調査

山梨県内の生活困窮者支援について、フードバンク山梨と連携して活動している自治体や関連団体等の連携機関に対してアンケート調査を行い、把握済群の状況及びフードバンクとの連携について分析を行った。その結果を以下に示す。

(1) アンケート調査概要

- 調査対象：フードバンク山梨と協定を結んでいる 39 機関
- 調査期間：2012 年 7 月 23 日～8 月 3 日
- 調査方法：調査票は訪問時に配布、郵送で回収
- 有効回答数：21（回収率 53.8%）
 - ✓ 市町村福祉担当課…7 機関
 - ✓ 市町村福祉事務所…6 機関
 - ✓ 社会福祉協議会…8 機関

(2) アンケート調査結果

1) フードバンクとの連携のあり方

① フードバンク山梨との連携内容

フードバンク山梨との連携について、各項目別に状況を聞いた。その結果を図 2-1、図 2-2 に示す。また、各項目について詳細を以下に解説する。

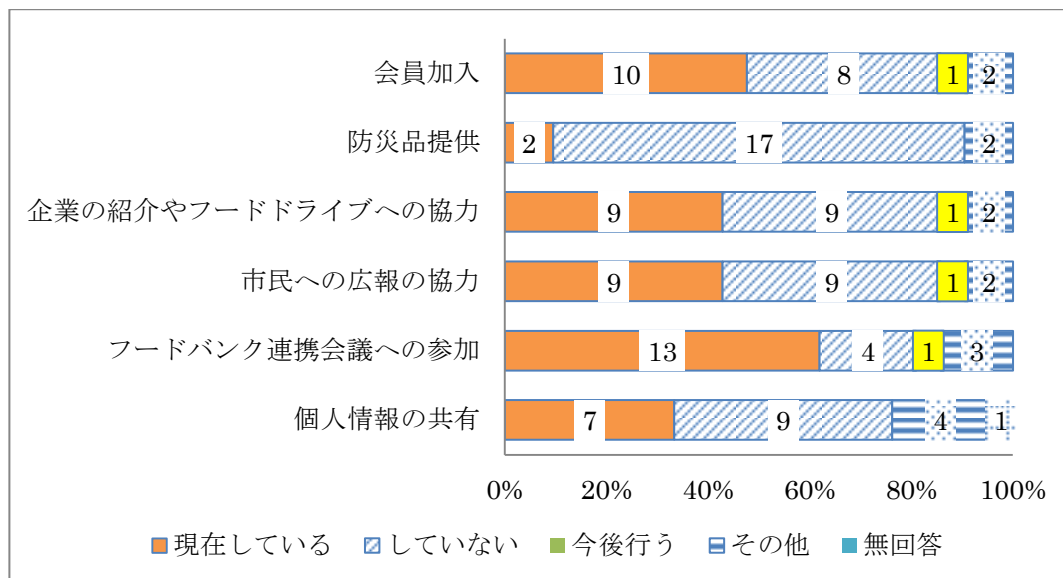


図 2-1 フードバンク山梨との連携-項目別

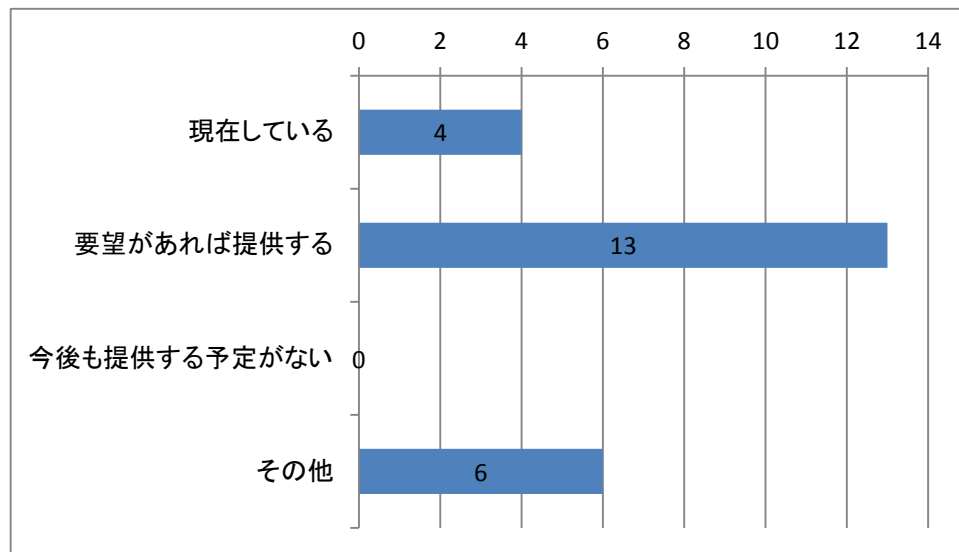


図 2-2 フードバンク山梨との連携・会議、会場の提供

a. 個人情報の共有

フードバンク山梨との個人情報の共有については、「していない」が 9 機関と最も多く、次いで「現在している」が 7 機関であった。

「その他」については、3 機関が「必要に応じた範囲での共有」「個人情報保護の法律等を順守する内で生活困窮者の理解を求め情報の共有を行っている」など、その都度対応している内容の回答であった。また、社会福祉協議会が自治体担当課を通して間接的に対応しているとの回答であった。

個人情報の取り扱いについては機関によって大きく方針が異なっていることがわかる。

b. フードバンク連携会議への参加

フードバンク連携会議への参加については、「現在している」が最も多く 13 機関であった。「その他」については、「都合がつけば参加する」「総会のみ出席」「会議当日のスケジュール調整ができず参加したことはありません」といった内容であり、基本的に参加に前向きな内容であった。

半数以上の機関がフードバンク連携会議の参加に前向きであることがわかる。

c. 市民への広報の協力

市民への広報の協力については、「現在している」「していない」がいずれも 9 機関であった。

広報の協力については、機関によって大きく方針が異なっていることがわかる。

「その他」については、「パンフレット、広報などの設置場所の提供等を検討」「庁

舎内への掲示など限定的」といった内容であり、基本的に広報に前向きな内容であった。

d. 企業の紹介やフードドライブへの協力

企業の紹介やフードドライブへの協力については、「現在している」「していない」がいずれも 9 機関であった。

企業の紹介やフードドライブへの協力については、機関によって大きく方針が異なっていることがわかる。

「その他」については、「庁内グループウェア等を利用して、職員の協力を募ることを検討」「8 月よりフードドライブ」「協力依頼があれば可能」といった内容であり、基本的に協力の前向きな内容であった。

e. 防災品の提供

防災品の提供については、「現在している」が 2 機関であり、「していない」が 17 機関であった。防災品の提供については現在進んでいないといえる。

「その他」については、「現在、各自治会での管理である為、方法を検討する」「福祉避難所運営協力ボランティアセンター運営を行うため難しい」といった内容であった。

f. 会員加入

会員加入については、「現在している」が 10 機関、「今後行う」は 1 機関であり、「していない」が 8 機関であった。

会員への加入については、機関によって大きく方針が異なっていることがわかる。

「その他」については、「職員個々で、会への加入対応」等であった。

g. 会議、イベントなど会場の提供

会議、イベントなど会場の提供については、「現在している」は 4 機関であったが、「要望があれば提供する」が 13 機関と、大半が提供に前向きであった。

「その他」については、「倉庫の無償貸与」「必要に応じ、施設管理者への連絡を行う」「指定管理で受けている施設のため調整にとどまる」「当会所有の会場がないため会場提供は難しい」等であった。

② フードバンクに求める役割

フードバンクに求める役割について、各項目別に必要性を聞いた。その結果を図 2-1 に示す。また、各項目について詳細を以下に解説する。

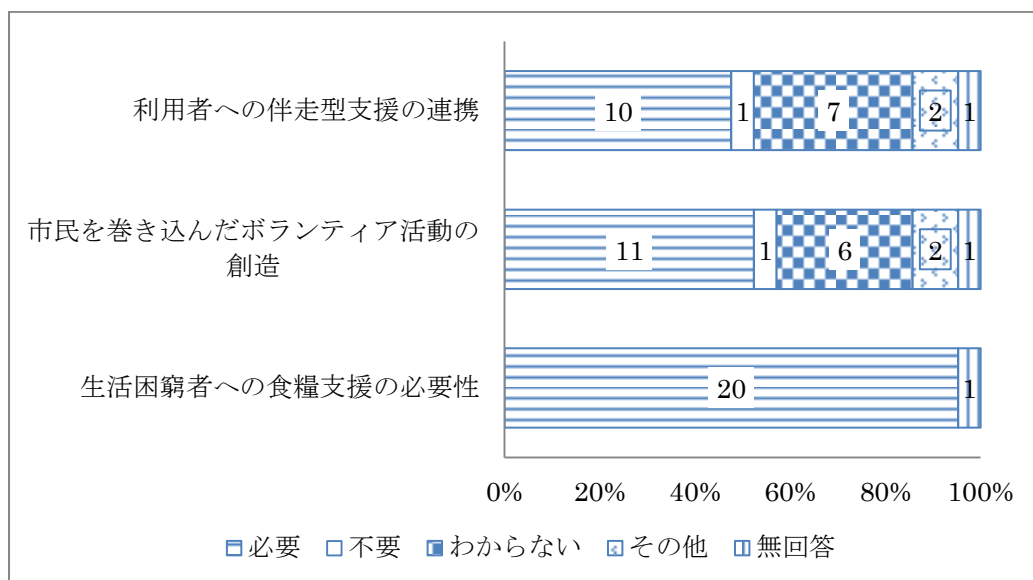


図 2-3 フードバンクに求める役割

a. 生活困窮者への食糧支援の必要性

生活困窮者への食糧支援の必要性については、ほとんどが「必要」と回答した。

b. 市民を巻き込んだボランティア活動の創造

市民を巻き込んだボランティア活動の創造については、「必要」との回答が 11 機関である一方で、「わからない」が 6 機関であった。「不要」とする回答も 1 機関あった。

「その他」については、「自助、共助、公助の在り方の研究」「社協も同じ役割を持っている。NPO とは緩やかな連携を図りたいと思う」とする内容であった。

市民を巻き込んだボランティア活動の創造については、フードバンクの役割について今後議論が必要と考えられる。

c. 利用者への伴奏型支援の連携

利用者への伴奏型支援の連携については、「必要」との回答が 10 機関である一方で「わからない」が 7 機関であった。「不要」とする回答も 1 機関あった。

「その他」については、「連携の手段により協議」「随時モニタリングしている」とする内容であった。

利用者への伴奏型支援については、フードバンクの役割について今後議論が必要と考えられる。

2) 生活困窮者支援

① 生活困窮者の把握

現在、フードバンク山梨と連携して支援を行っている生活困窮者について把握した

ルートについて聞いた結果を、図 2-4 に示す。

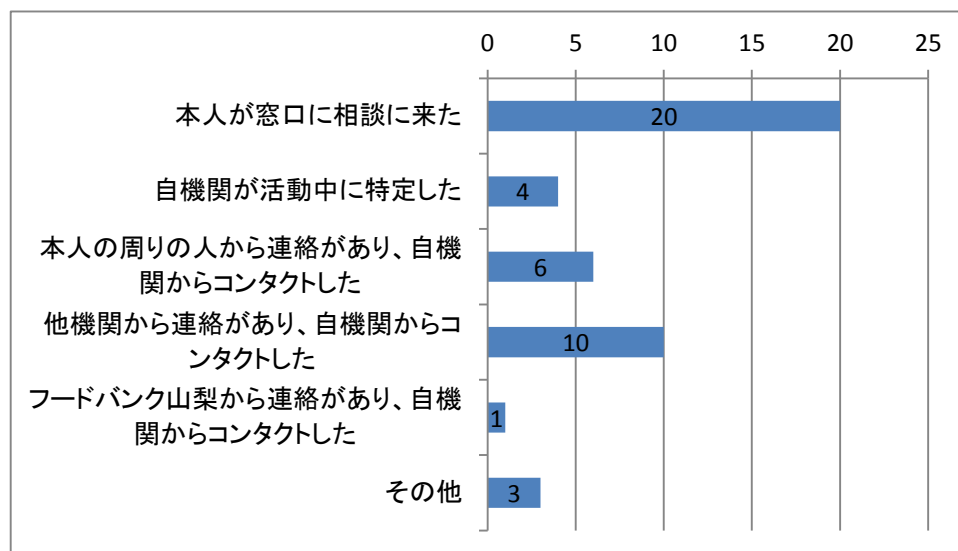


図 2-4 利用者の把握ルート

ほとんどの機関が「本人が窓口に来た」と回答している。また、「他機関から連絡があり、自機関からコンタクトした」と回答した機関も 10 機関であった。「本人の周りの人から連絡があり、自機関からコンタクトした」が 6 機関、また、「自機関が活動中に特定した」も 4 機関であった。なお、自機関の活動を具体的に聞いたところ、「訪問時の聞き取り」や「相談内容から食糧確保の必要性が判断されたため」「民生委員等からの相談、同伴で来所、社協職員の見守り訪問の中での気づき」などであった。

「その他」として自由記述できいたところ、「民生委員の同行による相談来所」「生活困窮者が生活困窮者に情報を提供して来所することがある」「本人が民生委員に相談→民生委員と本人と一緒に相談に来た」など、民生委員や知人を介したルートの指摘があった。

② フードバンクとの連携で改善していること

長期的な生活困窮者支援にあたり、フードバンク山梨との連携があることにより改善していること（フードバンクがなかった時に比べて）を自由記述で回答してもらったところ、「安心感」や「精神的な安定」など「生活困窮者本人の精神の安定」についての回答が 5 件と最も多く、そのほか、「生活保護件数の低減」「対応の迅速性」に関する指摘も 3 件ずつあった。

主な回答内容を表 2-1 に示す。

表 2-1 フードバンクとの連携で改善していること

分類	件数	具体的な記述内容
生活困窮者 本人の精神 の安定	5	食の支援を受けることで本人にとって今何が必要なのか落ち着いて考える時間ができた
		失業中や給与支給前において生活が苦しい方の支援として活用させていただき役立ちました。食料の確保ができるため安心して就労活動に専念できる
		見通しを持って生活ができる
		食に対する一時的な安定安心感
		長期的な支援は、当会では難しく、またフードバンク山梨の支援により、食品だけでなくアンケートや手紙等を食品と一緒に入れてくださる等、支援者にとって社会とつながっていることや一人ではないという人との絆づくりが精神的な安定となっていると思います
生活保護件 数の低減	3	第2のセーフティーネットとして機能することにより、グレーゾーンの困窮者の生活保護申請を減らす役割をはたしていると思われる
		生活保護申請せず、フードバンクをつかいながら就職活動ができる
		生活保護を受けずに自立することができている
対応の迅速 性	3	基本的に自立を目指しているため、長期的に食品提供に終わらせることはない。就労支援やサービスにつなげており、顔の見える関係の中で、食料支援を行っている。フードバンクがあることにより、緊急時に迅速に対応できるようになった
		社協の福祉金庫貸付制度や総合支援資金、生活保護制度については申請から決定まで時間を要する為、その間の生活困窮者に対する食の支援は利用者はもちろんの事、各自治体も助かっていると思う
		食べ物があることで次の年金等までしのぐことができる。緊急時に対応が可能
その他		例えば浪費癖があり、当会として金銭的支援などが不可能な対象者に対して非常に効果的である。フードバンクがなかったときは、周りの職員などをお願いして支援したこともあるが、フードバンクができて品数も豊富になり対象者は喜んでいると思う

③ フードバンクとの連携で課題になっていること

長期的な生活困窮者支援にあたり、フードバンク山梨との連携があることにより課題になっていること（フードバンクがなかった時に比べて）を自由記述で回答してもらったところ、「生活改善をせずにフードバンクに依存してしまっているケースがある」といったフードバンクがあることで生活困窮者の自立に向けた意識が低くなっているといった、同様の趣旨の指摘が 5 件あった。

主な回答内容を表 2-2 に示す。

表 2-2 フードバンクとの連携で課題になっていること

生活改善をせずにフードバンクに依存してしまっているケースがある
行政側の課題でもあるが、より生活困窮者の自立支援を意識した取り組み、関わりが必要と思われる
困窮者の精神的な支えになっている
食料を与えるだけでなく、就労支援、自立に向けた支援を共に行っていききたい
課題とっていいかわからないが、支援対象者がフードバンクをあてにしている人もいる。担当者の関わり方など慎重に対応したほうが良いと思う

④ フードバンクとの連携による変化

フードバンク山梨と連携する前、生活困窮者を特定した場合に、当面の生活を成り立たせるために行っていたことについて聞いた結果を図 2-5 に示す。それぞれの項目について「行っていた」と回答した機関に対し、フードバンク山梨と連携した後の変化について聞いた結果を図 2-6 に示す。また、各項目について詳細を以下に解説する。

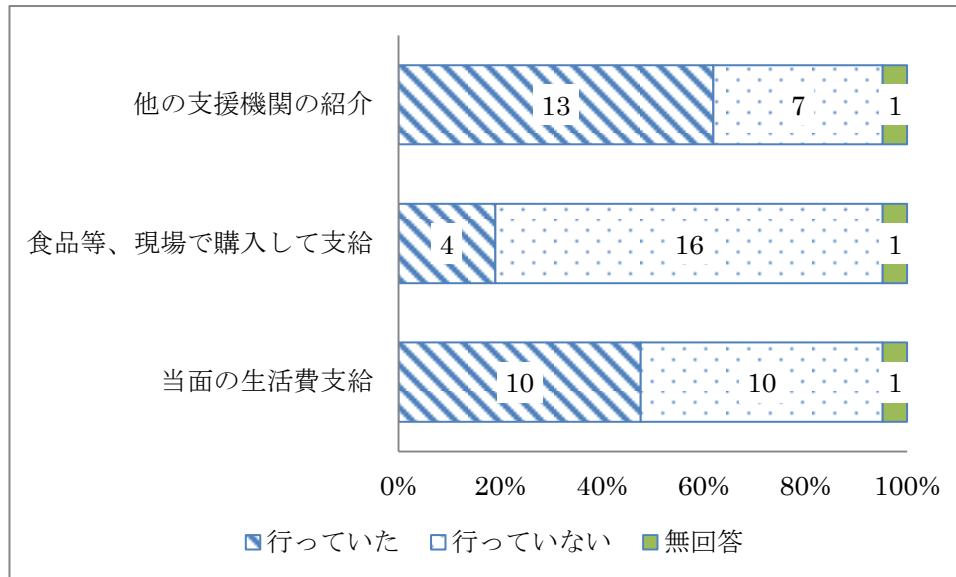


図 2-5 生活困窮者の当面の生活支援-連携前

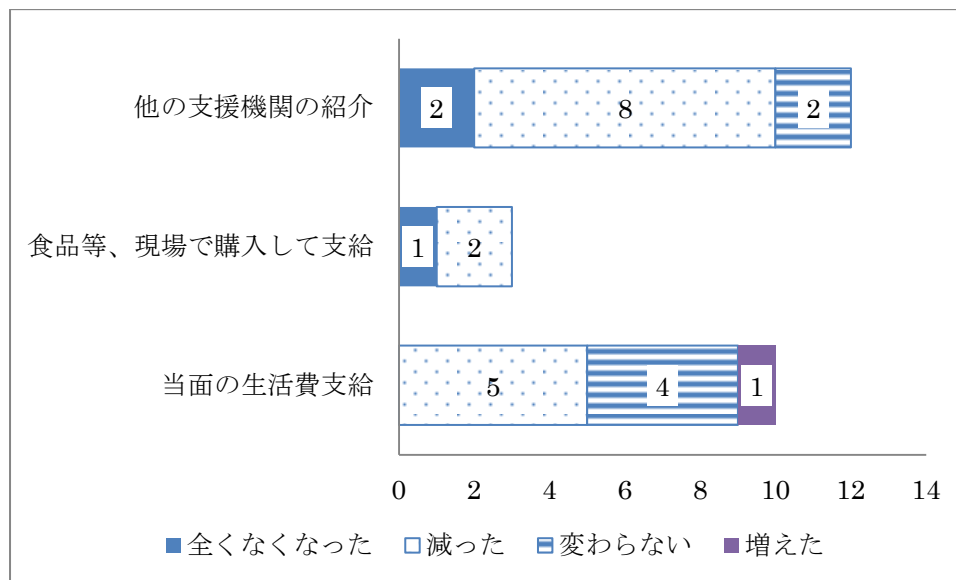


図 2-6 生活困窮者の当面の生活支援-連携後

a. 当面の生活費支給

フードバンク山梨との連携前に、当面の生活費支給については、「行っていた」「行っていない」とする回答がそれぞれ 10 機関であり、機関によって方針が異なっている。

フードバンク山梨との連携後については、「行っていた」10 機関のうち、「減った」とする回答が 5 機関ある一方で「変わらない」とする回答が 4 機関、「増えた」とする回答も 1 機関であった。

b. 食品等、現場で購入して支給

フードバンク山梨との連携前に、食品等、現場で購入して支給については、「行っていない」とする回答が 16 機関と大半であり、「行っていた」とする回答は 4 機関であった。

フードバンク山梨との連携後については、「行っていた」4 機関のうち、「全くなくなった」とする回答が 1 機関あり、また、「減った」とする回答が 2 機関であった。

c. 他の支援機関の紹介

フードバンク山梨との連携前に、他の支援機関の紹介については、「行っていた」とする回答が 13 機関と半数を超えており、「行っていない」とする回答は 7 機関であった。

フードバンク山梨との連携後については、「行っていた」13 機関のうち、「全くなくなった」とする回答が 2 機関であり、「減った」とする回答が 8 機関ある一方で「変わらない」とする回答は 2 機関であった。

フードバンク山梨との連携により、支援機関側の手間は減少していると考えられる。

⑤ 生活保護申請から支給までの間にフードバンクを利用することのメリット

生活保護申請から支給までの 1～2 か月間にフードバンク山梨の食糧支援を利用した結果、具体的にどのようなメリットがあったかについて聞いた結果を表 2-3 に、そのメリットによる具体的削減金額について聞いた結果を表 2-4 に示す。

メリットについては、「支給決定までの急迫な食糧状態が改善される」など、食料提供による当面の生活確保に関する指摘が 10 件、また、「貸付を利用しなくても生活ができる」など貸付利用の減少に関する指摘が 3 件、生活困窮者の精神的安定に関する指摘が 2 件であった。しかしながら、具体的削減金額については、「1 回の貸付金額 5,000～10,000 円」とする回答が 1 件、「なし」とする回答が 4 件あるものの、「環境の変化により、困窮者が急激に増加したため、具体的な削減効果は集計できない」「保護費を支給する前に利用しているので計算できない」など算出できないとの回答も 2 件あった。

食料提供を即日的に行うことにより、生活困窮者の当面の生活を確保させることについては大きなメリットがあるものの、それによるコスト削減効果については、算出が難しいと考えられる。

表 2-3 生活保護申請から支給までの間にフードバンクを利用することのメリット

分類	件数	具体的な記述内容
当面の生活確保	10	生活福祉資金借り入れまでの 1 週間分の食料提供ができる 当日即支給ができる
		支給決定までの急迫な食糧状態が改善される
		保護決定は最長でも 30 日以内と定められているが支給日までの間の食糧支援で生活の確保ができたこと
		緊急性のある相談者について利用することができた
		食べ物に困らなくなった
		食えることができる点
		緊急時の食料支援ができるため、最低限の食の確保はできた。 生保支給は申請日にさかのぼるため、生活保護対象者には食糧支援をしたわずかな部分でもお返しいただき、次の方につなげるようにした
		生活が維持できた
		食糧が確保できるため、保有金を他の生活費に回すことができる
		支給決定まで食料確保が困難なケースについて、食糧支援をしていただくことで命をつなぐことができおり、また借金等をせずに自立へとつなげることができていると考えます
貸付利用の減少	3	貸付の利用をしなくても生活ができる
		法外による生活費の貸付が減った
		支給決定まで食料確保が困難なケースについて、食糧支援をしていただくことで命をつなぐことができおり、また借金等をせずに自立へとつなげることができていると考えます

生活困窮者の精神的安定	2	食材の配送で利用者が安心した暮らしができた
		一時的な安定安心を得ることができた
その他		以前は生活保護決定までの間は、社協の福祉金庫でつなぐケースが主であったが、現在はフードバンクからの食糧支援のおかげで生活困窮者に対し、より充実した支援ができています
		生活保護受給前の方の、自立の助長が見込めている

表 2-4 生活保護申請から支給までの間にフードバンクを利用することによる具体的な削減金額

分類	件数	具体的な記述内容の例
金額の記載があったもの	1	1 回の貸付金額 5,000～10,000 円
なし	4	なし
		生活保護対象者、困窮者が増え、フードバンクのみの食料だけでは対応できず、社協独自で購入し、フードコートをしている。そのため削減には至ってはいない
算出できない	2	環境の変化により、困窮者が急激に増加したため、具体的な削減効果は集計できない
		わかりません。ただ、保護費を支給する前に利用しているので計算できない。
その他		不良債権となる可能性が減少
		社会福祉協議会の貸付制度しなくてよくなった

⑥ どの公的支援制度も利用できず、生活保護に至らない生活困窮者に対するフードバンクのメリット

どの公的支援制度も利用できず、生活保護に至らない生活困窮者に対するフードバンクのメリットについて聞いた結果を表 2-5 に、また、フードバンク山梨からの食糧支援がない場合に行っていたことについて聞いた結果を表 2-6 に示す。

メリットについては、「食糧支援があると生活が何とか成り立っている」など、食料提供による当面の生活確保、改善に関する指摘が 10 件、また、生活困窮者の精神的安定に関する指摘が 3 件であった。また、具体的削減金額についても聞いたが、「なし」との回答が 4 件であり、その他は無回答であった。さらに、フードバンク山梨からの食糧支援がない場合に行っていたことについては、「貸付制度の紹介」が 3 件、「他の機関との相談、連携」が 2 件であった。その他、「アドバイス」や「1000 円」「お米券」の支給もあげられているが、「支援する方法がない」といった指摘もあった。

公的資金が利用できない場合においては、食料提供を行うことにより、生活困窮者の当面の生活を確保させることについては大きなメリットがあると考えられる。また、支援の方法そのものが難しいために、それによるコスト削減効果もあげられていないと考えられる。

表 2-5 どの公的支援制度も利用できず、生活保護に至らない生活困窮者に対する
フードバンクのメリット

分類	件数	具体的な記述内容の例
生活困窮者の 当面の生活の 確保、改善	10	フードバンクの利用により、相談者の緊急的困窮を緩和する効果が期待できる
		貸付金の交付決定まで1カ月はかかるので、食の支援を受けながら書類の作成や今後の生活設計を立てられる
		緊急的に対応できる
		食事をとれていない相談者数名は利用が有効でした
		命をつなぐことが可能
		生活環境が改善された
		早急に食料支援ができること
		食糧支援があると生活が何とか成り立っている
		食は生きる上で欠かせないものであり、支援上のつなぎとして選択肢が広がった
		年金までのつなぎとして、もしくは次の給与までのつなぎ。ガスや調理器具がない人でも食べることができる
生活困窮者の 精神的安定	3	訪問回数の減少、食に対する一時的な安心感
		食糧確保の心配がなくなる
		当会で食料支援できるものも少なく、保護の申請も不可というケースについても最長で3ヶ月（状況により延長も可能）の支援をしていただけることは相談者にとっても精神的に追い込まれることなく就職活動等を行うことができ自立につなげる手立てとなっていると思います
その他		公的支援制度が利用できないと、社協においては、特に支援ができない状況です
		生活保護申請の手続きの手間がかからない
		フードバンク山梨の食糧支援により、相談→自立した生活に向けて有効に（有意義に）活用させて頂いている

表 2-6 どの公的支援制度も利用できず、生活保護に至らない生活困窮者に対して、食糧支援がない場合に行っていたこと

分類	件数	具体的な記述内容の例
貸付制度の紹介	3	社会福祉協議会の貸付制度
		町の社会福祉協議会の福祉資金の貸付を紹介
		確実に年金等が入っている場合は、社会福祉金庫の対応。金庫はあくまでも借金（貸与）であり、借りないのが一番。
他の機関との相談・連携	2	物資や現金はすぐに対応できないため社協などに協力をあおぐこととなったと思う
		福祉事務所に連絡し対策を検討
その他		実際には、即効性のある制度（支給面）は限られているので、フードバンクの支援が無い場合には非常に困ってしまう
		福祉課としては支援する方法がない
		町では、生活困窮者に対する支援制度がないため、各関係機関へつながる役目を担ってきたが、町としての施策を検討していきたい
		お米券の支給
		行きずりの人は行路人として 1,000 円の対応。
		社会福祉協議会や、扶養義務者などへ支援を求めるようにアドバイスを行っていた

1) 生活困窮者支援全般

① どの公的支援制度も利用できず、生活保護に至らない生活困窮者への対応

どの公的支援制度も利用できず、生活保護に至らない生活困窮者への対応について聞いた結果を表 2-7 に示す。

「善意銀行」など他の制度の紹介、検討等に関する指摘が 3 件であった。また、具体的削減金額についても聞いたが、「なし」との回答が 4 件であり、その他は無回答であった。さらに、フードバンク山梨からの食糧支援がない場合に行っていたことについては、「貸付制度の紹介」が 3 件、「他機関との相談、連携」が 3 件であった。また、「訪問」も 2 件であった。その他、「必要に応じて支援内容を考えている」「庁内で情報を共有化している」などの回答もあったが、「福祉課としては支援する方法がない」とする回答や、「職員間で持ち寄り（例えば、鍋、かま、布団など）」といった職員個人の対応をあげている回答もあった。

公的資金が利用できない場合においては、支援の方法そのものが難しく、各機関対応に苦慮している状況がうかがえる。

表 2-7 どの公的支援制度も利用できず、生活保護に至らない生活困窮者への対応

分類	件数	具体的な記述内容の例
他の制度の紹介、検討等	5	善意銀行（500 円）行旅人の支援、就労の支援、社協独自の社会福祉金庫による貸付け
		貸付金の利用検討
		社協の融資や県の住宅手当などを利用
		公的に支援できる制度の照会
		業務上、相談者や情報提供者への対応に限られるが、利用できる制度や相談窓口を紹介している
他機関との連携	3	各関係機関と連携、情報共有しながら継続的に支援していく
		福祉総合相談体制を整備し、福祉に関する相談をワンストップで受けている。生活困窮に至るまでの過程や背景等を専門職がチームでアセスメントを行い、他機関と連携を図りながら、支援を行っていく
		民生委員に連絡、市、福祉事務所に連絡
フードバンクへの紹介	2	フードバンクを利用できる旨の助言
		フードバンクの支援依頼をさせていただいています
訪問	2	頻回に訪問
		保健師が訪問（定期的に）
その他		職員間で持ち寄り（例えば、鍋、かま、布団など）
		阻害要因の説明と、保護の補足*（生活保護法第 4 条）の説明を行う
		何らかの公的支援を行っている
		就職活動の支援

	継続的に見守り、いつでも相談をするように備えている
	必要に応じて支援内容を考えている
	庁内で情報を共有化している
	福祉課としては支援する方法がない

② 生活困窮者の支援について連携している他の団体や支援制度

生活困窮者の支援について連携している他の団体や支援制度について聞いた結果を表 2-8 に示す。

社会福祉協議会や福祉事務所のほか、ハローワークが 4 件、その他、「弁護士会」、「障害者職業センター」、「民生委員」、「児童委員協議会」、「保健所」、「シルバー人材センター」、「教会」、「生活福祉・就労支援協議会」が各 1 件であった。また、「なし」との回答が 5 件あった。

様々な機関との連携がありえるものの、機関によって連携している先にばらつきがあることがわかる。

表 2-8 生活困窮者の支援について連携している他の団体や支援制度

分類	件数
社会福祉協議会（福祉金庫、福祉資金）	6
ハローワーク（住宅手当）	4
福祉事務所	2
弁護士会	1
障害者職業センター	1
民生委員	1
児童委員協議会	1
保健所	1
シルバー人材センター	1
教会	1
生活福祉・就労支援協議会	1
なし	5

③ その他の意見

その他、生活困窮者支援についての意見を表 2-9 に示す。

「早急かつ柔軟な対応」、「自立支援の基準及び基準作りのためのケースワーク」、「他機関同士の情報共有」、「適切な窓口を紹介できる体制」といった制度や体制面での意見に加え、「就労機会の創出」「マスメディアなどでの制度の広報」などに関する意見がみられる。また、「関わりすぎると本人の働く意欲が無くなってしまう」といった支援側の付き合い方に関する意見もあった。

表 2-9 その他、生活困窮者支援についての意見

生活困窮者に関する支援、相談は、他の相談援助と別の枠組みで考える必要がある。明日食べ物がない、住む家がないことは人間の生命に関わる問題であり早急かつ柔軟な対応が求められる。また、自立支援については何を持って自立とするのか、その基準は明確になっていないので、改めて丁寧にケースワークを行っていく必要性を強く感じている。個々の相談支援の力量を高めていくことは当然だが、より他機関同士で情報共有できる場があれば良いと思う
路上、車上生活者など緊急性がある場合は施設など
その他世代の就労機会の創出が第一だと思います。安定した収入を得られれば良いと思います
制度などを知らず餓死する方もいる。是非 TV、ラジオ等マスメディアでの情報提供をしてほしいです
困窮の状況、内容により、利用できる制度が異なってくるため、それらを理解した上で適切な窓口を紹介できる体制が必要
①とても良い生活をしていた時期があり、その時貯蓄等全くしなく、いざ職を失ったとき貯金が全くないという方もいます。生まれた時から豊かな生活が当たり前だったためでしょうか？②昔は全部が貧しかった。でも今は一見外目には貧しさが見えない。見えない方たちにどのように多方面からアプローチする必要があるのかと思います
あまり関わりすぎると本人の働く意欲がなくなってしまう

2.2 全体会議での議論

フードバンク山梨の主催するフードバンク連携会議＜全体会＞が 2012 年 9 月 27 日に小瀬スポーツ公園武道館会議室にて行われた。本調査では、この会議で集まった 14 の連携機関に対して、フードバンクとの連携の状況や課題についてのグループディスカッションを行い、より具体的な意見を聴取した。主な議論を以下に示す。

(1) フードバンクの紹介者

フードバンク山梨を自治体から紹介する際、どのような対象者に対してフードバンクを紹介しているのか、聞いたところ、「生活保護に該当する方に受給までの期間フードバンクを紹介するケース」「生活保護に該当しない人にフードバンクを紹介し、当座の様子を見ながら就労支援等を行うケース」、「資金を貸し付けても返済が困難と判断される生活保護水準以下の人」「今日にも食べ物が無いという人」といった回答があった。自治体によってフードバンクの紹介の対象が異なっていることがわかった。

- 資金を貸し付けても返済が困難と判断される生活保護水準以下の人。知的問題をかかえるケースもあり、フードバンクに関する説明自体を理解してもらうことさえ困難な場合もある。
- 生活保護に該当する方に受給までの期間フードバンクを紹介するケース、および生活保護に該当しない人にフードバンクを紹介し、当座の様子を見ながら就労支援等を行うケースと概ね二種類のケースがある。
- 生活保護に該当するかどうかとの判断とは別に考えている。今日にも食べ物が無いという人に利用している。土地柄、緊急な対応が欲しいというケースが多い。
- 貸付とフードバンクと並行して利用している。
- 生活保護に該当する方に受給までの期間フードバンクを紹介するというケースと、生活保護に該当しない人にフードバンクを紹介し、様子を見ながら就労支援を行うケースと二種類ある。

(2) フードバンクとの連携

フードバンクとの連携について聞いたところ、事情により一時的に生活困難な状況にある家庭に対し、フードバンクの利用は効果的であったとの趣旨の意見があった。一方で、フードバンク利用を勧める相手については、行政による生活実態等の詳細な調査が必要であり、誰にでもフードバンクを勧めるのが良いというわけではないという意見が多く挙げられた。

＜主な発言例＞

- うまくいったケースと言えるかわからないが、今までは貸付だけで済んでいたが、家庭の事情により子供が急に 5 人に増えてしまった世帯に、貸付だけで足りない

部分を補うため、フードバンクの利用をすすめたケースがある。

- ライフラインがストップされたほど困窮しているが、相続財産の処分ができればお金が入り、生活力を回復することが可能というケースがあった。フードバンクはこのような複雑な事情の世帯への支援に利用できる。
- 貸付の相談に来た人に対してフードバンクを紹介した際、その人からさらに「自分の友達も困っている」と相談されたケースがある。貸付をするにあたっては対象者の調査をすることができるが、フードバンクを利用したいと申し出る人についてはどこまで調査してよいかわからない。
- 誰にでもフードバンクをすすめてよいというわけではない。面談をする必要があると感じる。特に法外援護者の扱いに困ることがある。このような人たちは移動しながら、移動先の各自治体に援助を求めてくる。このような人々は住所もなく、加熱調理をする設備も無いことが多い。隣の自治体まで移動する交通費を求めてくる人に対して、他の市町村のフードバンクを利用するようすすめてもよいものかどうか。あちこちのフードバンクを利用しながらぐるぐる移動する人に単発でフードバンクを利用させても継続的な支援につながらない。支援を求める人でも身なりが整っていて外見ではわからない人も多く、外見では意外と判断できない。
- 貸付金を返済しない人を調査したら、その人が知らないうちに新車を買っていたというケースもある。民生委員から生活実態を聞き、驚くケースもある。
- どのような生活をした結果食べ物が無くなったのかの分析は必要だと感じる。一線を引くことはやはり大事。
- フードバンクが使いやすいということが必ずしもよいというわけではない。タダでくれるというだけのイメージで来る人が増えてしまう。やはり行政が入らねばならないと考える。

平成24年度セーフティネット支援対策等事業費補助金
社会福祉推進事業

山梨県内の生活困窮者の早期把握に関する実態調査 報告書

③未把握群の調査

未把握群の調査

株式会社三菱総合研究所

山梨県内の生活困窮者の早期把握に関する実態調査報告書

③未把握群の調査

目次

1. 未把握群の調査	198
1.1 連携機関に対する調査	198
1.2 未把握群の推計	201
2. フードバンクの経済的効果	204

1. 未把握群の調査

1.1 連携機関に対する調査

山梨県内の生活困窮者支援について、フードバンク山梨と連携して活動している自治体や関連団体等の連携機関に対してアンケート調査を行い、生活困窮者のうち、未把握群についての認識についても分析を行った。調査概要は①のアンケート調査と同じである。その結果を以下に示す。

① 生活困窮者の特定に関する課題

生活困窮者の特定にあたり、どのような課題があるかについて聞いた結果を表 1-1 に示す。

「個人情報」との回答が 8 件、「本人からの意思表示がない段階で生活困窮者と特定し対応することは困難」など「相談があった場合のみの対応に限定されること」とする回答が 5 件あった。その他、「就職する場所がない」「扶養親族との関係」などがあげられた。さらに、「困窮の意味が曖昧」との指摘もあった。「特に問題ない」とする機関も 2 件あった。

生活困窮者を特定するにあたり、個人情報の保護が障害となって必要となる情報が集められない場合があることがわかる。また、相談があった場合のみの対応に限定され、「表に出ない困窮者（SOS が出せない方）」への支援が難しいことも複数の機関で認識されている。

表 1-1 生活困窮者の特定に関する課題

分類	件数	具体的な記述内容の例
個人情報	8	個人情報の保護に関する法律、個人情報保護
		個人情報保護の問題があり、最低限の情報を共有できるツールがない
		個人情報が入手できないため本人（あるいは付添）の方の主訴しか情報が得られない
相談があった場合のみの対応に限定されること	5	相談があった場合のみの対応しかできないのが現状
		申請主義のため、生活困窮者や全体像を把握しづらい
		本人からの申し出がなければ客観的に見ただけでは判断できない
		急進状態にある場合を除き、本人からの意思表示がない段階で生活困窮者と特定し対応することは困難
その他	4	表にでない困窮者（SOS が出せない方）への支援
		就職する場所がない
		申請の意志や扶養親族との関係、資産
		相談者の現状だけでなく、これまでの経過や扶養親族など様々な情報を得る中で、利用できる制度を検討しているが、扶養義

		務者からの支援についての判断、指導が難しい
		4人世帯で年金収入400万以上の世帯員が困窮していると相談に来所。困窮の意味が曖昧
特にない	2	現在当町においては特にないと思う
		特にないと思われる

② 生活困窮者の迅速な把握のための方策

どのようにすれば、より、生活困窮者を迅速に把握することができるかについて、聞いた結果を表 1-2 に示す。

「地域ネットワークの強化」に関する回答が 14 件と大半を占めた。ただ、地域ネットワークの中身についてはばらつきがあり、「民生委員」などこれまでの関係機関や関係者のネットワークを指摘するもののほか、「郵便配達員」「学校関係者」「ケースワーカー」「ボランティア」、ライフラインや不動産の業者、といった新たな関係者を巻き込む案も提示されている。そのほか「ホットラインの設置」や「地域をいくつかのブロックに分け、チームを組んでアウトリーチを基本とした相談援助」といった新しい施策への提案もあった。一方で、「把握するのが困難」とする回答も 3 件あった。

表 1-2 生活困窮者の迅速な把握のための方策

分類	件数	具体的な記述内容の例
地域のネットワーク強化	14	地域と市役所庁内と関係機関の連携ネットワークの強化
		地域のネットワークづくり
		地区行政に係わる役員、郵便配達員、学校関係者、地域民生委員、病院ケースワーカー、市民ボランティア団体等の協力の中で把握が可能。情報の提供
		民生委員さんとの連携
		民生委員との連携や地域住民からの情報提供
		民生委員等による訪問
		光熱水費や家賃を滞納している者に、該当する業者から役場福祉課や福祉事務所に相談に行くよう促してもらう。または、警察、役場に通報してもらう
		行政（包括含む）と連携を密にする
		見守りネットワークの構築
		情報の提供（ひとつの団体だけでなく多方面からのアプローチ）
		民生委員や近所の方からの連絡など
		市民よりの通報
		市町村相談窓口の周知、各支援制度の周知、民生委員児童委員に対し更なる地域の見守りの強化
		本人からの訴え又は近所様からの情報提供
その他		迅速性のみで考えるならば、ホットラインの設置
		困窮は自己申告的な者。あなたの家は困窮していると積極的な

	働きかけはできない。本人か民生委員の同行でわかるぐらいです。
	地域をいくつかのブロックに分け、チームを組んでアウトリーチを基本とした相談援助を実施する
	いつだれが生活に困るのか全く分からない時代ですので、迅速に把握することは非常に難しいと思います。最近は若い世代で働き場所がなく、収入が得られない人が多くなっていると思います
	地域柄、高齢世帯の困窮者は隠したがるため、把握するのが困難である

1.2 未把握群の推計

山梨県における生活困窮者のうちで、本来ならば生活保護を受ける必要があるが何らかの理由で受けていない群を未把握群とし、統計データをもとに推計を試みた。

山梨県の統計によると、山梨県の被保護世帯数（月平均）は 3,384 世帯（平成 21 年度）である。

表 1-3 労働力類型別被保護世帯数（月平均）¹

年度	被保護世帯数							
	総数	世帯主の働いている世帯					2人以上の世帯で世帯主が働いていない世帯	働いている者のいない世帯
		総数	常用	日雇	内職	その他		
平成 17 年度	2,662	138	47	49	15	27	39	2,485
18	2,785	162	54	61	22	25	42	2,581
19	2,906	181	61	75	19	26	47	2,678
20	3,040	193	57	82	18	36	39	2,808
21	3,384	224	62	97	21	44	42	3,118

（注）保護停止中の世帯を除く。

また、全国の所得金額別のデータでは、年間所得 200 万円未満、150 万円未満、100 万円未満の世帯の割合は以下の通りである。

200 万円未満（18.5%）

150 万円未満（12.2%）

100 万円未満（5.9%）

¹資料 福祉保健部児童家庭課「福祉行政報告例」

(http://www.pref.yamanashi.jp/toukei_2/book/DATA/23%20nenkan15.xls)

表 1-4 世帯数の相対度数分布，各種世帯×所得金額階級別²

所得金額階級	全世帯	高齢者世帯	児童のいる世帯	母子世帯
	累積度数分布 (%)	累積度数分布 (%)	累積度数分布 (%)	累積度数分布 (%)
50 万円未満	1.1	2.4	0.0	0.5
50～100 万円未満	5.9	13.1	1.2	8.7
100～150	12.2	25.2	3.3	19.9
150～200	18.5	37.8	5.9	39.5
200～250	25.3	48.7	9.1	55.0
250～300	32.0	59.9	13.1	70.9
300～350	38.7	69.6	17.5	78.2
350～400	45.2	78.0	22.9	81.8
400～450	51.1	83.7	28.9	88.0
450～500	56.3	87.6	34.9	91.3
500～600	65.7	92.2	48.6	97.8
600～700	73.1	94.8	60.6	98.9
700～800	79.2	96.2	69.9	98.9
800～900	84.3	97.2	77.7	99.6
900～1000	88.0	97.8	83.4	99.6
1000 万円以上	100.0	100.0	100.0	100.0

注：所得は，平成 21 年 1 年間の所得である。

山梨県の統計によると、平成 21 年度の山梨県の世帯総数は、328,320 世帯である³。

山梨県の世帯別の所得分布が全国の分布と同じ分布であると想定すると、山梨県内の年間所得 200 万円未満、150 万円未満、100 万円未満、それぞれの世帯は以下のとおりである。また、それぞれの所得の世帯が生活保護を必要としているとするならば、生活保護率は括弧内の値となる。

200 万円未満（18.5%） 約 61,000 世帯 （生活保護率 5.55%）
 150 万円未満（12.2%） 約 40,000 世帯 （生活保護率 8.46%）
 100 万円未満（5.9%） 約 19,400 世帯 （生活保護率 17.4%）

²資料：統計情報部「平成 22 年国民生活基礎調査」

(www.mhlw.go.jp/toukei/youran/data23k/1-61.xls)

³ http://www.pref.yamanashi.jp/toukei_2/book/DATA/23%20nenkan02.xls

なお、山梨県全体でみると生活保護を受けている世帯の割合は

3,384 世帯 ÷ 328,320 世帯 = 1.03% である。

平成 22 年被保護者全国一斉調査によると、全国の被保護世帯数は、1,361,149 世帯で、同年の国民生活基礎調査で得られている世帯総数（48,638,000 世帯）から算出される全国での生活保護を受けている世帯の割合（2.80%）の約三分の一となっている⁴。

以上のことから推察すれば、仮に貧困の基準を年収 100 万円未満の世帯とした場合であっても、何らかの理由で生活保護を受けていない世帯が約 16,000 世帯あることになり、この中には相当数の生活困窮者が含まれる可能性がある。

⁴ <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL02100104.do>

2. フードバンクの経済的効果

前述のアンケート結果から一世帯あたりの食費について注目すると、フードバンク利用者世帯と生活保護世帯とその他世帯を合わせたフードバンク終了者世帯の食費（月間）の平均値は以下の値となった。

- 利用者 24,355 円（月間／世帯）
- 終了者 28,158 円（月間／世帯）
- 差額 3,805 円（月間／世帯）

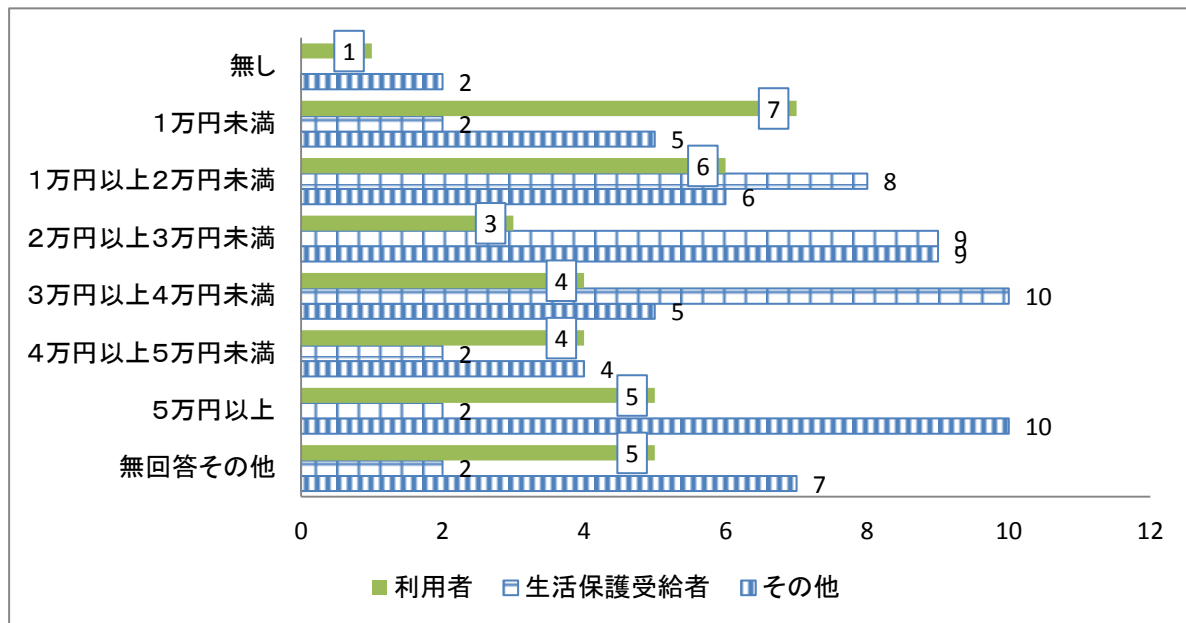


図 2-1 世帯の1か月あたりの食費・世帯あたり（再掲）

ここで、終了者と利用者の差額分をフードバンクが実際の食品で支援したと考えることができる。もし、フードバンクによる支援がなかった場合、自治体等や公的団体等が何らかの制度を用いて、この差額を支援する必要がある。基本的にそれらは税金などの公的な資金で賄われることになるだろう。実際にはその部分をフードバンクがサポートすることで、公的な資金の投入を削減できたと考えることもできる。その分を経済的効果と考えればフードバンクによる世帯あたりの年間の経済効果はおおむね以下とすることができるだろう。

フードバンクの経済的効果 約4千円（月間／世帯）

さらに、年収150万円未満の世帯（約40,000世帯と想定）について、何らかの援助が必要であるとして、そのうちの8.46%は生活保護を受けているとすると、残りの約90%の世帯が本来受けるべき支援を受けていないと考えることもできる。これらの世帯、36,000世帯を全てフードバンクがサポートとした場合、月額経済効果は約1億4千万円（月間）と見込まれる。

平成24年度 セーフティネット支援対策等事業費補助金
社会福祉推進事業

山梨県内の生活困窮者の早期把握に関する実態調査 報告書

④まとめ

まとめ

株式会社三菱総合研究所

1. 早期把握に向けた課題と対策

生活困窮者を特定するにあたり、個人情報保護が障害となって必要となる情報が集められない場合があることがわかった。また、相談があった場合のみの対応に限定され、「表に出ない困窮者（SOSが出せない方）」への支援が難しいことも複数の機関で認識されている。

生活困窮者の迅速な把握については、「地域ネットワークの強化」が重要との指摘が多く挙げられたが、地域ネットワークの中身についてはばらつきがあり、「民生委員」などこれまでの関係機関や関係者のネットワークを指摘するもののほか、「郵便配達員」「学校関係者」「ケースワーカー」「ボランティア」、ライフラインや不動産の業者、といった新たな関係者を巻き込む案も提示されている。そのほか「ホットラインの設置」や「地域をいくつかのブロックに分け、チームを組んでアウトリーチを基本とした相談援助」といった新しい施策への提案もあった。一方で、「把握するのが困難」とする回答もあった。

世帯収入と人口の分布からの推計では、低く見積もっても山梨県内で約 16,000 世帯が何らかの理由で生活保護制度を利用していないことがわかっており、これらの中には相当数の生活困窮者が含まれる可能性がある。さらに、この中には上述のように「表に出ない困窮者」が含まれている可能性があり、早期の支援が行われるためにはより幅の広い地域ネットワークとの連携が必要であるといえる。

2. 把握された生活困窮者支援の課題と対策

生活困窮者支援のあり方としては、対象者を調査し、その結果を一定の基準と照らし合わせて「生活困窮者」であると特定する入口と、生活困窮者が生活困窮の状態から抜け出して通常の生活に戻っていく出口の2つの部分での客観的な「アセスメント」が重要となる。政策として生活困窮者を支援する限り、公的資金の適切な利用に関する説明責任が果たせるべく、客観的でかつ説明できるものでなければならないからである。フードバンク連携会議での議論においても、連携機関からアセスメントの重要性は強く指摘されている。この入口と出口のアセスメントの間にある過程を生活困窮者の「管理」とすると、この過程においては生活困窮者に対しては精神面、物質面、金銭面など幅広い支援が必要となるが、特に、フードバンク山梨はこの中に含まれる特定の対象者に対する食糧支援の部分を担当している、つまり、自治体とフードバンク山梨とは役割分担が明確に行われ、有効な連携ができているといえる。

フードバンク山梨の支援対象者はこの入口のアセスメントを経て、何の政策的支援も受けられないと客観的に判断された者に限定されているという点で透明性が高くわかりやすい。一方で、一部の支援対象者については、生活困窮からの出口が見えない場合があることが、今後の支援のあり方を検討するうえで大きな課題と考えられる。

具体的には、フードバンク山梨の支援対象者の大半を占める緊急的支援（一時的な支援）の対象者については、入口と出口の双方が明確であるものの、継続的支援の対象者については出口が明確でない場合がある。継続的支援については、食糧支援だけでなく、精神面、物質面も含めた総合的な支援が必要となっていると考えられる。また、場合により、生活指導が必要となる可能性もある。これらの対象者についてはそうしたより複合的な支援でかつ出口を一律に決めるのが困難な状況を踏まえ、その中でフードバンクの継続的支援についてもどのようにあるべきか、今後社会の合意形成が必要となる。南アルプス市は生活困窮者に対する相談窓口を一部署にまとめ、総合的な支援を行う体制を構築しているという点で、これらの生活困窮者支援のあり方の先進事例として注目すべきであろう。

また、緊急的支援が有効であることは利用者、連携機関の両方のアンケート調査でも指摘されており、この点については高く評価できる。今後の課題としては、行政が公的に紹介できる制度として、また、利用者が安心して利用できる制度としてフードバンクの政策上の位置づけを明確にすることが望まれる。特に、個人情報管理及び食品の安全管理に関し、信頼できる団体としての第三者認証のようなものも検討の必要があろう。本調査で行った推計によれば何の支援制度も受けられない生活困窮者は潜在的には相当数いる可能性があり、将来的に支援が拡大することを考えた場合、フードバンク側の食糧供給力向上も大きな課題となるだろう。

3. その他課題

本調査では、主として山梨県における生活困窮者支援の実態をフードバンク山梨という民間団体の側面から調査したものである。しかしながら、山梨県の総人口は 2010 年度で 836,075 人であり、全国 41 位の規模であることから考えると、この調査から浮き彫りになった結果を一般化して全国に適用するのはいささか拙速といえよう。特に、行政と市民の間で顔の見える関係が築きやすく、丁寧に事例を調査するという点においては山梨県は非常に有効と考えられるが、人口が多い都市部において同じような課題が存在するかどうかについては、改めて同規模の調査が都市部において必要となると思われる。

考察

健康科学大学 健康科学部 福祉心理学科
講師 川村 岳人

生活困窮者の傾向と今後の展望

健康科学大学 健康科学部 福祉心理学科
講師 川村岳人

1. インタビュー結果からみる生活困窮者の全体的な傾向

インタビューで語られた利用者の「ことば」は、フードバンク山梨のスタッフが丁寧に聴き出して記録した貴重な資料であり、それはときに社会の矛盾を見抜く鋭さをもっている。彼／彼女らのライフヒストリーは当然、彼／彼女らに固有なものであり、一つひとつが慎重に分析されなければならないが、一方で全体に通底するものを抽出することもまた重要な作業であろう。そこで、ここではインタビュー結果に基づき、生活困窮者の全体的な傾向を明らかにすることにより、アンケート結果の分析を補足することとしたい。

・労働市場における不利

インタビューの対象となった 53 名のうち、23 名（43.3%）が正社員としての就業経験を持っていた。対象者のなかには、重い障がいがあるなど就業が困難な人も含まれていることを考えると、この数は決して少なくない。そして正社員経験のある 23 名のうち、19 名が複数回の転職を経験している。離職あるいは失職の理由は、仕事内容や待遇、人間関係に対する不満のほか、景気悪化や非正規雇用の拡大を背景とする倒産やリストラ、非正規化、さらには「介護離職」など自己責任に結びつけることができないものも少なくない。また、一度の離職や失職によって長期的な困窮に陥ることは稀であり、次の仕事を探し、収入源を確保している実態が明らかとなったが、転職を繰り返すうちに派遣社員やアルバイトなど条件の不利な就業形態へと押しやられていく傾向がみられる。その間、「(仕事は) 何でもやってきた」という発言にみられる通り、それまでの経験や所有している資格と関連が薄い仕事をしたり、多様な業種に従事してきたために仕事の技術が蓄積しなかったりしている。そして最終的には高年齢や持病の悪化により、就労意欲は高いものの、職を得ることが難しくなっていくという変遷をたどるパターンが多い。

それ以外にも、移動手段がないために自宅から徒歩圏内の仕事を探す者や、子どもがいることを理由に正社員として雇ってもらえないシングルマザーなど、やはり労働市場の中でさまざまな不利を抱え、厳しい仕事探しを余儀なくされている者が多い。

・働き手のいない家族

次に、対象者の家族構成に注目することにより、低収入が生活困窮へと結びつく仕組みを考察する。インタビュー結果の中で目を引くのが、未婚や離婚、死別による無配偶者が 44 人（83.0%）と極めて多いことである。無配偶者の大半が単身世帯やひとり親世帯であるが、このような世帯では自分が唯一の働き手となるため、離職や失職がそのまま生活困窮に結びつきやすい。配偶者や成人した子どもと同居している世帯

でも、その配偶者や子どもが障害や病気を抱えていると、やはり世帯内に働き手がないことになる。たとえば、母は体調を崩して働くことができず、娘は精神的な障害を抱えている母子世帯である。働き手が複数いる家庭であれば、たとえば夫が失業したら、妻がパートに出るといったように緊急事態を乗り切ることもできるが、働き手がおらずに家族内で収入の不足を補い合えない世帯は、それだけ貧困に陥りやすいといえるだろう。さらに、離れて暮らす家族・親族がいても、長年疎遠であったり、その家族・親族も困窮していたりすると、支援を求めることが難しいため、セーフティネットとしての機能を家族や親族に期待することはできないことになる。

労働市場におけるさまざまな不利の結果、安定的な収入を確保しにくい状況に置かれたとしても、すべての人が同じように貧困へと陥るわけではない。つまり、一人ひとり家族や資産の状況は異なるため、貧困に陥るリスクは世帯ごとに異なるわけだが、家族内で収入の不足を補い合えなければ、働き手の低収入が世帯の貧困に直結するリスクが高まるといえるだろう。

・身近な相談相手の不在

インタビュー結果からは、生活に困窮する世帯が身近な相談相手を持たず、地域社会から孤立している様子も浮かび上がってきた。後述する「関係性の貧困」である。「困窮について相談できる人はいない」という声が多く寄せられ、中には「困ったときはどうしようもない」「なるようになれと思う」など諦めともとれる声もあった。相談相手として介護福祉士やヘルパーなどの専門職を挙げる人もいたが、親族や友人・知人を頼る人は少なく、地域住民については皆無というべき状況である。自治会の組長を務めた経験を持つなど地域社会の中で何らかの人間関係を形成している世帯もあったが、近隣の住民には相談するどころか、むしろ困窮していることや生活保護を受給していることを知られたくないという回答が多い。

これに対し、フードバンク山梨のスタッフや同じ境遇にある人たちには、自分が生活に困窮していることを開示しても恥ずかしい思いをしたり、疎外されたりすることがない。彼／彼女らにとって、困窮していることを隠す必要がなく、ありのままの自分が受け入れられることの意義は極めて大きいのである。「直接会って話を聴いてもらえるとよい」という要望や、「同じ境遇にある者が集まれる機会が欲しい」「ファームは、皆で集まること自体に価値がある」という声は、彼／彼女らが身近な相談相手や、ありのままの自分でいられる「居場所」を持たないことを裏づけるものといえよう。

以上のように、偶発的なものも含め、いくつかの「不利」が重なり合うようにして起こったとき、人は生活困窮や社会的孤立に陥り、かつ、そこから抜け出しにくい状況に置かれることになる。そして、労働政策や年金政策の「はざま」に落ち込んだ人びとにとって、本来、最後のセーフティネットとなるのが生活保護制度である。しかし、インタビュー対象者の中にはライフラインが止められるほどの厳しい困窮にあえぎながら、生活保護の受給を断念している世帯が多くみられた。その理由をみると、以前申請した際に「糖尿（病）くらいなら働ける」などと言われて福祉事務所に不信

感を持っている場合や、自分は該当しないと思い込み、諦めている場合がある。さらに、生活に困窮している現状をあくまで「自己責任」として捉えているため、就業できる体力や能力がある間は（仮に仕事が見つからないとしても）生活保護を受給すべきではない、と考えている人びともいる。こうした考えは、「人様に迷惑をかけて生きたくない」「働けるので（生活保護の）申請を全く考えていない」といった発言となってあらわれる。しかし、「選り好みしなければ仕事は見つかる」「頑張っただけで、自分の食い扶持くらいはなんとかなる」という前提が崩壊し、かつ、家族や地域社会の相互扶助機能が低下しつつあることを考えると、こうした価値観だけが高度経済成長期から変わらず残存し、現実との乖離が日に日に広がっていることに強い違和感を持たざるを得ない。今回のインタビュー結果は、このような価値観や規範を緩めていくことも、今後、貧困問題に対峙する上で重要な課題となることを強く示しているように思われる。

2. フードバンク山梨の取り組みの意義と今後の展望

アンケート調査およびインタビュー調査の分析結果を踏まえ、フードバンク山梨の取り組みの意義を指摘した上で、今後を展望することとしたい。

・「関係性の貧困」への対応

昨今、貧困には衣食住などの物質的な欠乏に加え、「関係性の貧困」の側面があることが知られている。「関係性の貧困」とは、家族・親族や友人・知人などとの親密な人間関係を喪失したり、そもそも形成されていなかったりする状態を指すものであり、相談をしたり助言を受けたりする人がおらず、社会的に孤立した状態に置かれていることを問題視するものである。

フードバンク山梨の中心活動である食品の宅配は、文字どおり「食」を支援しようとするものであるが、今回のアンケート結果は、フードバンク山梨の活動が「関係性の貧困」にも対応していることを示唆するものであった。具体的には、利用者の81.4%が食品の宅配によって気持ちが前向きになったと答え、また、食品に添えられる手紙も85.6%と8割以上の利用者が好意的に受け止めている。その要因は、食品の宅配やそこに添えられる手紙が利用者に「私たちは決してあなたを見捨てない」というメッセージとして受け止められているからと考えられるが、そうであるならば、フードバンクによる食品支援は単に食の欠乏だけでなく、「関係性の貧困」をも埋め合わせる効果を持っていることになる。フードバンクファーム（中間的就労としての農作業体験）も利用者に人間関係や社会とのつながりを感じてもらうことを狙いとして始められたものであり、フードバンク山梨はまさに「関係性の貧困」への対応を重点課題として捉え、事業を展開してきたといえる。つまり、フードバンク山梨の活動は食の支援を基本戦略に据えるものの、それと連動させながら「関係性の貧困」に真摯に向きあってきた点に特徴があり、この基本方針があったからこそ独自の優れた活動を展開することが可能となったのだと考えられる。

・「見えない貧困」をいかに拾い上げ、支援に結びつけるか

今回のアンケート調査では、フードバンク山梨を利用するようになったきっかけについて、67.8%の人が行政あるいは社会福祉協議会からの紹介と答えたのに対し、「自分で見つけた」と回答したのはわずか5.9%であった。この結果から、2つの事実を読み取ることができる。1つは、行政や社会福祉協議会からの紹介は生活困窮世帯を把握する上で非常に有力なルートであり、今後もこれら専門機関との連携を密にすることが有効であるということである。もう1つは、地域社会の中には専門機関が把握していないような深刻な孤立に陥っている世帯も存在すると考えられるが、専門機関からの紹介が大半を占めるということは、このような地域社会から孤立している世帯はフードバンク山梨にもつながりにくい、ということである。つまり、生活困窮世帯の中でももっとも深刻な状況にある世帯に対し、いかなる支援も行き届いていない可能性があるのだ。実際、「関係性の貧困」の程度が強ければ強いほど、他者から情報を得たり、自ら助けを求めて行動したりすることは難しくなると考えられる。

地域社会とのつながりを持たずに孤立している生活困窮世帯をどのように把握するかは、貧困の深刻化や固定化を防ぐ上でも極めて重要であり、今回のアンケートでも、行政や社会福祉協議会が「見えない貧困」の把握に苦慮していることがわかる。単一の機関や団体が当該地域におけるすべての生活困窮世帯の情報を網羅することは現実的ではないことを考えると、専門機関や民間支援団体、自治会、民生委員、学校、郵便局、小売店など、地域社会のさまざまな主体の間にネットワークを何重にも張り巡らせる作業を積み重ねることにより、ネットワークの網からこぼれ落ちる世帯を少なくしていくことが基本的な戦略となるだろう。

・食料支援の効果の測定

インタビュー調査をみると、食料支援がもたらす効果に応じてフードバンクを利用する世帯を2つに類型化することができる。一つは、一時的な食料支援が生活の立て直しに結びついたケースである。今回の調査結果でも、食料支援によって生活保護の「手前」で生活を再建することができた事例や、生活保護の受給が決定されるまでの「空白期間」を乗り切ることができた事例など、食料支援が有効に機能しているケースがいくつも確認された。一方、食料支援の継続を求める声が多く寄せられたように、食料支援の期間内ではなかなか生活を立て直すことができないケースも少なくない。食料支援によって「当座をしのぐ」ことはできても、困窮に陥った抜本的な原因が解決されない限り、食料支援が終了すると再びもとの生活に戻るようになってしまうのである。

このように短期間の食料支援だけでは困窮から抜け出せない世帯に対しては、食料支援と並行し、他の専門機関・団体によってさまざまな専門的支援が継続的に提供されることが不可欠となる。どのような支援が必要になるかは個別具体的なケースによって当然に異なるが、フードバンク山梨と専門機関・団体とが有機的な連携のもとできめ細かく対応するためには、アセスメントやモニタリングの際に支援の効果のある程度「予測」し、それに基づいて支援方針が決定・修正されなければならない。つま

り，ある支援（の組み合わせ）が効果を持ち得るのはどのような条件においてかが明らかになっていなければ，質の高いアセスメントやモニタリングをすることは難しくなる。食料支援が終了した世帯の生活状況を追跡調査するなどデータを蓄積し，食料支援の効果を実証的に明らかにすることが，今後，他の専門機関および民間支援団体等との連携を強化する上で重要になるだろう。

本書より転載・複製する場合には、NPO法人フードバンク山梨の許可を得てください。

平成24年度 セーフティネット支援対策等事業費補助金 社会福祉推進事業

「山梨県内の生活困窮者の早期把握及び、行政等との協働による新たなセーフティネット
構築に関する調査・研究事業」
報告書

発行日 2013年3月

発行者 NPO法人フードバンク山梨

〒400-0306 南アルプス市小笠原317 サンシャインビル1F

TEL/FAX 055-282-8798

E-mail info@fbyama.com

URL www.fbyama.com

